SuperStream

SuperStream-NX
移行支援ツールおよび、消費税の達人連携機能、製品ロードマップに関する説明会

スーパーストリーム株式会社

・名古屋　2018/1/23（火）
・大　阪　2018/1/24（水）
・東　京　2018/1/26（金）

AGENDA

	時間	内容
第一部	14:00～15:10	・SuperStream-NX 移行支援ツールについて 対象モジュール：統合会計、手形管理、固定資産管理、人事給与 - 対応バージョン - 移行支援ツール使用時の注意点 - サポートに多く寄せられる内容のご紹介 企画開発本部 プロダクト開発部 開発１課　担当課長　熊島 茂 企画開発本部 プロダクト開発部 開発１課　秋山 圭輔
休　憩		
第二部	15:20～16:00	・SuperStream-NX 製品ロードマップのご紹介 - SuperStream-NX 2017-06-01版（Ver.2.0） 『消費税の達人』連携機能について - SuperStream-NX 2018-06-01版（Ver.2.1）概要について 取締役　企画開発本部長　山田 誠 商品企画部　部長　瀧 頼子
質疑応答	16:00～16:30	

©SuperStream Inc. All rights reserved

01

SuperStream-NX
移行支援ツールについて

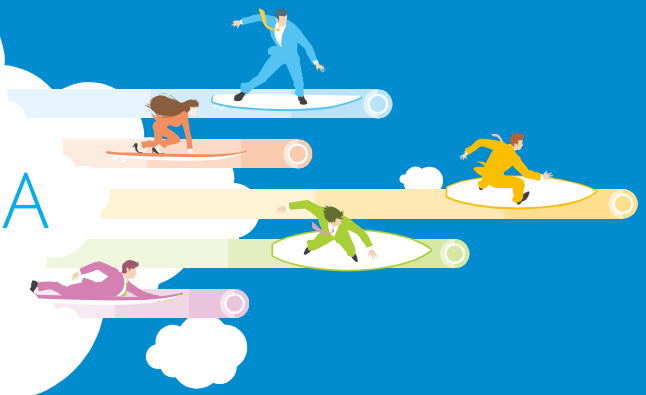
スーパーストリーム株式会社

企画開発本部 プロダクト開発部
開発１課　担当課長　熊島 茂

企画開発本部 プロダクト開発部
開発１課　　秋山 圭輔

©SuperStream Inc. All rights reserved.

AGENDA



1．SuperStream-NX 統合会計

2．SuperStream-NX 手形管理

3．SuperStream-NX 固定資産管理

4．SuperStream-NX 人事給与ソリューション

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX
統合会計

・GL：財務会計・管理会計
・AP：支払管理・経費精算管理
・AR：債権管理

Ⅰ.統合会計 移行支援ツールの概要

1.対象プロダクト
2.前提条件
3.プロダクト別実行方式
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.統合会計移行支援ツールの概要
1.対象プロダクト

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
CORE 一般会計	GL／AP／AR 統合会計	●
AP+ 支払管理		
AR+ 債権管理		
field 分散入力		×
FA+ 固定資産・リース資産	FA／LM 固定資産・リース資産	●
PN+ 手形管理	PN 手形管理	●
スーパーインターフェース	スーパーインターフェース	×
Planning 経営分析	GM グループ経営管理	×
	GM Mobile GMモバイルOP	-
Connect データ連携	Connect システム連携ツール	×
	Cloud Connecter クラウド接続OP	-

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
HR+ 人事管理	HR+ 人事管理	●
PR+ 給与管理	PR+ 給与管理	●
RE 退職金管理	RE 退職金管理	●
field/HR 人事諸届・照会	field/HR 人事諸届・照会	●
	CP 建設仮勘定OP	-
	ER 電債OP	-
	EV 証憑管理OP	-
	EV 証憑管理e文章対応OP	-
	factoring ファクタリングOP	-

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.統合会計移行支援ツールの概要
2.前提条件

COREシリーズ → **SuperStream-NXシリーズ**

移行元バージョン：SP20170701版

- 基幹会計システム
- 支払管理システム
- 債権管理システム

移行先バージョン：NX2017-06-01版

- 統合会計
  財務会計・管理会計、
  支払管理・経費精算管理、債権管理

<u>移行支援ツールの前提</u>

- SuperStream-NXシリーズへの移行を行う場合、上記のバージョンが移行対象になります
  COREシリーズは上記バージョンまでバージョンアップが必要です
- 移行支援ツールはOracleデータベース上での稼働が前提となります
- CORE/AP+/AR+は月次更新済みの月を移行対象とします
- ビュー・ワーク・退避データ・バックアップ・ログなどは移行対象外とします
- アドオンテーブルは移行対象外となります
- 移行データについて、コード系の項目にNX統合会計の禁則文字（カナ）が含まれていた場合、移行後の後続する処理でエラーとなる場合があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.統合会計移行支援ツールの概要
3.プロダクト別実行方式

各プロダクトごとに移行支援ツールの実行方式が異なります

■プロダクト別実行方式一覧

プロダクト	種類	実行方式
CORE(基幹会計システム)	**マスタ・データ**	**【1】DB to DB**
AP+(支払管理システム)	**マスタ・データ**	**【1】DB to DB**
AR+(債権管理システム)	**マスタ・データ**	**【1】DB to DB**
FA+(固定資産管理システム)	固定資産・リースデータ	【1】DB to DB
	コード名称マスタ	【2】パターンファイル
HR+(人事管理システム)	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
PR+(給与管理システム	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
field/HR(人事諸届照会システム)	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
人事・給与共通	マイナンバーデータ	【1】DB to DB

※ DB to DB

・DB to DBとは、*SuperStream*-COREとSuperStream-NXのデータベースをデータベースリンクを用いて、データ移行を実施する実行方式です

・DB to DBの処理はPL/SQLで作成されているため、 *SuperStream*-COREとSuperStream-NX のデータベースに直接データの更新を実施します

※ 固定資産の移行支援ツール

・固定資産の移行支援ツールは2種類あり、DB to DBの移行支援ツールを利用して固定資産・リース契約・物件などのデータを移行します
またパターンファイルによる移行支援ツールを利用して、償却情報や申告先マスタなどのコード名称マスタを移行します

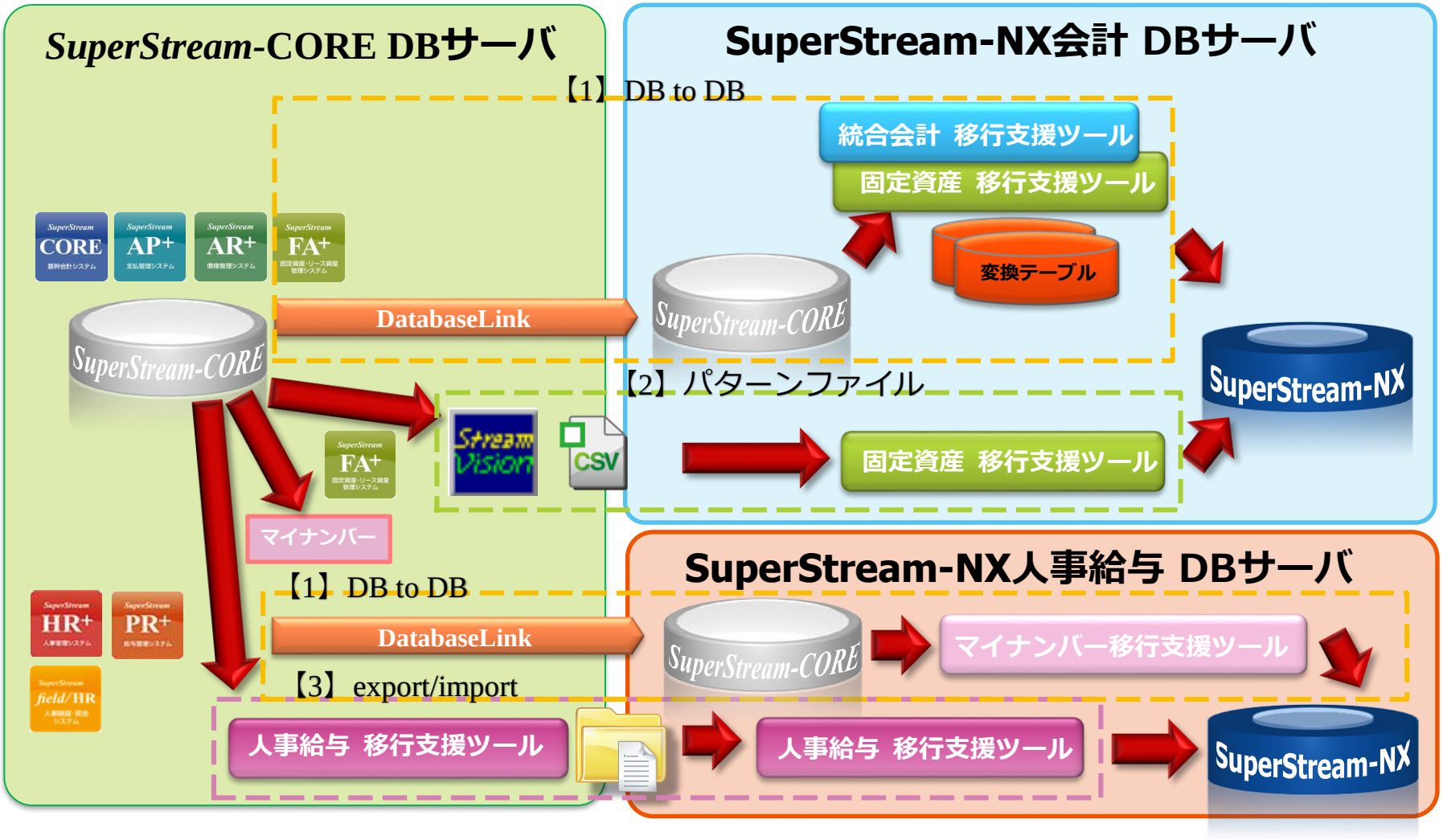
※ 人事給与の移行

・人事給与の移行は、別インスタンス（別サーバ）に移行するexport/import及びDB to DB方式と、現在の環境をそのまま移行する
アップグレード方式の2つがあります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.統合会計移行支援ツールの概要
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

【移行処理の全体の流れ】



©SuperStream Inc. All rights reserved.

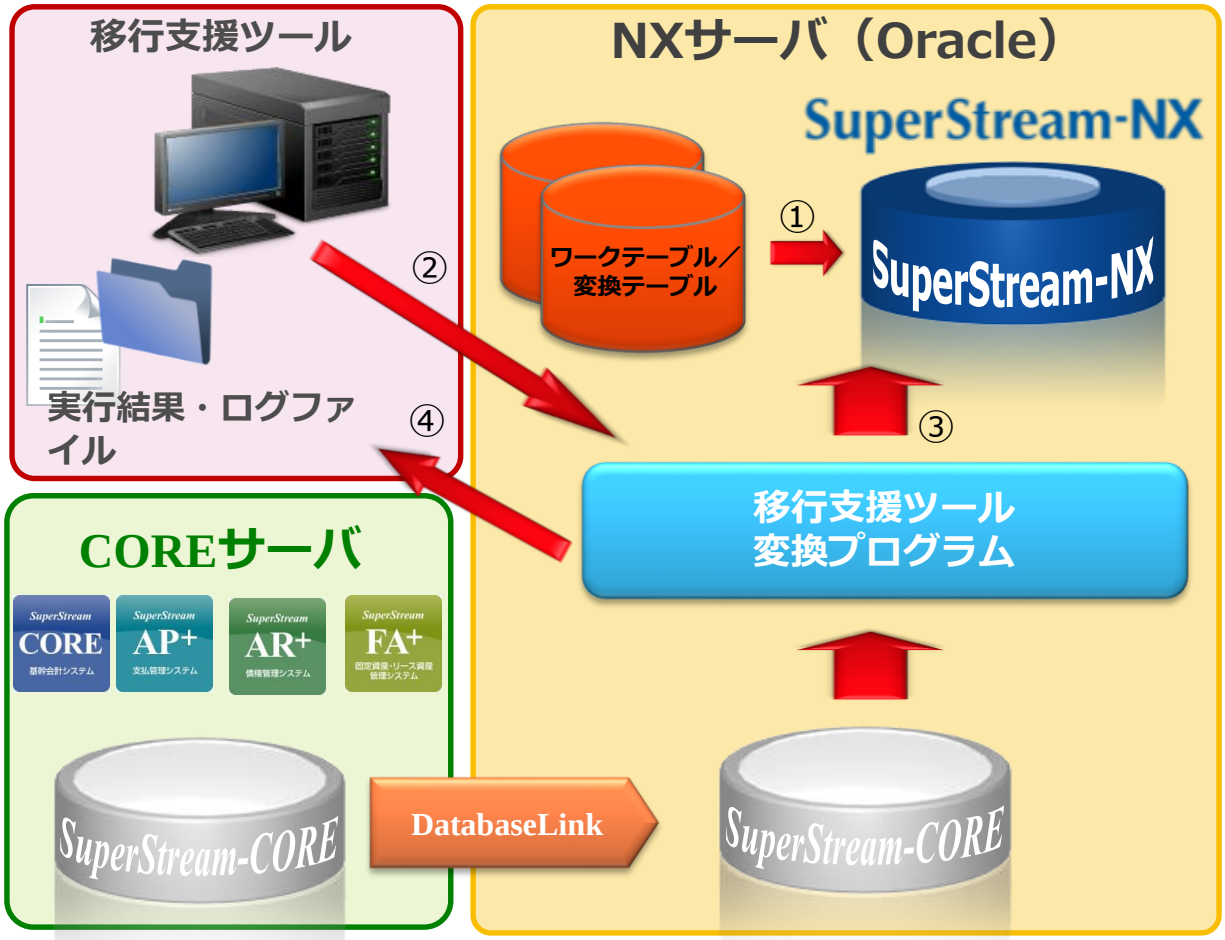
Ⅰ.統合会計移行支援ツールの概要
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

【 DB to DBによる移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①変換テーブル事前登録
②画面より移行処理指示
③移行支援ツールによって
　COREのデータをNXの
　データへ移行
④画面およびログにて移行結果
　を確認

<u>変換テーブル</u>
　CORE⇒NX間の項目相違があった
　場合に、移行時に変換する条件等
　を格納します



©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順

はじめに

1.環境構築手順

2.移行ツールの実行

- 2-1.変換マスタ設定
- 2-2.事前チェック
- 2-3.移行処理
- 2-4.事後チェック
- 2-5.バッチ形式

3.動作確認および本番化

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
はじめに

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

④NXの新会社セットアップ

移行支援ツールの実行

⑤変換テーブルの設定

⑥事前作業

⑦移行支援ツールの実行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
1.環境構築手順

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

④NXの新会社セットアップ

移行支援ツールの実行

⑤変換テーブルの設定

⑥事前作業

⑦移行支援ツールの実行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
1.環境構築手順

環境構築作業の手順

移行支援ツールを実行するためには、NX統合会計のセットアップや新会社セットアップを行う必要があります
環境構築作業の手順を、以下に説明します

ステップ1 NXのインストール

DBサーバーにNXを新規にインストールを行います

※詳しくは最新の製品マニュアル「インフラガイド_2017-06-01.pdf」をご覧ください

ステップ2 移行支援ツール環境構築

移行支援ツールを実行する環境をバッチを使用して構築します（データベースリンク設定など）

ステップ3 移行支援ツールインストール

移行支援ツールを実行環境にコピーします

ステップ4 NX新会社セットアップ

移行先の会社をNXに作成します

※詳しくは最新の製品マニュアル「システム設定Ⅰ_2017-06-01.pdf」の「3.3.2 新会社情報の登録」をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

④NXの新会社セットアップ

移行支援ツールの実行

⑤変換テーブルの設定

⑥事前作業

⑦移行支援ツールの実行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールの実行の手順

移行支援ツールを利用したデータ移行では、COREシリーズとNXシリーズで機能差異がある事に伴う事前・事後作業が必要になります。また、NXの新規機能の設定などを追加作業として行います
移行作業の手順を、以下に説明します
移行支援ツールは、画面から移行元（CORE ）会社コードを指定して１会社ごとに実行する他に、バッチファイルを作成することにより、複数会社を一度に実行することも可能です

ステップ５
変換テーブルの設定

移行支援ツールを使用し、COREのマスタとNXのマスタの変換設定を行います

ステップ６
事前作業

***SuperStream*-CORE**にて、**移行支援ツールを実行する前に、事前の作業を行います**

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

ステップ7
移行支援ツールの実行

- **ツール事前チェック**
  月次更新済みか、仕訳未作成データがないかなどのチェックを行います
- **移行支援ツールの実行**
  移行支援ツールにより、残高マスタ、明細データおよびマスタデータを移行します
- **ツール事後チェック**
  システム上で移行結果の件数や金額の比較を行います

ステップ8
事後作業

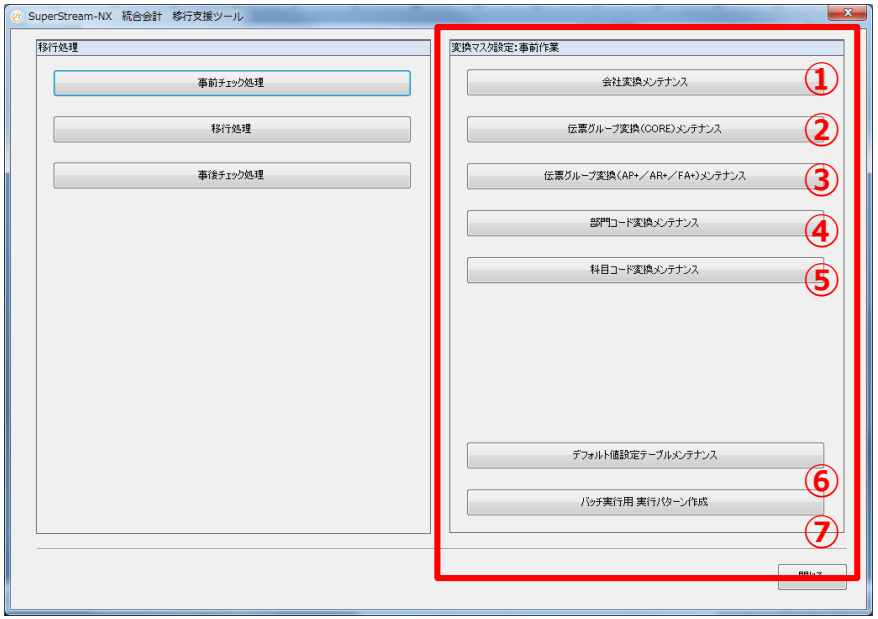
SuperStream-NXにて、移行支援ツールを実行した後に、事後の作業を行います

ステップ9
追加作業

SuperStream-NXにて、移行支援ツールを実行した後に、固定値で移行されているマスタの変更および新規機能の追加設定を行います

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-1.変換マスタの設定



【メニュー画面】

・作業を行いたいボタン選択し、押下してください

各ボタン説明

①会社変換メンテナンス

：会社変換メンテナンス画面を起動します

②伝票グループ変換（CORE）メンテナンス

：伝票グループ変換（CORE）メンテナンス画面を起動します

③伝票グループ変換（AP+／AR+／FA+）メンテナンス

：伝票グループ変換（AP+／AR+／FA+）メンテナンス画面を起動します

④部門コード変換メンテナンス

：部門コード変換メンテナンス画面を起動します

⑤科目コード変換メンテナンス

：部門コード変換メンテナンス画面を起動します

⑥デフォルト値設定テーブルメンテナンス

：デフォルト値設定テーブルメンテナンス画面を起動します

⑦バッチ実行用 実行パターン作成

：バッチ実行用 実行パターン作成画面を起動します

・終了したい場合は、「閉じる」ボタンを押下してください

移行支援ツールが終了します

※次頁より、各画面に関しての詳細な操作説明を記載します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-1.変換マスタの設定

変換マスタ設定

SuperStream-CORE（移行元）からSuperStream-NX（移行先）へのデータ移行を実施する際に、変換を必要とする設定を事前に登録します

変換マスタ	必須－任意	備考
会社変換マスタ	必須	COREとNXの会社コードの紐付けを設定します
伝票グループ変換（CORE）マスタ	必須	伝票グループコードの紐付けを設定します
伝票グループ変換（AP+／AR+／FA+）マスタ	任意	プロダクトごとの伝票グループの紐付けを設定します
部門コード変換マスタ	任意	組織分類を跨いで同じ部門コードを使用している場合で部門コードを変換する場合に設定します
科目コード変換マスタ	任意	NXで未使用の内部コードをCOREで利用している場合にNXで使用可能な内部コードを設定します
デフォルト値設定テーブルマスタ	必須	AP+が未使用の場合や、AP+を使用していても、COREにしか登録されていない社員マスタを移行する場合にNXで使用する支払管理に関するデフォルト値を設定します 上記に当てはまらない場合もこのテーブルは必ず設定してください AP+が導入されていてAP+会社方針マスタの「期日振込依頼書・FB合算区分」が”合算する”の場合にNXで使用する合算用の支払方法を設定します
バッチ実行用実行パターン	任意	バッチ形式にて移行処理を実施する場合に移行対象の会社や処理グループを設定します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-1.変換マスタの設定

変換マスタ設定

1-1.***SuperStream*-CORE**（移行元）からSuperStream-NX（移行先）へのデータ移行を実施する際に、変換を必要とする設定を事前に登録します

会社変換メンテナンス《必須作業》

・COREの会社コードを、事前にNXの新会社セットアップにて作成した会社コードと紐付けます
また、移行する会社順序を設定します
・導入会計期・月の変更も行えます

伝票グループ変換（CORE）メンテナンス《必須作業》

・移行元の伝票グループコードと移行先の伝票グループコードの紐付けを行います

伝票グループ変換（AP+／AR+／FA+）メンテナンス《COREシリーズ導入プロダクト別任意作業》

・プロダクトごとの移行元の伝票グループコードと移行先の伝票グループコードの紐付けを行います
・伝票グループ変換（AP+／AR+／FA+）メンテナンスは、 ***SuperStream*-CORE**（**AP+**）、***SuperStream*-CORE**（**AR+**）の導入状況に合わせ、設定が必要になります。未導入の場合は不要です

©SuperStream Inc. All rights reserved.

部門コード変換メンテナンス

・移行元の組織分類コード、部門コードと移行先の部門コードの紐付けを行います
本作業は対象データがある場合のみであり、任意の作業になります

【部門コード変換テーブルに登録が必要な場合】
組織分類を跨いで同じ部門コード（仕訳不可の集計階層部門）を別の意味で使用している場合、
部門名称、関係終了日が予期しない設定になる場合があるため、変換テーブルに設定が必要になります

例：*SuperStream*-CORE（移行元）で以下の組織データが登録されている場合

「分類0001」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ営業部」	「2001/1/1～2012/12/31」
「分類0001」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ営業本部」	「2013/1/1～2999/12/31」
「分類1000」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ商品」	「1900/1/1～2999/12/31」
「分類2000」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ地方」	「1900/1/1～2999/12/31」

移行支援ツール実行後、NXの会計部門／部門名称マスタには下記内容だけが登録されます
（分類コード1000、2000の登録内容は移行されない）

「分類0001」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ営業部」	「2001/1/1～2012/12/31」
「分類0001」	「部門コード＝A01」	「部門名称＝Ａ営業本部」	「2013/1/1～2999/12/31」

「Ａ商品」、「Ａ地方」の情報をNXに移行したい場合、部門コード変換テーブルでは、次のように登録します
例：分類1000、部門コード＝A01　→　NXの部門コード＝B01
分類2000、部門コード＝A01　→　NXの部門コード＝C01
新規の部門コードと紐付けを実施してください
移行支援ツールで部門マスタに上記B01および、C01を登録します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-1.変換マスタの設定

科目コード変換メンテナンス《対象データがある場合の作業》

移行先で未使用の内部コードを、移行元で利用している科目コードに対して紐付けを行います
本作業は対象データがある場合のみ必要な作業であり、任意の作業になります
以下、SuperStream-NXでは未使用の***SuperStream*-CORE**内部コード一覧になります
※91999, 93999, 95999, 96999, 98599の５科目は集計科目のため、科目コード変換メンテナンスの設定対象外となります

【NX未使用科目内部コード一覧表】

内部コード	科目名称	内部コード	科目名称
30980	資産除去債務	92100	利益準備金
34500	資産除去債務	92200	配当金
57510	除去債務利息費用	92300	役員賞与金
57520	除去債務履行差額	93999	利益処分項目計
72410	除去債務利息費用	94100	特別償却準備金
72420	除去債務履行差額	94200	別途積立金
91100	特別償却準備金取崩額	95999	任意積立金計
91110	固定資産圧縮積立金取崩高	96999	利益処分額計
91200	別途積立金取崩額	98500	配当金
91999	任意積立金取崩額計	98510	その他
92000	その他資本剰余金取崩額	98599	その他資本剰余
92020	資本準備金取崩額		

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-1.変換マスタの設定

デフォルト値設定テーブルメンテナンス《*SuperStream*-CORE（AP+）に関する設定作業》

・***SuperStream*-CORE（AP+）**未導入の場合や、 AP+を使用していても、COREにしか登録されていない社員マスタを移行するため、SuperStream-NX側で使用する支払管理に関するデフォルト値を設定します
必ず設定してください
AP+で支払管理マスタが設定されている場合は、登録済の支払管理コードを設定します
AP+で支払内部コード＝現金の支払方法が登録されている場合は、登録済の支払方法コードを設定します

・***SuperStream*-CORE（AP+）**が導入されており、AP+会社方針マスタの「期日振込依頼書・FB合算区分」が”合算する”の場合、 SuperStream-NX側で使用するデフォルト値を設定します
※但し、 AP+会社方針マスタの「期日振込依頼書・FB合算区分」が”合算しない”の場合でも、過去に”合算する”での運用をされていた場合、設定が必要となります

バッチ実行用 実行パターン作成《バッチ形式ご利用時必須作業》

・バッチ形式にて移行処理を実施する場合の、移行対象の会社や処理グループの各設定を実施します

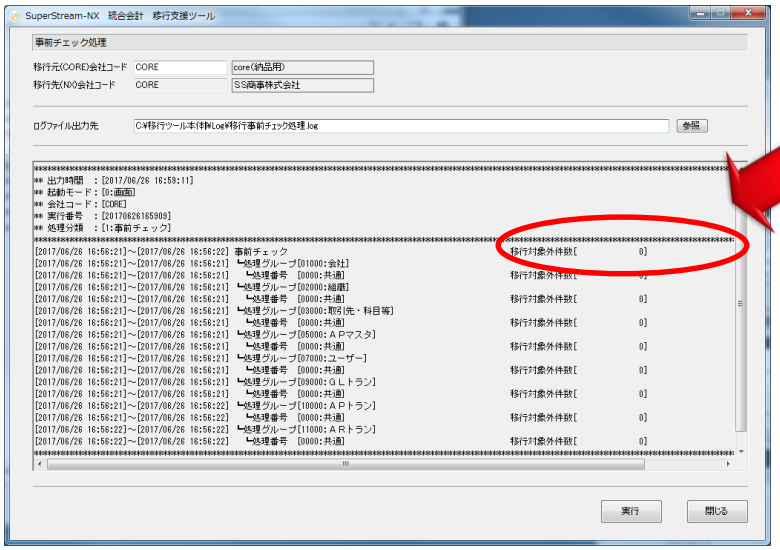
©SuperStream Inc. All rights reserved.

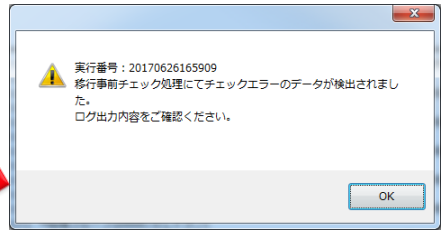
Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-2.事前チェック

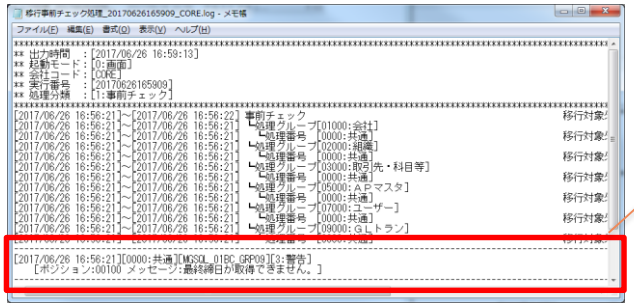
【移行事前チェック】

移行前にCOREのデータベースに対して、移行のための事前準備が済んでいるかチェックを行います

- 移行事前チェック実行後、問題となる箇所について、エラー件数を表示します
- エラーの詳細は、ログファイルを確認します
- データ不整合のチェックは行いません







エラーの内容を
ログで確認できます

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-2.事前チェック

事前チェック処理・概要

・移行支援システムは、 ***SuperStream*-CORE**側で、月次締済のデータ移行が前提となります
・事前チェックでは、 ***SuperStream*-CORE**側の以下の内容をチェックし結果を出力します

***SuperStream*-CORE**

・IFRS運用時、IFRS会社でのみ存在しているマスタや、更新されているマスタが存在していないかをチェックします
※移行支援ツールでは、IFRS会社のマスタは移行されませんので、事前にマスタ連携を実施して同期をとってください
・IFRS運用時、日本基準会社、IFRS会社それぞれの伝票グループ変換テーブルのNXグループコードが重複していないかをチェックします
※移行支援ツールでは、日本基準会社の伝票グループは、制度遡及区分「J:日本」または「1:遡及１」で移行します
IFRS会社の伝票グループは、制度遡及区分「I:IFRS」または「2:遡及２」で移行します
IFRS運用をしていない(共通会社)場合は、伝票グループは制度遡及区分「C:共通」または「3:遡及３」で移行します
・月次締日以降に起票された伝票がないかをチェックします
※月次締日以降に起票された伝票が存在した場合、ログに伝票情報が出力されます
・NXに存在しない科目内部コードを保持するデータが科目マスタに存在する場合に、科目コード変換テーブルに対象の内部コードが存在するかをチェックします
・AP+未導入会社、または、AP+導入済会社でも、支払方法マスタが0件であり、デフォルト値設定テーブルの支払方法コード１が設定されていない場合、エラーになります
また、AP+会社方針マスタの期日振替依頼書・FB合算区分が「1:合算して作成」の場合、デフォルト値設定テーブルの支払方法コード２(一括振込依頼書合算用)と支払方法コード３(電送合算用)が設定されていない場合、エラーになります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-2.事前チェック

・部門コード変換テーブルのNX部門コードの桁数をチェックします
NX部門コードの桁数が、COREのコード利用情報マスタの部門コード桁数と一致しない場合、
エラーとします

***SuperStream*-CORE (AP+)**

・支払データにて、FB未作成データがないかをチェックします
支払データ内に支払方法が「電送」のFB未作成データがある場合、エラーになります
支払確定済の支払データは、移行前にFBデータ作成処理を完了してください
・債務計上伝票で、締次残高更新済み、かつ、支払依頼未処理のデータがないかをチェックします
チェックでエラーになった場合は、締次終了入力、支払依頼処理を実施してください
・仕訳が作成されていないデータがないか、または、確定されていないデータがないかチェックします
チェックでエラーになった場合は、仕訳インターフェース処理、または、仕訳インターフェース確定を
実施してください

***SuperStream*-CORE (AR+)**

・締処理未実施の債権計上伝票が存在するかをチェックします
※移行支援ツールでは、未実施の締日がある場合でも、移行処理を実施できます
未実施の伝票についてはログを参照してください（未実施伝票は移行対象外です）
・入金予定を手動で分割した場合に、３分割以上の未消込伝票が存在しないかをチェックします
※NXでは入金予定の分割は２分割までとなっているため、移行する前に分割の取り消しで２分割までの状態へ
変更してください

この事前チェック処理で、最終締日をツール内に保持します
一度、伝票を移行した後、CORE(AP+、AR+)の最終月次更新月が変わった場合は、再度、事前チェック処理を実施してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

【移行事前チェック】

機能の結果は、画面だけでなく実行時に出力されるログファイルを参照することで、より詳細な確認が可能です

事前チェックエラー件数表示部（件数）　画面・ログ共通

```
[2014/05/13 20:30:55]～[2014/05/13 20:30:55]  ┗処理グループ[07000:ユーザー]
[2014/05/13 20:30:55]～[2014/05/13 20:30:55]    ┗処理番号  [0000:共通]                    移行対象外件数[          0]
[2014/05/13 20:30:55]～[2014/05/13 20:30:56]  ┗処理グループ[09000:ＧＬトラン]
[2014/05/13 20:30:55]～[2014/05/13 20:30:56]    ┗処理番号  [0000:共通]                    移行対象外件数[          0]
[2014/05/13 20:30:56]～[2014/05/13 20:30:56]  ┗処理グループ[10000:ＡＰトラン]
[2014/05/13 20:30:56]～[2014/05/13 20:30:56]    ┗処理番号  [0000:共通]                    移行対象外件数[        158]
```

移行対象外件数があれば実行時ログを確認します。

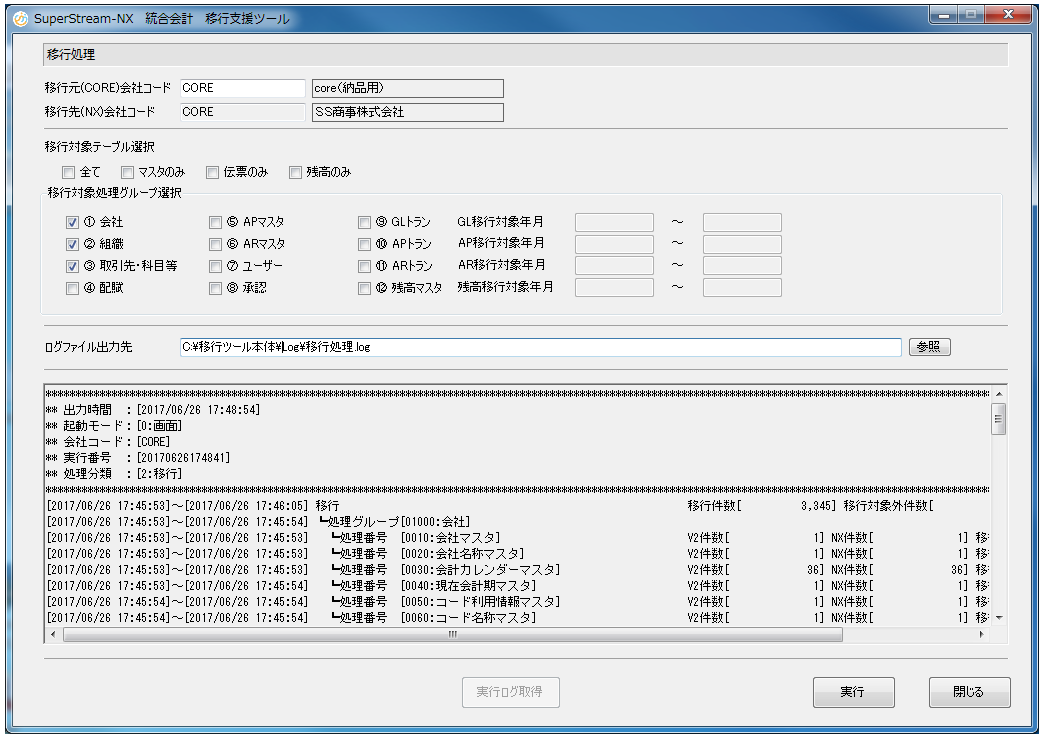
事前チェックエラー内容表示部　ログのみ

```
[2014/05/13 20:30:56][0000:共通][MGSQL_01BC_GRP10][1:エラー]
    [ポジション:40210 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[支払済伝票見出しトラン(APSHZTRN)] 伝票区分[12] グループコード[30] 伝票番号[00000003] 伝票日付[2014/02/18]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[30] 伝票番号[00000011] 伝票日付[2013/03/31]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[30] 伝票番号[00000001] 伝票日付[2014/02/18]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[30] 伝票番号[00000005] 伝票日付[2013/03/29]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[30] 伝票番号[00000001] 伝票日付[2014/05/01]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[40] 伝票番号[00000001] 伝票日付[2013/03/25]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[30] 伝票番号[00000007] 伝票日付[2013/03/26]]
    [ポジション:50110 メッセージ:未処理のデータが存在しています。 テーブル名[債務計上見出しトラン(APSKHTRN)] 伝票区分[22] グループコード[40] 伝票番号[00000002] 伝票日付[2013/04/01]]
```

事前チェックでのエラー内容を確認することができます。
エラー内容に応じて、対応してください。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-3.移行処理

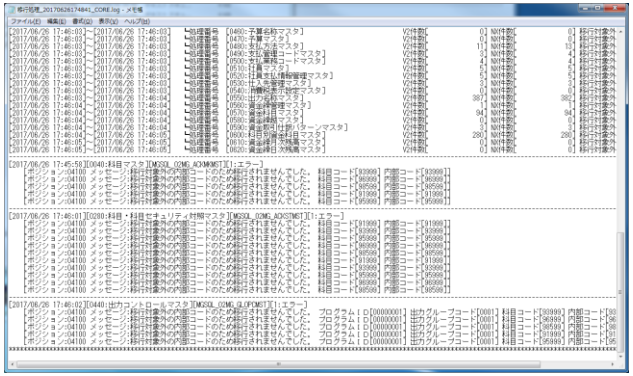


【移行処理】画面

<実行後の画面イメージ>

・移行処理にて移行対象外のデータがある場合、処理結果表示エリアに移行対象外件数が表示されます

「ログファイル出力先」にて指定したログファイルをメモ帳などで開いて、エラーの内容を確認し、対応してください



・終了したい場合は、「閉じる」ボタンを押下してください
本画面を終了し、メニュー画面へ戻ります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-3.移行処理

移行処理・概要

・画面で指定した処理グループに属するテーブルについて、データの移行を実施します
※処理グループに属するテーブルにつきましては、次頁に記載します

・移行処理では、 ***SuperStream*-CORE**側のデータをSuperStream-NXのテーブルレイアウトに変換して移行します
※詳細につきましては、「ＤＢ項目比較表_統合会計.xls 」を参照してください

・移行支援ツールは、 ***SuperStream*-CORE**側の月次締済の会計月度までのデータが移行対象となります

○マスタ系テーブルの移行について
・マスタ系テーブルの移行では、全件一括移行・一括コミットを行います

○トラン系テーブルの移行について
・トラン系テーブルの移行では、月単位でのデータ移行・コミットを行います
・遡及仕訳伝票の移行では、期間指定をしない場合、導入会計期－1期のデータから移行します
・トラン移行状況（MGTRNSTS）を参照することで、エラーが発生した期間を確認することができます

©SuperStream Inc. All rights reserved.

移行処理・注意事項

＜共通＞

○移行処理でエラーがあった場合

・移行処理にてエラーになったデータは、NXに移行されません

・処理結果表示エリアにエラー件数が表示された場合は、出力されたログファイルを参照し、変換テーブルのデータ補正等の処理を行ってください

○伝票発番単位を「年単位」で運用している場合

・期中に伝票を移行する場合（3月末決算の会社が、4月~9月の伝票を移行し、10月移行はNXで起票する場合など）、伝票グループを「移行伝票」と「NXによる起票伝票」で共通のものを使用すると伝票番号が重複します
NXによる伝票の起票を行う場合には、「移行伝票」とは別の伝票グループをNXで登録し使用することで、伝票番号の重複を回避できます

＜*SuperStream*-CORE＞

・IFRS運用時、IFRS会社のマスタは移行されません　※日本基準会社のマスタのみ移行されます

＜*SuperStream*-CORE (AP+)＞

・仮払申請伝票・仮払精算伝票・経費精算伝票につきましては、支払情報が2件ある場合、1件に集約して移行しております

・移行後の債務伝票に対して赤伝を起票することはできません
赤伝を起票する伝票がある場合、CORE側で事前に赤伝処理を行ってください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-3.移行処理

＜*SuperStream*-CORE (AR+)＞

・入金伝票・消込伝票の赤伝票・赤伝の元伝票につきましては、移行対象外としております
・入金明細が複数行存在する場合、1行に集約して移行します
・移行後の債権伝票に対して赤伝を起票することはできません
　赤伝を起票する伝票がある場合、CORE側で事前に赤伝処理を行ってください

移行処理・補足

○残高マスタおよび取引先・社員残高マスタの期首残高の移行について

・範囲指定での期首残高の移行
残高移行対象年月Fromから残高移行対象年月Toの範囲内に、会計月度の１月度を含めるように期間を指定し移行を行った場合、範囲内の１月度と同じ会計年度の期首残高の移行が行われます

例）決算日が3/31で、2013年度の残高を移行する場合
　　残高移行対象年月：2013/04 ～ 2014/03（移行支援ツール画面での指定）
　　移行結果：2013年度の期首残高と1月度～12月度の残高が移行されます

・期首残高のみの移行
残高移行対象年月の月に “00” を指定することで、会計年度の期首残高のみの移行を行うことができます　※ただし、同一年での指定のみ有効となります

例）決算日が3/31で、2014年度の期首残高のみを移行する場合
　　残高移行対象年月：2014/00 ～ 2014/00 （移行支援ツール画面での指定）
　　移行結果：2014年度の期首残高のみ移行されます

©SuperStream Inc. All rights reserved.

【移行処理】

機能の結果は、画面だけでなく実行時に出力されるログファイルを参照することで、より詳細な確認が可能です

移行件数表示部（件数）　画面・ログ共通

```
[2014/05/13 18:16:32]～[2014/05/13 18:16:32]　└処理番号　[0040:科目マスタ]　V2件数[　325] NX件数[　318] 移行対象外件数[　7]
[2014/05/13 18:16:32]～[2014/05/13 18:16:32]　└処理番号　[0050:科目名称マスタ]　V2件数[　325] NX件数[　318] 移行対象外件数[　0]
[2014/05/13 18:16:32]～[2014/05/13 18:16:32]　└処理番号　[0060:補助科目マスタ]　V2件数[　111] NX件数[　111] 移行対象外件数[　0]
[2014/05/13 18:16:32]～[2014/05/13 18:16:32]　└処理番号　[0070:補助科目名称マスタ]　V2件数[　111] NX件数[　111] 移行対象外件数[　0]
```

移行対象外件数があれば実行時ログを確認します。

月別トラン移行件数表示部（件数）　画面・ログ共通

```
[2014/05/13 18:18:40][0010:仕訳伝票ヘッダトラン][MGSQL_02MG_GLSWHTRN][4:インフォメーション（画面にも出力）]
    [処理年月[2013/04]の移行が完了しました。 累計移行件数[　0]]
    [処理年月[2013/05]の移行が完了しました。 累計移行件数[　0]]
    [処理年月[2013/06]の移行が完了しました。 累計移行件数[　3]]
    [処理年月[2013/07]の移行が完了しました。 累計移行件数[　47]]
    [処理年月[2013/08]の移行が完了しました。 累計移行件数[　55]]
    [処理年月[2013/09]の移行が完了しました。 累計移行件数[　68]]
```

トラン系テーブルはどこまで移行が完了したか、何件移行したかを処理年月単位で確認することができます。処理中に進捗状況を確認するには、「実行ログ取得」ボタンを押下してください。

移行内容チェック部　ログのみ

```
[2014/05/13 18:16:32][0040:科目マスタ][MGSQL_02MG_ACKMKMST][1:エラー]
    [ポジション:04100 メッセージ:移行対象外の内部コードのため移行されませんでした。 科目コード[00910] 内部コード[95999]]
    [ポジション:04100 メッセージ:移行対象外の内部コードのため移行されませんでした。 科目コード[00920] 内部コード[96999]]
    [ポジション:04100 メッセージ:移行対象外の内部コードのため移行されませんでした。 科目コード[00890] 内部コード[91999]]
    [ポジション:04100 メッセージ:移行対象外の内部コードのため移行されませんでした。 科目コード[00940] 内部コード[98599]]
    [ポジション:04100 メッセージ:移行対象外の内部コードのため移行されませんでした。 科目コード[00900] 内部コード[93999]]
    [ポジション:04300 メッセージ:移行対象外の利益区分[1:ＰＬ利益科目]のため移行されませんでした。 科目コード[U0001] 内部コード[79999]]
    [ポジション:04300 メッセージ:移行対象外の利益区分[1:ＰＬ利益科目]のため移行されませんでした。 科目コード[U0002] 内部コード[79999]]
```

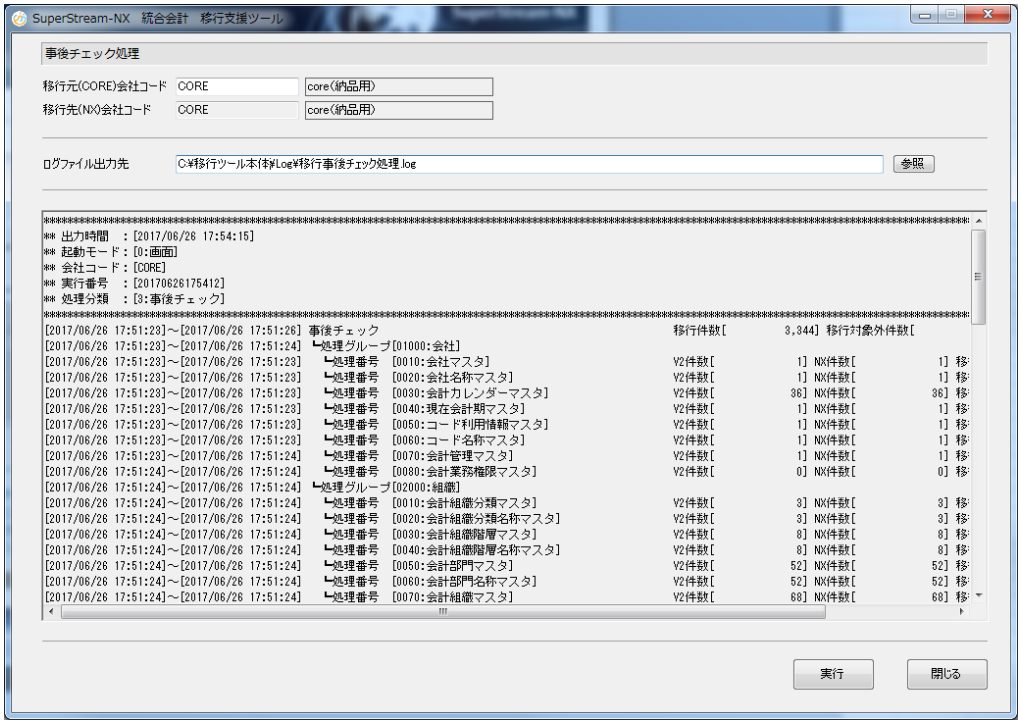
移行処理でのエラー内容と、移行対象外となったデータを確認することができます。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-4.事後チェック

【移行事後チェック】

マスタの件数比較、残高や伝票の金額比較などを実施します



【チェック方法一覧表】

プロダクト	対象	チェック方法
CORE	マスタ	件数比較
	残高	金額比較
	伝票	件数比較
AP+	マスタ	件数比較
	伝票	件数比較・金額比較
AR+	マスタ	件数比較
	伝票	金額比較

・移行事後チェック実行後、マスタや伝票について件数や金額を比較し、チェック結果を表示します
・チェック結果は、正常移行件数とエラー件数のほか、テーブル構造の差異を考慮したV2件数とNX件数を表示します
・エラー（件数の差異）が発生した場合、ログファイルを参照することで詳細な内容を確認できます
・金額は、OK、NGの判定を行っていますので、ログファイルを参照して、NGの内容を確認してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

【移行事後チェック】
機能の結果は、画面だけでなく実行時に出力されるログファイルを参照することで、
より詳細な確認が可能です

マスタチェック部（件数）　画面・ログ共通

```
[2014/05/13 20:19:04]～[2014/05/13 20:19:04]　└処理番号　[0040:科目マスタ]　V2件数[　313] NX件数[　306] 移行対象外件数[　5]
[2014/05/13 20:19:04]～[2014/05/13 20:19:04]　└処理番号　[0050:科目名称マスタ]　V2件数[　313] NX件数[　306] 移行対象外件数[　5]
[2014/05/13 20:19:04]～[2014/05/13 20:19:04]　└処理番号　[0060:補助科目マスタ]　V2件数[　119] NX件数[　114] 移行対象外件数[　5]
[2014/05/13 20:19:04]～[2014/05/13 20:19:04]　└処理番号　[0070:補助科目名称マスタ]　V2件数[　119] NX件数[　114] 移行対象外件数[　5]
```

エラー件数があれば実行時ログを確認します。

月別残高チェック部（金額）　画面・ログ共通

```
判定:NG 会計期[　8] 会計月度[ 0] 取引通貨コード[　]
　　V2　借方[　85,544,435.000]　貸方[　85,544,435.000]　借方取引通貨[　0.000]　貸方取引通貨[　0.000]
　　NX　　[　0.000]　　[　0.000]　　[　0.000]　　[　0.000]
　　差分　[　85,544,435.000]　　[　85,544,435.000]　　[　0.000]　　[　0.000]
```

月別科目別残高チェック部（金額）　ログのみ

```
判定,会計期,会計月度,決算区分,科目コード,取引通貨コード,V2借方残高（発生用）,V2貸方残高（
NG,8,0,0,10200,　　,10000000,48000,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,10000000,48000,0,0,0,0
OK,8,0,1,10200,　　,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
NG,8,0,0,11100,　　,50000000,216000,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,50000000,216000,0,0,0,0
OK,8,0,1,11100,　　,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0
NG,8,0,0,13100,　　,5322000,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,0,5322000,0,0,0,0,0
```

CSV形式のため
Excelでの
確認が可能

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
2-5.バッチ形式

概要

・【バッチ実行用 実行パターン作成】画面で登録した内容で、移行事前チェック、移行処理、移行事後チェックを実施します
・各処理は【会社変換メンテナンス】画面で処理対象が「1:対象」の全ての会社を対象とし、各処理対象会社に設定されている処理順で実施します

注意事項

・事前に【バッチ実行用 実行パターン作成】画面で、バッチ実行に必要な設定を登録する必要があります
・バッチ形式での実行は、並列処理ではありません。 【バッチ実行用 実行パターン作成】画面で、設定した実行番号で処理します
・バッチ形式では、処理結果やエラー内容はログファイルにのみ出力されます
処理完了時、および、エラー発生時にはログファイルを確認してください
・バッチ形式では、自分でバッチファイルを作成し、実行する必要があります
次頁で、バッチファイルの作成に関しての説明を記載します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

ファイル設定

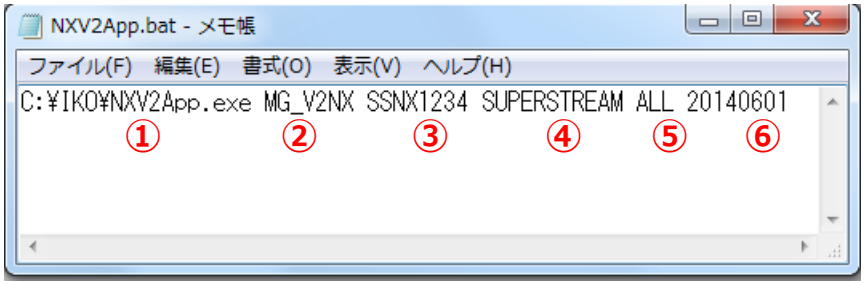
・設定内容

[C:¥IKO¥NXV2App.exe△DBログインユーザ△DBログインパスワード△DB接続文字列△処理パターン△実行番号]

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※△：半角スペース1桁

・設定例



【処理パターン一覧表】

	BFR	MIG	AFT	ALL
移行事前チェック	○			○
移行処理		○		○
移行事後チェック			○	○

■手順

・下記ファイル設定をしてください。

①移行支援ツールEXEファイルパス

：移行支援ツール「NXV2App.exe」をフルパスで設定します

②データベースログインユーザ

：Oracleデータベースのログインユーザを設定します

※環境構築で作成したユーザ（MG_V2NX）を設定してください

③データベースログインパスワード

：Oracleデータベースへのログインパスワードを設定します

④接続文字列

：Oracleデータベースへの接続文字列を設定します

※環境構築で作成した環境へ接続してください

⑤処理パターン

：処理パターン（「BFR」「MIG」「AFT」「ALL」）を設定します。

※左記処理パターン一覧表を参照してください

⑥実行番号：実行番号を設定します

※【バッチ実行用 実行パターン作成】画面で登録してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
3.動作確認および本番化

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

④NXの新会社セットアップ

移行支援ツールの実行

⑤変換テーブルの設定

⑥事前作業

⑦移行支援ツールの実行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

動作確認および本番化作業の手順

データ移行後、動作確認を実施し、運用を行える状態となっているか確認します
動作確認および本番化の手順を、以下に説明します

ステップ１０
動作確認

移行後のシステムが利用できる状態となっているか、動作を確認します

ステップ１１
クリーンアップ

バッチで作成したデータベース情報などを削除します
また、移行支援ツールをアンインストールします
※詳しくは「 1-5.移行支援ツール操作手順」の「データベース環境の整理」をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.統合会計移行作業手順
3.動作確認および本番化

データベース環境の整理

移行支援ツールを使用するために作成した、データベース環境のクリーンアップを行います

※全ての移行処理完了後に行う作業となります

※統合会計の移行処理の後に、固定資産の移行処理を行う場合は、固定資産の移行処理が完了するまで
クリーンアップは行わないでください
固定資産の移行処理の完了後にクリーンアップを行います

手順１.COREのDB接続文字列を設定します

1-1. NXのデータベースサーバより、COREのデータベースサーバに接続する設定を行ってください
「Net Configuration Assistant」を使用し、接続設定を行ってください

1-2. 2-2.NXのデータベースサーバーより、「移行環境削除.bat」を実行します

1-3. 「COREのDB接続文字列を指定してください：」というメッセージの後に、【手順1-1】で
設定した 接続文字列を入力してください

1-4.入力後、Enterキーを押してください

手順2.【手順1】で設定したDBのパスワードを設定します

2-1.「COREのCOREDBAユーザーのログインパスワードを指定してください：」という
メッセージの後に、【手順1】で指定したCOREのDBにCOREDBAユーザーで接続するための
パスワードを入力してください

2-2.入力後、Enterキーを押してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う
事前作業と事後作業

1．作業一覧
2．追加作業
3．運用上の注意

※COREシリーズとNXシリーズで機能の差異があります
この差異に伴い、事前作業、事後作業が発生する場合があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

（1）作業一覧

機能差異に伴い「移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業」、「移行支援ツールの変換テーブル設定」、「移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業」が必要になります

「移行支援ツールの変換テーブル設定」については「Ⅱ-１.統合会計 1-4.変換マスタ設定手順」に詳細を記載していますので合わせてご確認ください

なお、一般会計、支払管理、債権管理共通の内容については「一般会計」に、支払管理、債権管理にまたがる内容については「支払管理」の欄に記載しています

■一般会計

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
1	複数帳簿使用の場合、COREは２つの会社コードを作成し運用しますが、NXでは、1つの会社コードで運用を行います	連携設定情報は「連携元先会社情報設定」で確認してください 移行支援ツール実行前までに、IFRS会社と日本基準会社間でマスタ連携を実施し、マスタの同期をとってください ※注意：［日本基準］のマスタが移行対象となりますので、[IFRS基準]にのみ登録されているマスタは移行されません	移行支援ツールの会社変換メンテナンス画面で、日本基準会社、IFRS会社の会社を指定します	－	複数帳簿未使用の場合や、会社コードを変更しない場合も会社コード変換テーブルの設定は必須です 日本基準会社のマスタが移行されますが、IFRS会社のマスタは移行対象外となります
2	COREとNXでは、伝票グループの構造が異なっているため、伝票グループ変換テーブルの設定が必要になります	伝票グループ情報は「伝票発番コントロールマスタ登録」にて確認してください	移行支援ツールの伝票グループ変換（CORE）メンテナンス画面で、CORE伝票グループに対応するＮＸの伝票グループを指定します	－	COREではシステム区分が異なれば、同一の伝票グループを使用することが可能でしたが、NXでは伝票グループは全プロダクト（CORE、AP+、AR+）を通じて一意である必要があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
3	AP+が未使用の場合や、AP+を使用していても、COREにしか登録されていない社員マスタ（共通）が移行対象となる場合、NXの社員マスタ登録時の必須項目である支払管理コード、支払方法コードが必要になるため、移行時にダミー値を設定します	–	移行支援ツールのデフォルト値設定テーブルメンテナンス画面で、社員マスタにデフォルトで設定される支払管理コード、支払方法コードを指定します	デフォルト値以外の設定が必要な社員がいる場合は適切な値に変更します	
4	COREでは組織マスタで組織パターンが異なりコードが重複するような部門がある場合、移行時に組織分類、部門コードでソートし、重複するような部門（仕訳可能部門は除く）はNXの会計部門マスタ、会計部門名称マスタへの移行対象外となります	「会計部門一覧表」、「管理会計部門一覧表」等で該当の部門があるかを確認してください	左記に該当する部門について、移行支援ツールの部門コード変換メンテナンス画面で、変換部門コードを設定します 未登録の場合は、若い分類コードの部門コードを移行対象とします	–	COREでは、中間階層として利用する部門の場合、組織分類が異なれば同一部門コードでも違う部門として登録が可能です
5	COREは会社単位、NXはシステム単位でユーザーIDを管理しているため、COREで会社コードが異なって同一のユーザーIDを使用している場合は統合されます（移行順で最初に移行対象となった会社のユーザーマスタの管理内容で移行されます） ユーザーIDが使用可能な会社は、NXでは「ユーザー別会社マスタ」で管理しています。ユーザーIDが重複しているメッセージが出力された場合でも該当の会社でのユーザーIDの使用は可能です	–	–	移行処理時に移行対象外となるユーザーIDが実行ログに出力されますので、必要な場合は重複しているユーザーIDを削除してから新たなユーザーIDの登録を行います ユーザーグループコード0000（すべて）、会計業務権限コード0000（すべて）がデフォルトで設定されますので移行後に合わせて見直しが必要になります また、パスワードはクリアされた状態で移行されるので、移行後に見直しが必要となります	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
6	CORE（AP+、AR+）の月次更新処理締済である事が移行対象の条件となります	移行対象月までCORE、AP+、AR+の月次更新を実施してください	–	–	・事前チェック処理により締処理の状態を確認します 締済みの月が各プロダクトにより異なる場合は、そのうちの最小の月までを移行対象とします ・事前チェック処理により最終締日をツール内に保持します 一度、伝票を移行した後CORE(AP+、AR+)の最終月次更新月が変わった場合は、再度、事前チェック処理を実施してください ・最終締日より後に伝票が発生している場合は、事前チェック処理で警告ログが出力されます ・AR+の月次更新処理を行うためには通常入金を振替える必要があります ・NX側に「通常」の入金がないため、AR+の移行時に「前受」以外の入金は「仮受」として移行します また、「通常」入金の消込済伝票についてはダミーの「仮受・前受伝票トラン」を作成するため、入金方法マスタの「内部方法コード：21(仮受)」を参照し科目情報を設定します 未消込の入金伝票は「前受」または「仮受」に振り替えてからの移行が前提となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
7	NXでは未使用の内部コードのため、以下の内部コードを持つ科目コードは移行対象外となります 30980：資産除去債務 34500：資産除去債務 57510：除去債務利息費用 57520：除去債務履行差額 72410：除去債務利息費用 72420：除去債務履行差額 91100：特別償却準備金取崩額 91110：固定資産圧縮積立金取崩高 91200：別途積立金取崩額 92000：その他資本剰余金取崩額 92020：資本準備金取崩額 92100：利益準備金 92200：配当金 92300：役員賞与金 94100：特別償却準備金 94200：別途積立金 98500：配当金 98510：その他	「科目一覧表」等で該当の内部科目コードを使用する科目があるかご確認ください また、該当の科目について使用状況を確認してください	移行元で残高が発生していてNXへ移行が必要な場合は、移行支援ツールの科目コード変換メンテナンス画面で、NXで使用可能な内部コードを設定します	－	科目コード変換テーブルに設定されていない場合は、事前チェック処理でエラーログが出力され、移行処理が行えません 以下の内部コードはNXには存在しないため、移行対象外となりますが、集計科目となるため科目コード変換メンテナンス画面の設定は不要です 91999：任意積立金取崩額計 93999：利益処分項目計 95999：任意積立金計 96999：利益処分額計 98599：その他資本剰余

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
8	ビュー、ワーク、退避データ、バックアップテーブル、ログテーブルは移行対象外となります	COREについて退避データを移行したい場合は、「データ退避／復元」にて復元処理を実施してから移行してください	–	–	
9	伝票発番単位を「年単位」で運用し、かつ期中移行を実施する場合、明細移行前に既にNXで伝票起票を開始していると、伝票番号の重複が発生します	明細移行を実施する前にNXで起票を開始する場合、移行した伝票発番グループとは別にNXで伝票起票する伝票発番グループを登録してください	–	–	AP+を導入している場合は「AP+」、本支店機能を使用している場合は「CORE/AP+/AR+」の伝票発番単位を「年単位」で運用しているとみなし、移行処理においてNXでの起票有無のエラーチェックを実施します
10	仕訳パターン名称、取引先名称等、各種「名称」において、COREでは「,」（カンマ）と「'」（シングルコーテーション）は、使用可能ですが、NXでは使用不可です 移行時にはエラーは発生しませんが、移行後のマスタ登録画面等で、エラーが発生する場合があります	可能であれば、「,」（カンマ）と「'」（シングルコーテーション）は他の文字に置き換えるか、削除してください	-	対象の文字が移行されてしまった場合、NXのDB上で、他の文字に置き換えるか、削除してください	
11	移行データについて、コード系の項目にNX統合会計の禁則文字（カナ等）が含まれていた場合、移行後の後続する処理でエラーとなる場合があります	可能であれば、禁則文字は他の文字に置き換えてください		禁則文字を含むコードが移行されてしまった場合、NXのDB上で、他のコードに置き換えてください	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

■支払管理

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
12	締次処理が途中の状態では移行できません	移行対象のデータについては「支払依頼処理」まで完了させてください	–	–	
13	本支店管理をしている場合、NXでAP/ARの本支店管理をするために必要な本支店伝票グループの設定が必要になりますが、AP+/AR+では、設定の必要がないため、NXの本支店管理に必要な伝票グループが存在しません	–	–	システム区分内部コード:121 本支店振替（AP用）、251 本支店振替(AR用)を使用した伝票グループを作成後、本支店別伝票グループマスタ登録で登録を行います	
14	支払方法で「期日振込依頼書・FB合算区分」が「合算して作成」の場合、AP+に存在しない支払方法の登録が必要になります	–	移行支援ツールのデフォルト値設定テーブルメンテナンス画面で、NXの支払方法マスタに設定する支払方法コードを指定します	–	
15	NXの仮払申請伝票・経費精算伝票の支払方法は1つのみ選択可能です	支払変更入力画面で支払方法が2つある仮払申請伝票、経費精算伝票の支払方法を1つに変更します	–	–	仮払申請や経費入力で支払方法を２件使用している伝票は、支払方法１にまとめて移行します
16	振込情報が個別指定(振込情報コードが未指定)の支払伝票は、NXでの支払確定処理でエラーとなります	–	–	振込情報が個別指定の支払伝票は、移行処理にて警告表示されます 移行処理後に「支払予定情報変更」画面で振込情報の再設定を行ってください	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行う COREの事前作業	移行支援ツールの 変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行う NXの事後作業	備考
17	NXでは、仮払申請入力で使用できる科目のAP・AR科目使用区分は「1:債務科目」となり、AP+では「5：債権（仮払金、前渡金等）」が設定されているため、NXでの仮払申請入力時にエラーとなります	–	–	仮払・経費精算コードマスタの費用区分が「1:仮払」に使用する科目については、科目マスタにてAP・AR科目使用区分を「1:債務科目」に再設定を行ってください	–
18	電子記録債務による支払伝票は、期日払い伝票ではなく、通常の支払伝票とし、AP+の期日振替予定日を支払予定日として移行します また、NXでは、電債送信データは作成しません。電子記録債務の発生記録請求データについては、「NX手形管理システム　電債オプション」にデータを連携する必要があります	電子記録債務による支払伝票に対して、「期日確定前」の支払確定処理が実行済の場合は、「期日確定後」の支払確定処理の有無にかかわらず、NXへは、支払済の伝票として移行されます	–	NXへの移行および「NX手形管理システム　電債オプション」導入後に、「支払データ取込」を実行し、電子記録債務の発生記録請求データを連携してください また、NX統合会計では「NX手形管理システム　電債オプション」へ連携の有無を管理してないため、二重で作成することのないように注意してください 詳しくは補足資料「「NX手形管理システム 電債オプション」使用時の注意事項.xls」をご覧ください	支払済の電子記録債務による支払伝票については、AP+とNXでは支払確定日が異なることになるので、支払確定一覧表に差異が出ます
19	社員マスタの振込情報は、COREでは、複数件登録可能でしたが、NXでは１件しか登録できません 移行支援ツールでは、振込情報コード１に設定されている内容を移行します	–	–	必要に応じて、移行された社員マスタの振込情報を見直してください	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

■債権管理

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うCOREの事前作業	移行支援ツールの変換テーブル設定	移行支援ツール実行後に行うNXの事後作業	備考
20	データ構造が異なるため締処理前のデータは移行対象外となります	移行対象のデータについては「締次終了」まで完了させてください	–	締処理未実施の債権計上伝票がある場合は、NXの債権計上入力より登録を行います	以下のテーブルは移行対象外です 債権計上ヘッダトラン 債権計上明細トラン 締次債権計上ヘッダトラン 締次債権計上明細トラン 締日別債権計上明細トラン 債権締次管理マスタ 債権締次残高マスタ 締次相殺債権計上明細トラン 前受金消込債権計上明細トラン
21	未消込の入金予定データのうち、同一伝票番号で3件以上の枝番がある場合、移行不可になります	入金予定情報変更画面にて同一伝票の枝番を2件以内に削除（統合）してから移行してください	–	–	事前チェック処理により入金予定伝票番号の特定が可能です
22	残高確認書本文マスタについてはDBサイズが異なるため、移行対象外となります ただし、残高確認書本文マスタが存在しない場合、得意先マスタの更新ができないため、固定で「000」のダミーデータをツールで作成します	–	–	残高確認書本文マスタを登録してください また、残高確認書を送付する得意先においては、固定で「000」を設定するため、マスタ登録後に正しい残高確認書パターンを設定してください	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

（2）追加作業について

①自動設定値の変更作業

以下のマスタは、NXの新規追加マスタとなり移行支援ツールの移行対象外となりますが、移行支援ツールが移行処理時に新規レコードを自動設定しますので、運用の状況に応じて設定変更を行います

なお、自動設定値の詳細は補足資料「移行支援ツール自動作成データ.xls」内の各シートに記述しています

SuperStream-NX　マスタ名	設定値シート名
処理種別マスタ	処理種別マスタ設定値
システム区分マスタ	システム区分マスタ設定値
支払業務コードマスタ	支払業務コードマスタ設定値
承認ユーザーグループマスタ	承認ユーザーグループマスタ設定値
承認ユーザーグループ名称マスタ	承認ユーザーグループマスタ設定値
代理承認者グループマスタ	代理承認者グループマスタ設定値
代理承認者グループ名称マスタ	代理承認者グループマスタ設定値
ワークフロー主管承認ルートヘッダマスタ	ワークフロー主管承認ルートマスタ設定値
ワークフロー主管承認ルートマスタ	ワークフロー主管承認ルートマスタ設定値

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
2.追加作業について

②新機能の追加登録

NXシリーズで新たに追加された機能のうち、運用で使用するマスタの新規設定を行います
製品マニュアル/システム設定Ⅰに各マスタの詳細が記載されています
同マニュアルの「3.1 マスタの設定手順」と合わせて設定対象となるマスタをご確認ください

・CF用科目マスタ登録
・社内経費締条件マスタ登録
・仮払・経費精算コードマスタ登録
・部門別科目セキュリティグループマスタ登録
・部門別科目セキュリティ科目マスタ登録
・部門別科目セキュリティ部門マスタ登録
・ワークフロー部門内承認ルートマスタ登録
・定例支払登録
・伝票摘要マスタ登録
・入力締マスタ登録
・ユーザーグループ別メニューマスタ登録

©SuperStream Inc. All rights reserved.

（3）運用上の注意

機能差分に伴い移行後の運用の中で制限、注意事項がありますので運用がはじまる前に予めご確認ください

なお、一般会計、支払管理、債権管理共通の内容については「一般会計」に、支払管理、債権管理にまたがる内容については「支払管理」の欄に記載しています

■一般会計

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
1	IFRS会社は一般伝票（仕訳、仕訳履歴、本支店振替伝票、残高）が移行対象となります	
2	仕訳明細行について、NXでは１行に貸借両方の仕訳を設定できないため、下記の通り変換して移行します 借方：NXの明細行番号＝COREの明細行番号×2-1 貸方：NXの明細行番号＝COREの明細行番号×2	下記の通りCOREとNXでは仕訳データの持ち方が異なるため移行時に変換を行います <仕訳> 伝票番号 00000001　10000/6000 /4000 【CORE】 伝票番号　行番号　貸借区分　金額 00000001　1　0　10000 00000001　1　1　6000 00000001　2　1　4000 【NX】 00000001　1　0　10000 00000001　2　1　6000 00000001　4　1　4000

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
３.運用上の注意事項

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
3	機能コード４／プロジェクトの利用について、COREのコード利用情報マスタの機能コード４区分を使用 している場合、システム導入状況テーブルの値を参照し、機能コード４またはプロジェクトのどちらかの内容としてNXに移行します （COREでプロジェクト管理をしている場合は、NXのプロジェクトに移行し、 プロジェクト管理をしていない場合は、機能コード４に移行します）	
4	「銀行休日マスタ」は銀行別には管理しないため、銀行コード＝'9999(共通)'のみが移行対象となります	
5	伝票摘要には以下の情報を設定します 仕訳伝票＝“移行元伝票番号：”-システム区分-伝票発番グループコード-伝票番号を設定 （例、「移行元伝票番号：01-1A-99999999」） 債権伝票＝伝票区分-伝票発番グループコード-伝票番号を設定	支払伝票にはAP+で設定されている伝票摘要を移行します
6	NXへの移行時には、下記内容でユーザー、更新情報が設定されます 入力ユーザーID：「*****CONVERSION*****」 入力日時：移行処理実行時のシステム日付(SYSDATE()) 更新ユーザーID：「*****CONVERSION*****」 更新日時：移行処理実行時のシステム日付(SYSDATE())	NXでは、起票者ID、最終承認者IDの項目が伝票照会、 帳票出力時等のアプリケーションでの使用項目となります
7	NXではプロジェクト残高マスタがないためCOREでプロジェクト別の残高を管理している場合は、残高マスタは全期間の移行が必要になります	
8	資金取引履歴トランは実績のみ移行します	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
3.運用上の注意事項

■支払管理

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
9	振込先マスタ・締日管理マスタについて、NXでは社員は管理対象ではないため、支払先区分＝“1”（仕入先）のみを移行対象とします。社員の振込情報は、社員支払情報マスタへ移行します	
10	債務伝票パターンは以下の条件で移行を行います 経費入力から登録する経費パターンは移行対象外となります 移行条件は以下の通りとなります （支払先区分 ＝ 1：仕入先、入力区分 ＝ 1：支払伝票、 支払済伝票区分 ＝ 0：予定伝票、伝票種類 ≠ 3：計上のみ）	
11	AP+/AR+とNXのAP/ARのテーブル構造が異なっているため、移行したAP/ARの伝票を元に赤伝を作成する事はできません	移行元に赤伝起票により対応
12	AP+/AR+の伝票種類「3:計上のみ」は移行対象外となります	NXでは残高マスタを統合化しておりAP/AR専用の残高マスタ（会計残高、締次残高）は存在しないため不要となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.統合会計移行に伴う事前作業と事後作業
３.運用上の注意事項

■債権管理

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
13	AR+では相殺伝票で複数債務が選択可能となっています NXでは１相殺伝票に１債務のみの指定となっているため、債務明細１行目の情報を取得します	
14	得意先マスタ登録時に、外貨と集金先の組合せで登録している債権条件、および、締日情報は、移行対象外になります	NXでは債権科目がキー項目であり、必須入力になっているためです
15	NXでは入金伝票の入金科目の明細は固定なので、移行元に複数行ある入金伝票は１行にまとめて移行します	科目コード等明細情報は１行目の内容を使用します
16	NXでは円貨用・外貨用の区別がありませんが移行対象である以下の入金方法内部コードについて、円貨用と外貨用の登録が行われている場合は円貨用のみを移行します 「06：相殺」 「21：仮受金」 「22：前受金」 「43：振込手数料」 「44：消費税誤差」 「51：不良債権」	AR+では１つの入金方法内部コードについて円貨、外貨での登録が可能です
17	入金伝票、消込伝票の赤伝票の赤伝票・赤伝の元伝票は移行対象外となります	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

統合会計

- 移行に関するFAQ
- 補足資料

©SuperStream Inc. All rights reserved.

統合会計移行に関するFAQ

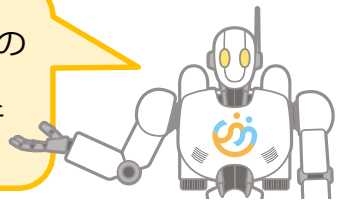
SuperStream

Q1

再移行、または複数回に分けての移行は可能ですか？

可能です
マスタに関しては、全て削除してから再移行となるため、NXでメンテナンスを行ってからの再移行についてはリセットされます
トランに関しては、指定期間のデータのみを削除し再移行しますが、COREで最終月次更新月が更新された場合、再度事前チェックを行う必要があります

Answer

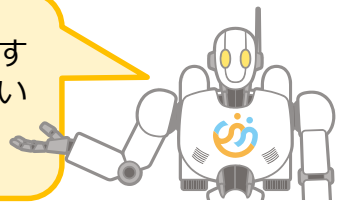


Q2

移行後、帳票出力が遅くなりました

移行処理の速度向上のため、トランテーブルに対するINDEXを任意で削除し移行しています
クリーンアップまたは、単独で以下のスクリプトを実行し、INDEXの復元を行ってください
[9_01_(MG_V2NX)CREATE_INDEX_PK.SQL]

Answer

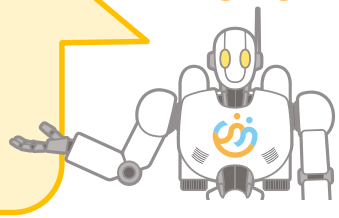


Q3

移行した後にマスタを整備し、その会社を複写してデータのみの移行は可能ですか？

以下の手順により可能です
①マスタを整備した会社を複写元とし、新会社セットアップにて会社を作成設定する
　導入会計年月はCOREの導入会計年月を設定する必要があります
②現在会計年月まで、月次更新および年次更新を実施
③移行支援ツールの会社変換マスタメンテナンスでマスタを移行した会社の移行先を、
　上記①で作成した会社コードに変更する
④移行支援ツールにて、トランデータの移行を実施する

Answer



©SuperStream Inc. All rights reserved.

統合会計補足資料

■補足資料一覧表

資料名	ファイル名	備考
対象テーブル一覧／ ＤＢ項目比較表	対象テーブル一覧_統合会計.xls ＤＢ項目比較表_統合会計.xls	テーブル単位での移行情報と、カラム別のマッピング資料です
外部データ取込項目比較表	外部データ取込項目比較表_統合会計.xls	外部取込機能の取込項目をまとめた資料です
マスタ取込項目比較表	マスタ取込項目比較表_統合会計.xls	バッチ・マスタメンテナンスの取込項目をまとめた資料です
COREシリーズとNXとの機能差異一覧	CORE・NX機能比較表_CORE.xls CORE・NX機能比較表_AP.xls CORE・NX機能比較表_AR.xls	機能差異に関する項目をまとめた資料です
移行支援ツール自動作成データ	移行支援ツール自動作成データ.xls	予約されているコードや設定値をまとめた資料です
棚卸運用に関する注意事項	COREとNXの棚卸運用の違いに関する注意事項.xls	COREとNXの棚卸運用の違いについてまとめた資料です
電債オプションに関する注意事項	「NX手形管理システム 電債オプション」使用時の注意事項.xls	電債オプションを使用する場合の電債支払データ重複を回避する方法についてまとめた資料です
性能評価	性能評価_統合会計.xls	移行処理に関する性能測定結果をまとめた資料です
メッセージ一覧	メッセージ一覧_統合会計.xlsx	移行支援ツールでの発生したメッセージに対する対応方法の一覧をまとめた資料です

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX
手形管理システム

・PN：手形管理

Ⅰ.手形管理 移行支援ツールの概要

1.対象プロダクト
2.前提条件
3.実行方式

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.手形管理 移行支援ツールの概要
1.対象プロダクト

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
CORE 一般会計	GL／AP／AR 統合会計	●
AP+ 支払管理		
AR+ 債権管理		
field 分散入力		×
FA+ 固定資産・リース資産	FA／LM 固定資産・リース資産	●
PN+ 手形管理	PN 手形管理	●
スーパーインターフェース	スーパーインターフェース	×
Planning 経営分析	GM グループ経営管理	×
	GM Mobile GMモバイルOP	-
Connect データ連携	Connect システム連携ツール	×
	Cloud Connecter クラウド接続OP	-

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
HR+ 人事管理	HR+ 人事管理	●
PR+ 給与管理	PR+ 給与管理	●
RE 退職金管理	RE 退職金管理	●
field/HR 人事諸届・照会	field/HR 人事諸届・照会	●
	CP 建設仮勘定OP	-
	ER 電債OP	-
	EV 証憑管理OP	-
	EV 証憑管理e文章対応OP	-
	factoring ファクタリングOP	-

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.手形管理 移行支援ツールの概要
2.前提条件

COREシリーズ → **SuperStream-NXシリーズ**

移行元バージョン：SP20170701版	移行先バージョン：NX2017-06-01版
手形管理システム	手形管理

移行支援ツールの前提

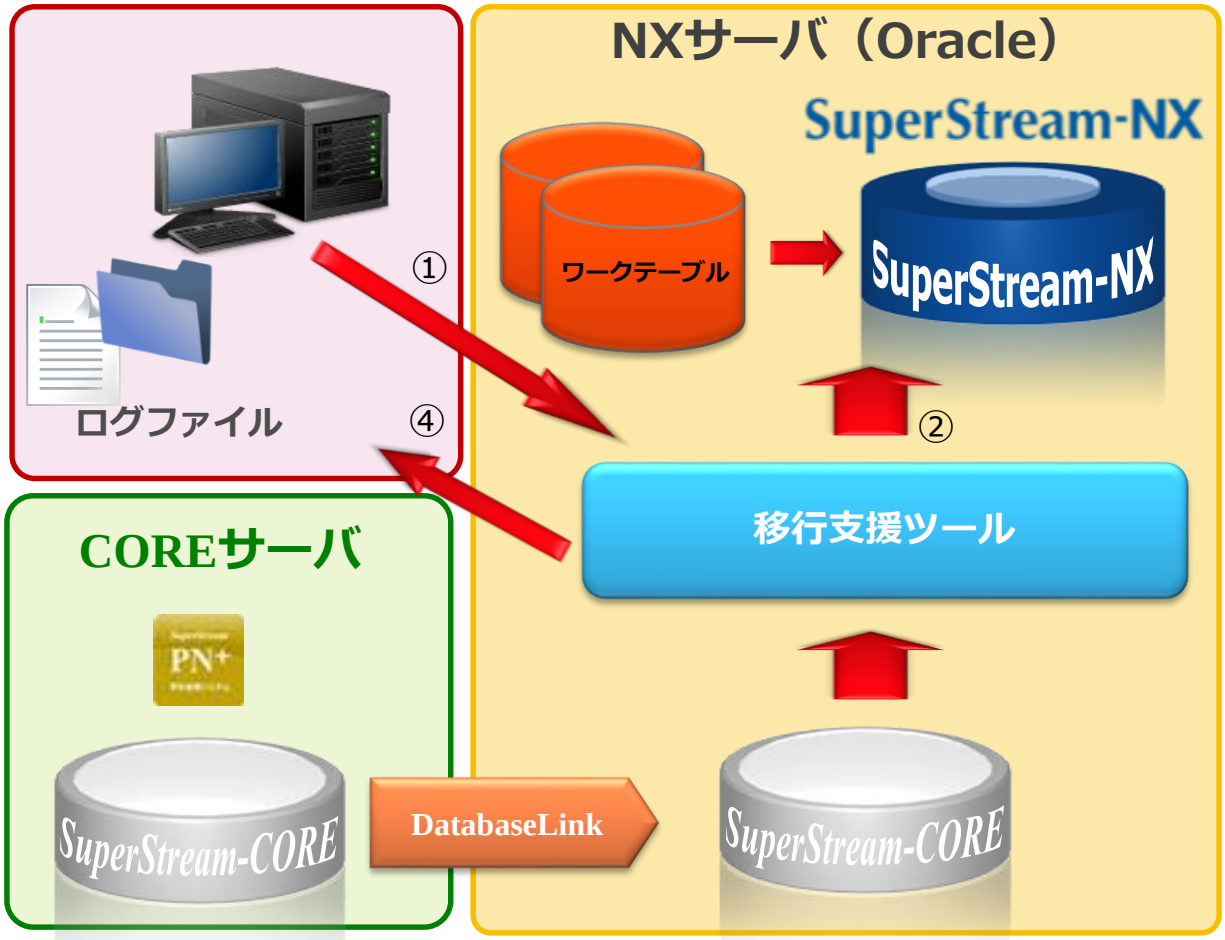
- SuperStream-NXシリーズへの移行を行う場合、上記のバージョンが移行対象になります
  COREシリーズは上記バージョンまでバージョンアップが必要です
- 移行支援ツールはOracleデータベース上での稼働が前提となります
- 移行支援ツールは統合会計のマスタ設定を全て完了させておく必要があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

【 DB to DBによる移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①画面より移行処理指示
②移行支援ツールによって
　COREのデータをNXの
　データへ移行
③ログにて移行結果を確認



©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順

はじめに
- 1.環境構築手順
- 2.移行ツールの実行
- 3.動作確認および本番化

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
はじめに

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

移行支援ツールの実行

③事前準備

④移行支援ツールの実行

動作確認および本番化

⑤動作確認

⑥クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
1.環境構築手順

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

移行支援ツールの実行

③事前準備

④移行支援ツールの実行

動作確認および本番化

⑤動作確認

⑥クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

環境構築作業の手順

NXPN移行支援ツールを実行するためには、NX統合会計の移行が完了している必要があります
環境構築作業の手順を、以下に説明します

ステップ 1
NXPNのインストール

DBサーバーにNXPNを新規にインストールを行います

ステップ 2
移行支援ツール環境構築

移行支援ツールを実行する環境を構築します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

移行支援ツールの実行

③事前準備

④移行支援ツールの実行

動作確認および本番化

⑤動作確認

⑥クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールの実行の手順

移行支援ツールを利用したデータ移行では、COREシリーズとNXシリーズで機能差異がある事に伴う事前・事後作業が必要になります。また、NXの新規機能の設定などを追加作業として行います
移行作業の手順を、以下に説明します
移行支援ツールは、画面から移行元（CORE ）会社コードを指定して１会社ごとに実行する他に、バッチファイルを作成することにより、複数会社を一度に実行することも可能です

ステップ３
事前準備

SuperStream-PN+にて、移行支援ツールを実行する前に、移行元で事前の作業を行います

未更新手形データは全て更新済にしておき、 SuperStream-COREに連携する仕訳伝票も全て連携完了済にする必要があります

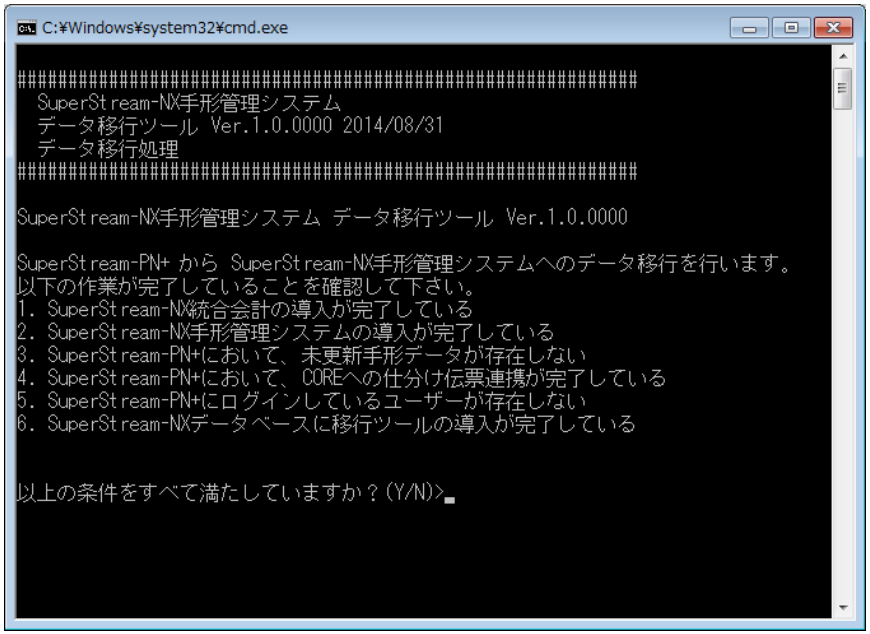
ステップ４
移行支援ツールの実行

移行支援ツールを実行します

NXのデータベースサーバーに対し、「データ移行.BAT」を実行します。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行



【移行支援ツール実行イメージ】

対話形式のバッチファイルにより移行支援ツールを実行します

- 前提条件の確認
- NXDBの接続情報入力
- 移行ログのファイル名指定
- 移行元会社コードの指定
- 移行先会社コードの指定

移行対象マスタ

PN+会社方針マスタ	⇒ 会社マスタ
PN+ユーザーID マスタ	⇒ 手形ユーザーマスタ
PN+内部科目マスタ	⇒ 手形内部科目マスタ
手形印紙税マスタ	⇒ 手形印紙税マスタ
手形マスタ	⇒ 手形マスタ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.手形管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

動作確認および本番化作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NXのインストール

②移行支援ツール環境構築

移行支援ツールの実行

③事前準備

④移行支援ツールの実行

動作確認および本番化

⑤動作確認

⑥クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

動作確認および本番化作業の手順

データ移行後、動作確認を実施し、運用を行える状態となっているか確認します
動作確認および本番化の手順を、以下に説明します

ステップ5
動作確認

移行後のシステムが利用できる状態となっているか、動作を確認します

ステップ6
クリーンアップ

バッチで作成したデータベース情報などを削除します
また、移行支援ツールをアンインストールします
NXのデータベースサーバーに対し、「登録削除.BAT」を実行します。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX 固定資産管理

・FA：固定資産
・LM：リース資産

Ⅰ.固定資産管理 移行支援ツールの概要

1.対象プロダクト
2.前提条件
3.プロダクト別実行方式
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ. 固定資産管理 移行支援ツールの概要
1.対象プロダクト

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
CORE 一般会計	GL／AP／AR 統合会計	●
AP+ 支払管理		
AR+ 債権管理		
field 分散入力		×
FA+ 固定資産・リース資産	FA／LM 固定資産・リース資産	●
PN+ 手形管理	PN 手形管理	●
スーパーインターフェース	スーパーインターフェース	×
Planning 経営分析	GM グループ経営管理	×
	GM Mobile GMモバイルOP	-
Connect データ連携	Connect システム連携ツール	×
	Cloud Connecter クラウド接続OP	-

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
HR+ 人事管理	HR+ 人事管理	●
PR+ 給与管理	PR+ 給与管理	●
RE 退職金管理	RE 退職金管理	●
field/HR 人事諸届・照会	field/HR 人事諸届・照会	●
	CP 建設仮勘定OP	-
	ER 電債OP	-
	EV 証憑管理OP	-
	EV 証憑管理e文章対応OP	-
	factoring ファクタリングOP	-

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ. 固定資産管理 移行支援ツールの概要
2.前提条件

COREシリーズ → **SuperStream-NXシリーズ**

移行元バージョン：SP20170701版	移行先バージョン：NX2017-06-01版
固定資産・リース資産管理システム	固定資産・リース資産管理

移行支援ツールの前提

- SuperStream-NXシリーズへの移行を行う場合、上記のバージョンが移行対象になります
  COREシリーズは上記バージョンまでバージョンアップが必要です
- 移行支援ツールはOracleデータベース上での稼働が前提となります
- ビュー・ワーク・退避データ・バックアップ・ログなどは移行対象外とします
- アドオンテーブルは移行対象外となります
- 移行データについて、コード系の項目にNX統合会計の禁則文字（カナ）が含まれていた場合、移行後の後続する処理でエラーとなる場合があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ. 固定資産管理 移行支援ツールの概要
3.プロダクト別実行方式

各プロダクトごとに移行支援ツールの実行方式が異なります

■プロダクト別実行方式一覧

プロダクト	種類	実行方式
CORE(基幹会計システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
AP+(支払管理システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
AR+(債権管理システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
FA+(固定資産管理システム)	**固定資産・リースデータ**	**【1】DB to DB**
	コード名称マスタ	**【2】パターンファイル**
HR+(人事管理システム)	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
PR+(給与管理システム	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
field/HR(人事諸届照会システム)	マスタ・データ	【3】export/import 【4】アップグレード
人事・給与共通	マイナンバーデータ	【1】DB to DB

※ DB to DB

・DB to DBとは、***SuperStream*-CORE**とSuperStream-NXのデータベースをデータベースリンクを用いて、データ移行を実施する実行方式です

・DB to DBの処理はPL/SQLで作成されているため、 ***SuperStream*-CORE**とSuperStream-NX のデータベースに直接データの更新を実施します

※ 固定資産の移行支援ツール

・固定資産の移行支援ツールは2種類あり、DB to DBの移行支援ツールを利用して固定資産・リース契約・物件などのデータを移行します
またパターンファイルによる移行支援ツールを利用して、償却情報や申告先マスタなどのコード名称マスタを移行します

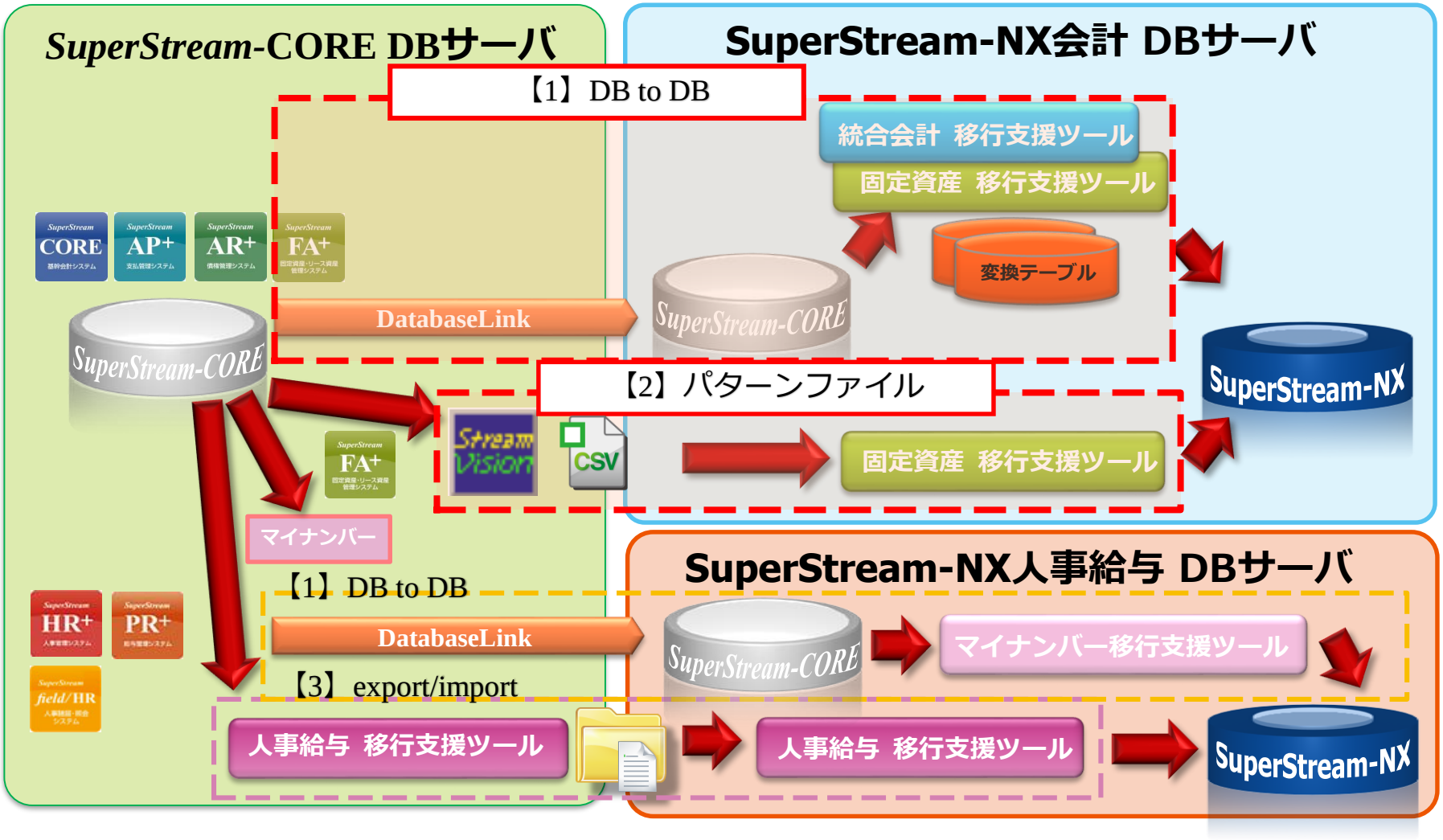
※ 人事給与の移行

・人事給与の移行は、別インスタンス（別サーバ）に移行するexport/import及びDB to DB方式と、現在の環境をそのまま移行する
アップグレード方式の2つがあります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ. 固定資産管理 移行支援ツールの概要
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

【移行処理の全体の流れ】



©SuperStream Inc. All rights reserved.

【パターンファイルによる移行処理の全体の流れ】

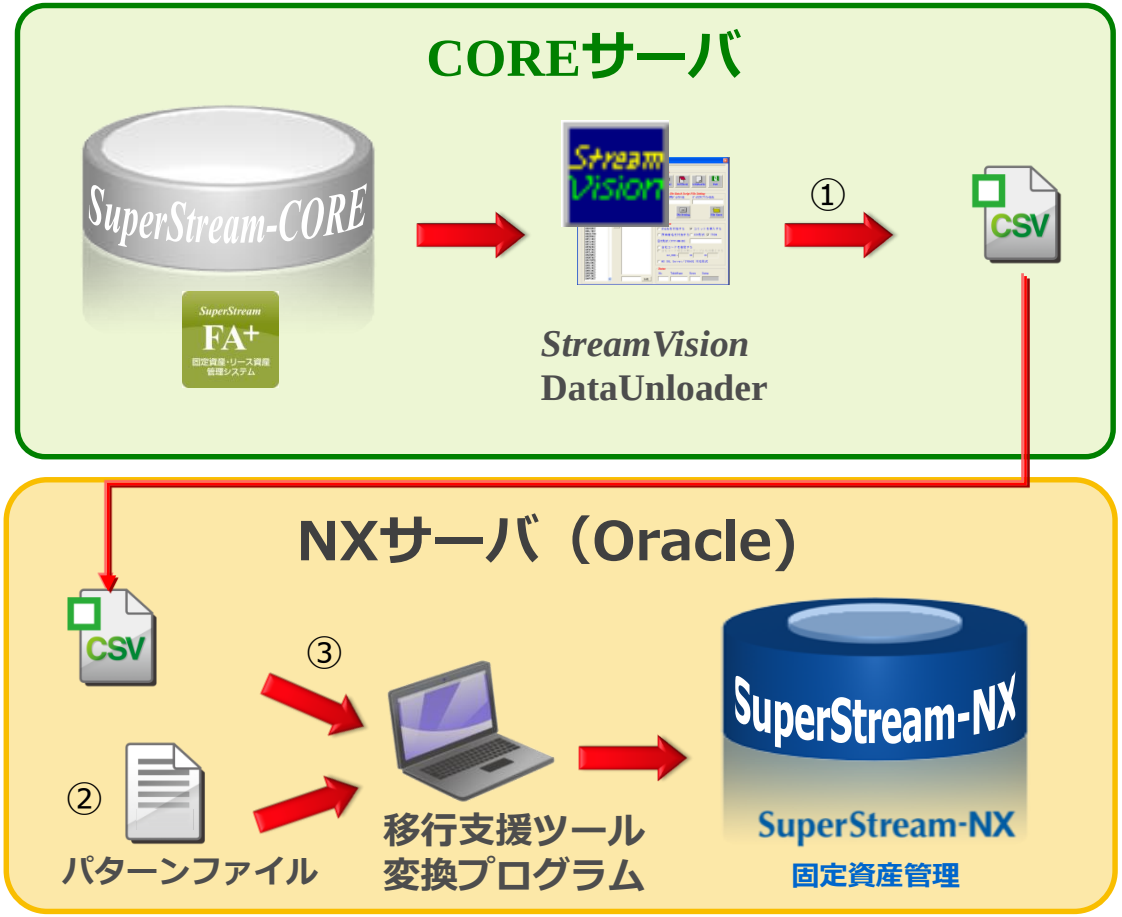
【処理概要】

①*StreamVision*のDataUnloader機能でデータベースの情報をテキストデータ（CSV）に出力

②Excelマクロを使用してパターンファイルを生成

③COREより出力されたテキストデータとパターンファイル（データ変換ファイル）を使用して、変換プログラムを実行

<u>パターンファイル</u>
FA+⇒NXFA間のテーブルおよび項目の対比と変換方法を記述したファイル（XML形式）



©SuperStream Inc. All rights reserved.

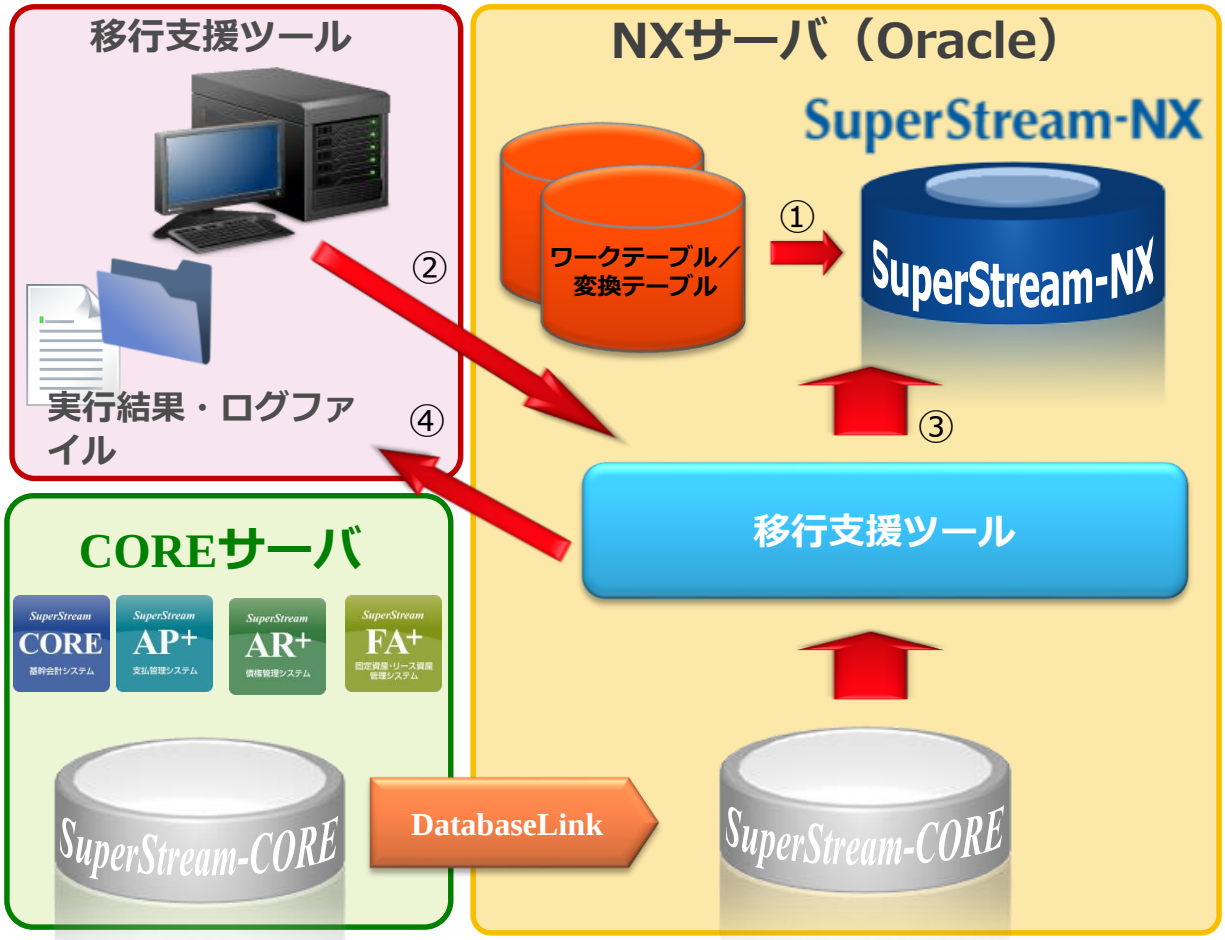
Ⅰ. 固定資産管理 移行支援ツールの概要
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

【 DB to DBによる移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①変換テーブル事前登録
②画面より移行処理指示
③移行支援ツールによって
　COREのデータをNXの
　データへ移行
④画面およびログにて移行結果
　を確認

<u>変換テーブル</u>
　CORE⇒NX間の項目相違があった
　場合に、移行時に変換する条件等
　を格納します



©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順

はじめに

1.環境構築作業

2.移行支援ツールの実行

- 2-1.変換マスタの設定
- 2-2.コード名称マスタデータの抽出
- 2-3.パターンファイルの作成
- 2-4.コード名称マスタ移行実行
- 2-5.固定資産・リースデータの移行

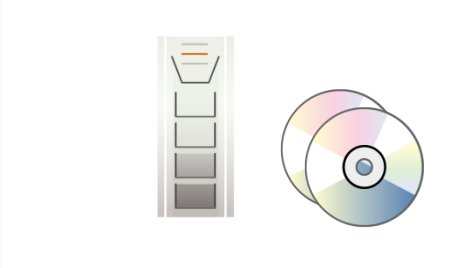
3.動作確認及び本番化

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
はじめに

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業



①NXFAのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

移行支援ツールの実行

④変換テーブルの設定

⑤事前作業

⑥コード名称マスタの移行

⑦固定資産・リースデータの移行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

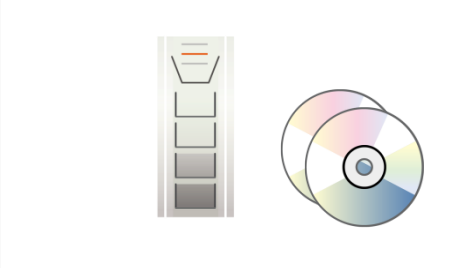
⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
1.環境構築作業

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業



①NXFAのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

移行支援ツールの実行

④変換テーブルの設定

⑤事前作業

⑥コード名称マスタの移行

⑦固定資産・リースデータの移行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

環境構築作業の手順

NXFA移行支援ツールを実行するためには、NX統合会計の移行が完了している必要があります
環境構築作業の手順を、以下に説明します

ステップ 1
NXFAのインストール

DBサーバーにNXFAを新規にインストールを行います
※詳しくは最新の製品マニュアル「インフラガイド_2017-06-01.pdf」をご覧ください

ステップ 2
移行支援ツール環境構築

移行支援ツールを実行する環境を構築します（シノニムやテーブル作成など）
NXのデータベースサーバーに対し、「FA移行環境構築.bat」を実行します。
対話形式でDB接続先等を入力し、DB実行環境を構築します。

ステップ 3
移行支援ツールインストール

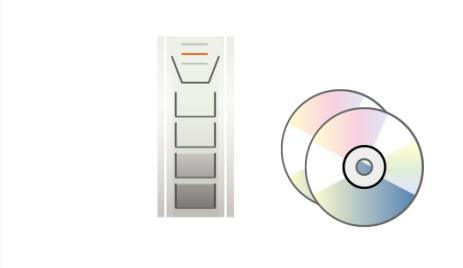
移行支援ツールを実行環境にコピーします
「.NetFramework 3.5 sp1」「Oracleクライアント」の導入されている環境に
移行支援ツール（EXEファイル他）を配置します。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業



①NXFAのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

移行支援ツールの実行

④変換マスタの設定

⑤事前作業

⑥コード名称マスタの移行

⑦固定資産・リースデータの移行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

移行支援ツールの実行の手順

移行支援ツールを利用したデータ移行では、COREシリーズとNXシリーズで機能差異があることに伴う、事前・事後作業が必要になります
また、NXFAの新規機能の設定を追加作業として行います。
移行支援ツールは、画面から移行元（FA+）会社コードを指定して１会社ごとに実行する他に、バッチファイルを作成することにより、複数会社を一度に実行することも可能です。

移行作業の手順を、以下に説明します

ステップ４
変換マスタの設定

FA+のマスタとNXFAのマスタの変換設定を行います
※詳しくは「 2-1.変換マスタの設定」をご覧ください

ステップ５
事前作業

***SuperStream*-FA+にて、移行の実行前に、移行元で事前の作業を行います**
※詳しくは「 Ⅲ.固定資産移行に伴う事前/事後作業」をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

ステップ6
コード名称マスタの移行

- **コード名称マスタデータの抽出**

  StreamVision等のツールを使用して、FA+のコード名称マスタをCSVファイルとして抽出します

  ※詳しくは「 2-2.コード名称マスタデータの抽出」をご覧ください

- **パターンファイルの作成**

  パターンファイル生成Excelにて、パターンファイルのメンテナンス、および、パターンファイルの作成を行います

  ※詳しくは「 2-3.パターンファイルの作成」をご覧ください

- **ツール事前チェック**

  不正なデータが存在しないかなどのチェックを行います
  [コード名称マスタ移行支援ツール]によるチェックが可能です

- **コード名称マスタ移行実行**

  [コード名称マスタ移行支援ツール]により、コード名称マスタを移行します

  ※詳しくは「 2-4.コード名称マスタ移行事項」をご覧ください
  ※コード名称マスタの移行件数については、[固定資産・リースデータ移行支援ツール]にて確認できます

- **ツール事後チェック**

  [固定資産・リースデータ移行支援ツール]により、移行元と移行結果のコード名称マスタ件数の比較が可能です

  ※詳しくは「 2-5.固定資産・リースデータの移行」をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

ステップ7
固定資産・リースデータの移行

・ツール事前チェック
変換テーブルの設定値がNXFAのマスタに登録されているか等をチェックします
[固定資産・リースデータ移行支援ツール]によるチェックが可能です

・移行の実行
[固定資産・リースデータ移行支援ツール]により、固定資産・リースデータを移行します

・追加処理の実行
期中で移行した場合、償却費、増加利息履歴を作成する追加処理を実行します

・ツール事後チェック
移行元と移行結果のデータ件数の比較を行います
[固定資産・リースデータ移行支援ツール]によりデータ件数の出力が可能です
コード名称マスタの移行元と移行結果のデータ件数についても同時に出力されます
※詳しくは「 2-5.固定資産・リースデータの移行」をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2.移行支援ツールの実行

ステップ 8
事後作業

SuperStream-NXにて、移行を実行した後に、移行先で事後の作業を行います

※詳しくは「 Ⅲ.固定資産移行に伴う事前/事後作業」の事後作業の項目をご覧ください

ステップ 9
追加作業

SuperStream-NXにて、移行を実行した後に、新規機能の追加設定を行います

※詳しくは「 Ⅲ.固定資産移行に伴う事前/事後作業」の追加作業の項目をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

変換マスタ設定

SuperStream-FA+（移行元）からSuperStream-NXFA（移行先）へのデータ移行を実施する際に、変換を必要とする設定を事前に登録します

変換マスタ	必須－任意	備考
除去債務形態コード変換マスタ (MG_V2NX.MGCNVJSK)	任意	FA+の除去債務形態コードと、NXFAの取得形態コードの紐付けを設定します
契約管理部門変換マスタ (MG_V2NX.MGCNVKYB)	任意	FA+の契約管理部門コードと、NXFAの管理単位コードの紐付けを設定します
資産科目コード変換マスタ (MG_V2NX.MGCNVSKM)	任意	FA+の資産科目コードと、NXの科目コードの紐付けを設定します
資産番号変換マスタ (MG_V2NX.MGCNVSNO)	任意	FA+とNXFAの資産番号の紐付けを設定します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

○固定資産・リースデータ移行支援ツール (NXFAV2App.exe)

【メニュー】画面

①除去債務形態コード変換メンテナンス
：除去債務形態コード変換マスタを設定します
②契約管理部門コード変換メンテナンス
：契約管理部門変換マスタを設定します
③資産科目コード変換メンテナンス
：資産科目コード変換マスタを設定します
④資産番号変換メンテナンス
：資産番号変換マスタを設定します

⑤会社変換メンテナンス
：統合会計の移行支援ツールと同様に、会社変換メンテナンス画面を起動できます
統合会計と共通のマスタになるため、設定を変更する際はご注意ください

⑥FAバッチ実行用 実行パターン作成
：FAバッチ実行用 実行パターン作成画面を起動します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

○コード名称マスタデータの抽出

概要

・固定資産のコード名称マスタの移行には、CSV形式で出力されたファイルが必要となります
必要となるテーブルは、「コード名称マスタ抽出対象テーブル一覧」を参照してください

・CSVファイルは、対象テーブル毎に「<テーブルの物理名>.csv」という名称で作成し、
必ずヘッダ付きで作成してください

※AP+未導入によりテーブルが存在しない、或いはデータが1件も格納されていない場合も、ヘッダのみ
記述されている空のファイルが必要となります

・次項では、StreamVisionを使用してCSVファイルを抽出する手順について説明します

CSVファイルサンプル

FACDRMST.csv - メモ帳

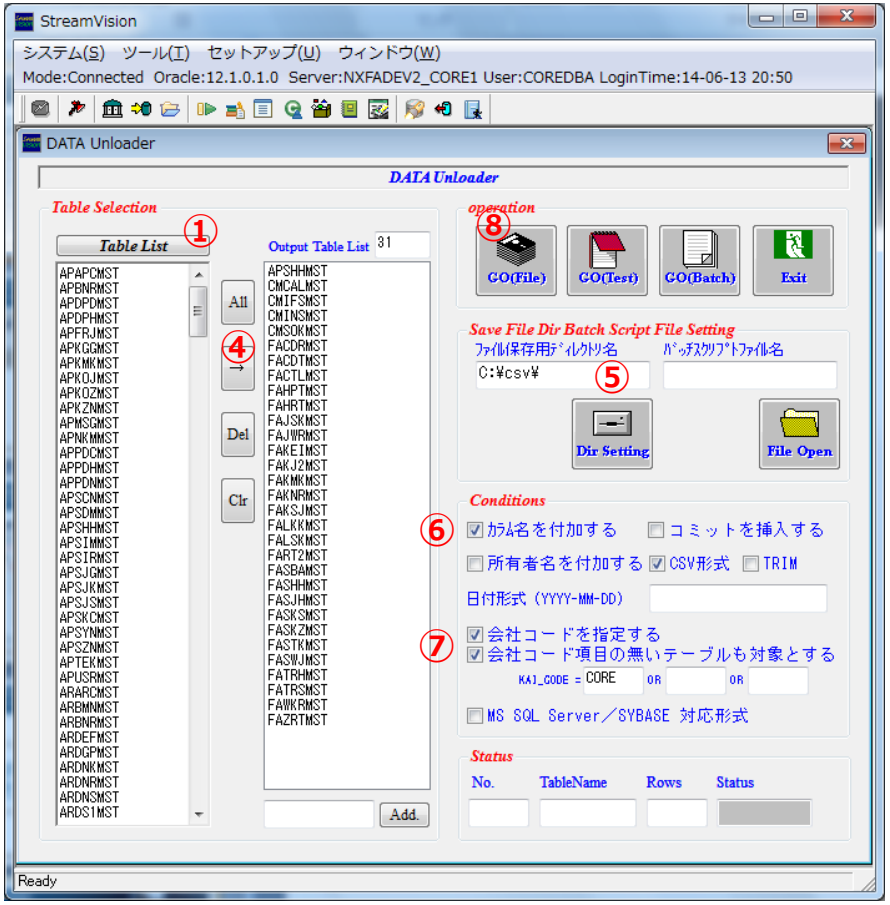
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

```
KAI_CODE,ITEM_ID,RIY_JKY_KBN,RIY_ATR,RIY_LENGTH,CODE_RIY_MCHK_KBN,IN_USR_ID,RPL_USR_ID,IN_TIME,RPL_TIME,LOCK_VER_INF
CORE,01,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,02,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,03,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,04,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,05,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,06,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,07,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,08,1,1,6,1,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,09,0,1,,0,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,10,0,1,,0,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,11,0,1,,0,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
CORE,12,0,1,,0,SUPERVISOR,SUPERVISOR,2014/05/28 13:52:31,2014/05/28 13:52:31,ロック用VER.情報
```

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2-2.コード名称マスタデータの抽出

StreamVision　Data Unloader

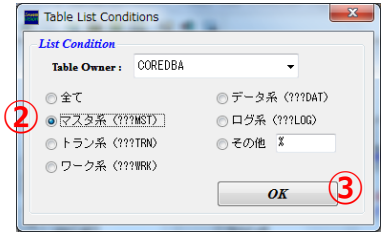


■手順

StreamVisonを使用し、コード名称マスタデータの抽出を行います。

StreamVisionにて***SuperStream*-CORE**データベースにログインし、メニューからデータアンローダーを起動してください

①Table Listボタンを押下し、②マスタ系を選択して、③OKボタンを押下してください



④「コード名称マスタ抽出対象テーブル一覧」のテーブルを全て選択し、「→」ボタンを押下してください

※時間はかかりますが、「ALL」で一括選択しても問題ありません

⑤ファイル保存用ディレクトリ名に出力先パスを入力します

⑥「カラム名を付加する」「CSV形式」をチェックし、「TRIM」のチェックを外してください

⑦「会社コードを指定する」をチェックすると、出力対象とする会社コードを指定できます

「会社コード項目の無いテーブルも対象とする」を必ずチェックしてください

⑧GO(File)ボタンを押下すると、CSVファイルが出力されます

©SuperStream Inc. All rights reserved.

コード名称マスタ抽出対象テーブル一覧

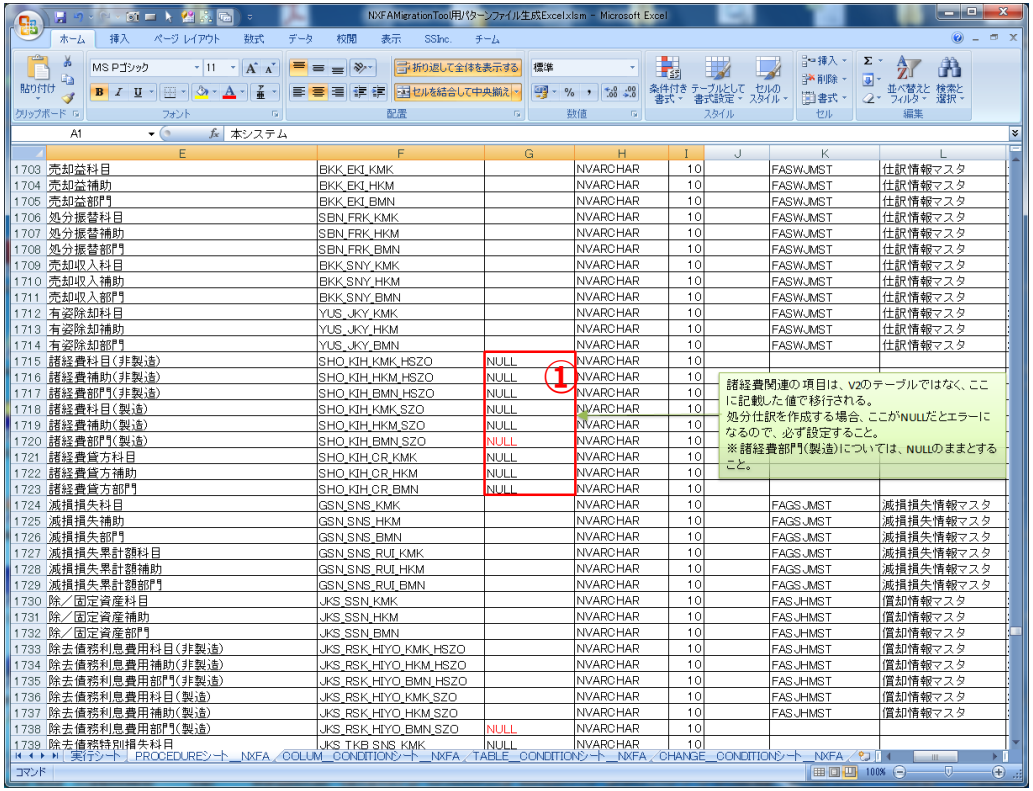
テーブル物理名	テーブル名
APSHHMST*	支払方法マスタ
CMCALMST*	会計カレンダー
CMIFSMST*	IFRS管理マスタ
CMINSMST*	システム導入状況
CMSOKMST*	組織マスタ
FACDRMST	コード利用設定マスタ
FACDTMST	コード定義マスタ
FACTLMST	コントロールテーブル
FAGSJMST	減損損失情報マスタ
FAHPTMST	配賦パターンマスタ
FAHRTMST	配賦率マスタ
FAJSKMST	除去債務形態マスタ
FAJWRMST	除去債務割引計算利子率マスタ
FAKEIMST	契約形態マスタ
FAKJ2MST	会社情報マスタ２
FAKMKMST	インターフェース科目マスタ
FAKNRMST	管理単位マスタ
FAKSJMST	会社情報マスタ

テーブル物理名	テーブル名
FALKKMST	リース会計基準マスタ
FALSKMST	リース会社マスタ
FART2MST*	償却率マスタ２
FASBAMST	設置場所マスタ
FASHHMST	支払方法マスタ
FASJHMST	償却情報マスタ
FASKSMST	申告先マスタ
FASKZMST	償却資産税残高マスタ
FASTKMST	取得形態マスタ
FASWJMST	仕訳情報マスタ
FATRHMST	取引先マスタ
FATRSMST	トランザクション採番マスタ
FAWKRMST	割引計算利子率マスタ
FAZRTMST	消費税率マスタ

*本ツールでは移行されませんが、他のテーブルの移行において、必要となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

NXFAMigrationTool用パターンファイルメンテ
台帳別償却情報マスタ(諸経費科目情報)



■手順

・移行ツールCDから複写したローカル(¥ 02_Tool)のNXFAMigrationTool用パターンファイル生成Excel.xlsmをEXCELで修正します

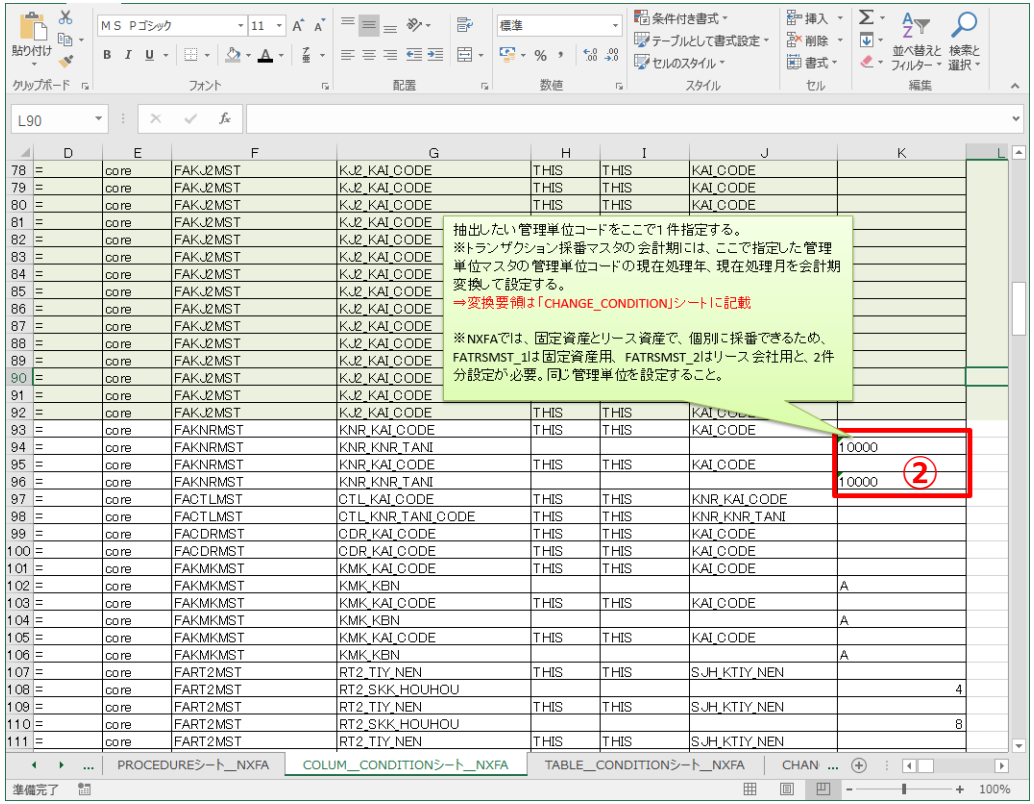
①PROCEDUREシート__NXFAシートの諸経費科目(非製造)情報と諸経費科目(製造)情報を設定します
“固定資産処分仕訳作成しない”の場合は設定不要です

【注意】
諸経費部門(製造)については、NULLのまま変更しないようにしてください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

NXFAMigrationTool用パターンファイルメンテ

トランザクション採番マスタ(代表管理単位指定)



■手順

②COLUM__CONDITIONシート__NXFAシートに管理単位コードを設定します

NXFAでは、トランザクション採番マスタを会計期単位に保持します

ここで指定した管理単位マスタの現在処理年を会計期変換し、NXFAトランザクション採番マスタに移行します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

○コード名称マスタ移行支援ツール (NXFAMigrationTool.exe)

【移行処理】画面

■各ボタン説明

①チェックのみ
　移行は行わず、チェックのみを行います

②SQL出力
　移行は行わず、取込用のINSERT文を出力します

③CSV出力
　移行は行わず、取込データのCSVファイルを出力します

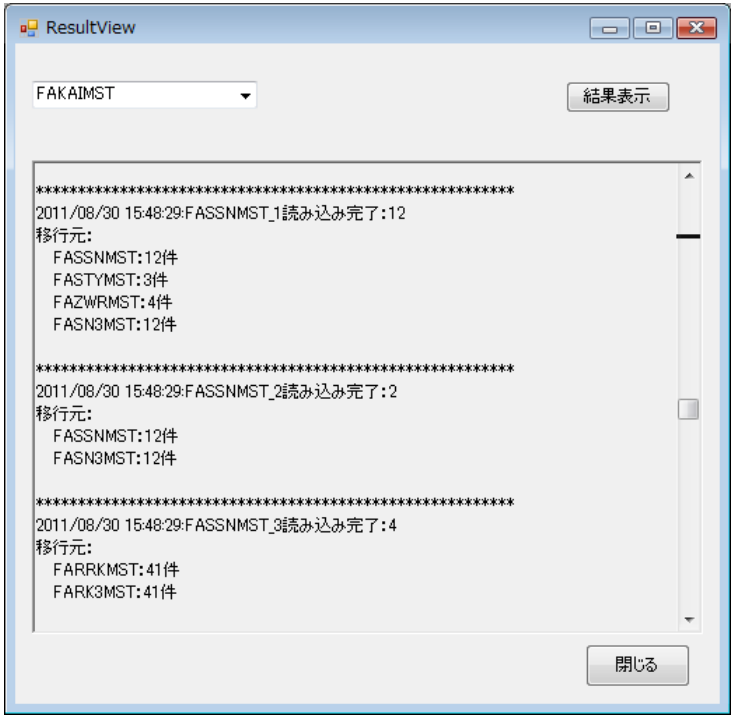
④実行ボタン
　コード名称マスタの移行処理を実行します。

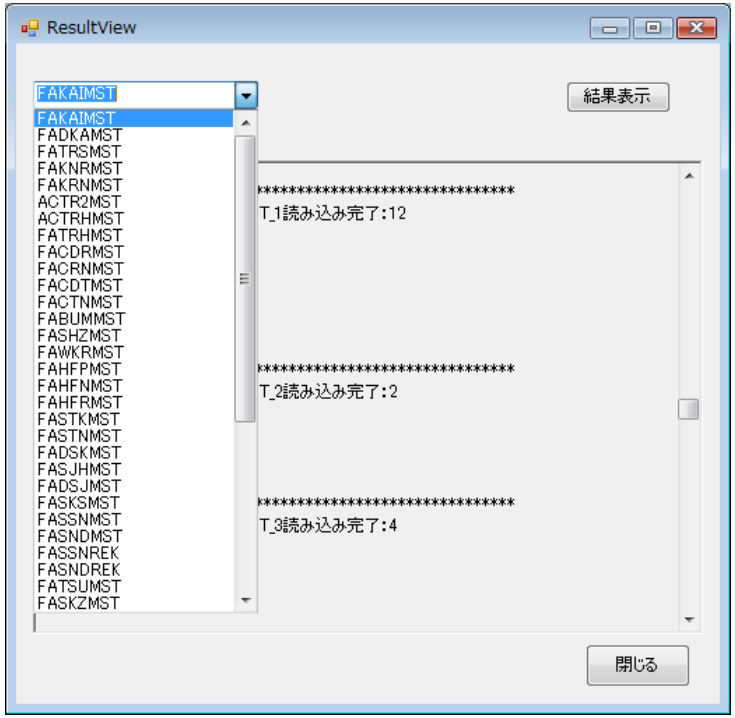
⑤資産データ移行
　「固定資産・リースデータ移行支援ツール」を起動します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

コード名称マスタ移行支援ツール：ResultView

移行処理が終了すると、「ResultView」画面が表示されます
移行処理の結果を確認することができます





【注意】
移行元のFA+のデータ件数と、実際に移行されたNXのデータ件数については、[固定資産・リースデータ移行支援ツール]の事後チェックでも、まとめて確認することができます

©SuperStream Inc. All rights reserved.

○バッチ形式

概要

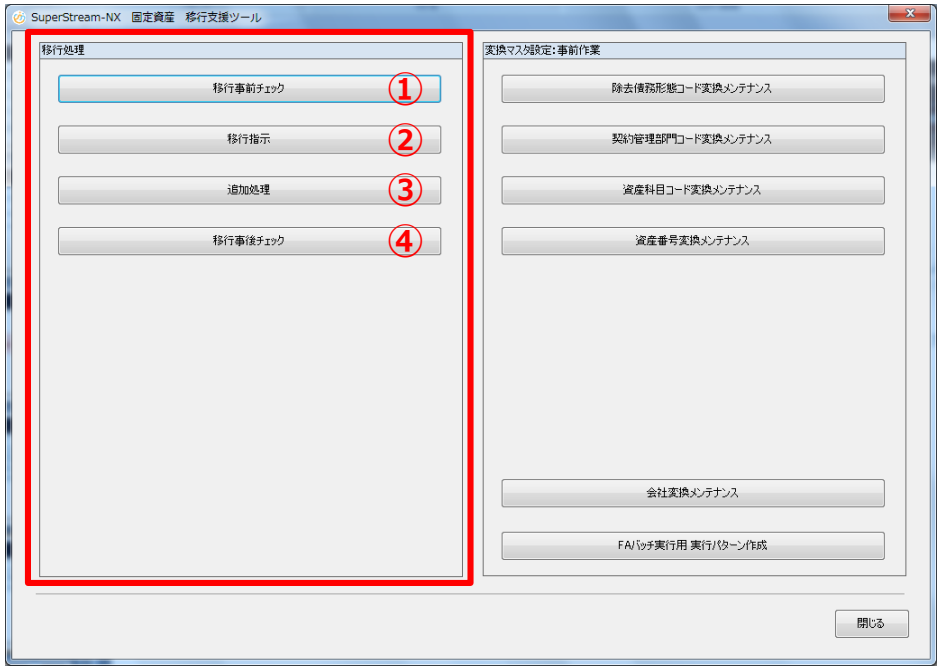
・コード名称マスタ移行支援ツールは、バッチから実行することができます
・対象会社や各種パスの設定は、同じ場所に配置している設定ファイル（batRun.ini）に記述し、実行ファイルと同じ場所に配置しておく必要があります

注意事項

・コード名称マスタ移行支援ツールでは、バッチ用の実行ファイルと、画面から起動する実行ファイルは異なります
「¥02_Tool¥Bat」フォルダの下のファイルが、バッチ用の実行ファイルとなります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

○固定資産・リースデータ移行支援ツール (NXFAV2App.exe)



【メニュー】画面

①移行事前チェック
　：移行事前チェックを実行します
②移行指示
　：固定資産・リースデータの移行処理を実行します
③追加処理
　：償却費、増加利息の履歴データを作成します
④移行事後チェック
　：移行事後チェックを実行します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

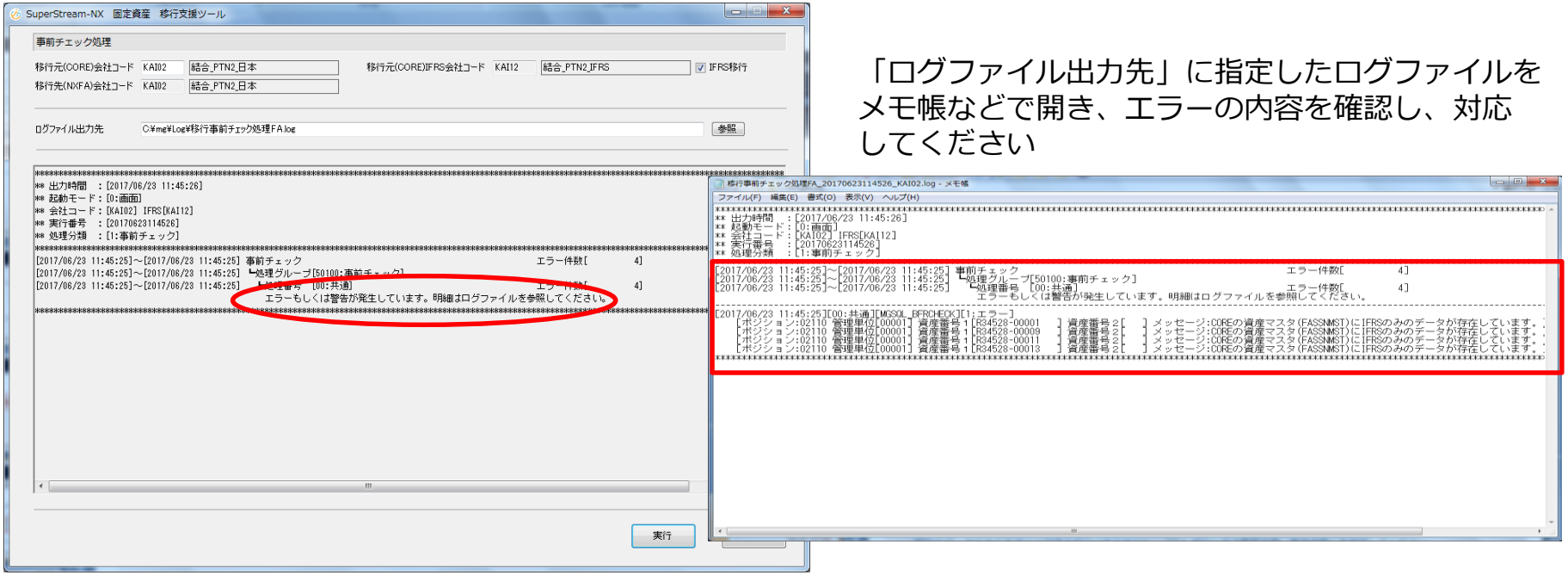
Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2-5.固定資産・リースデータの移行

①移行事前チェック処理 → ②移行処理 → ③追加処理 → ④移行事後チェック処理　　バッチ形式

①移行事前チェック

移行前に*SuperStream*-FA+、SuperStream-NXFAのデータベースに対し、移行のための事前準備が済んでいるかチェックを行います

固定資産・リースデータ移行支援ツール【事前チェック処理】画面



「ログファイル出力先」に指定したログファイルをメモ帳などで開き、エラーの内容を確認し、対応してください

- **移行事前チェック実行後、問題となる箇所について、エラー件数を表示します**
- **エラーの詳細は、ログファイルを確認します**

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2-5.固定資産・リースデータの移行

①移行事前チェック処理 → **②移行処理** → ③追加処理 → ④移行事後チェック処理　　バッチ形式

②移行処理

・画面で指定したテーブルについて、固定資産・リースデータの移行を実施します
・移行処理では、 ***SuperStream*-FA**+側のデータをSuperStream-NXFAのテーブルレイアウトに変換し移行します※詳細につきましては、補足資料「ＤＢ項目比較表_固定資産.xls」をご参照ください
・資産履歴マスタ・年月別資産履歴マスタについては、月単位でのデータ移行・コミットを行います

■処理グループと移行先NXFAテーブル一覧表

処理グループ	テーブル名	エンティティ名
①資産	FASSNMST	資産マスタ
	FASNDMST	資産台帳マスタ
②資産履歴	FASSNREK	資産履歴マスタ
	FASNDREK	資産台帳履歴マスタ
③当年度償却内訳	FATSUMST	当年度償却内訳マスタ
④年月別資産	FANSNMST	年月別資産マスタ
	FANSDMST	年月別資産台帳マスタ
⑤除去債務	FAJTRMST	除去債務月別利息テーブル
	FAJSRMST	除去債務処分用月別利息テーブル
⑥契約	FAKYKTRN	契約トラン
	FAKYDTRN	契約台帳トラン
⑦物件	FABKNTRN	物件トラン
	FABKDTRN	物件台帳トラン
	FAGSKTRN	賃貸借リース減損回次トラン
⑧支払	FASHRTRN	支払トラン
	FASHKTRN	支払回次トラン

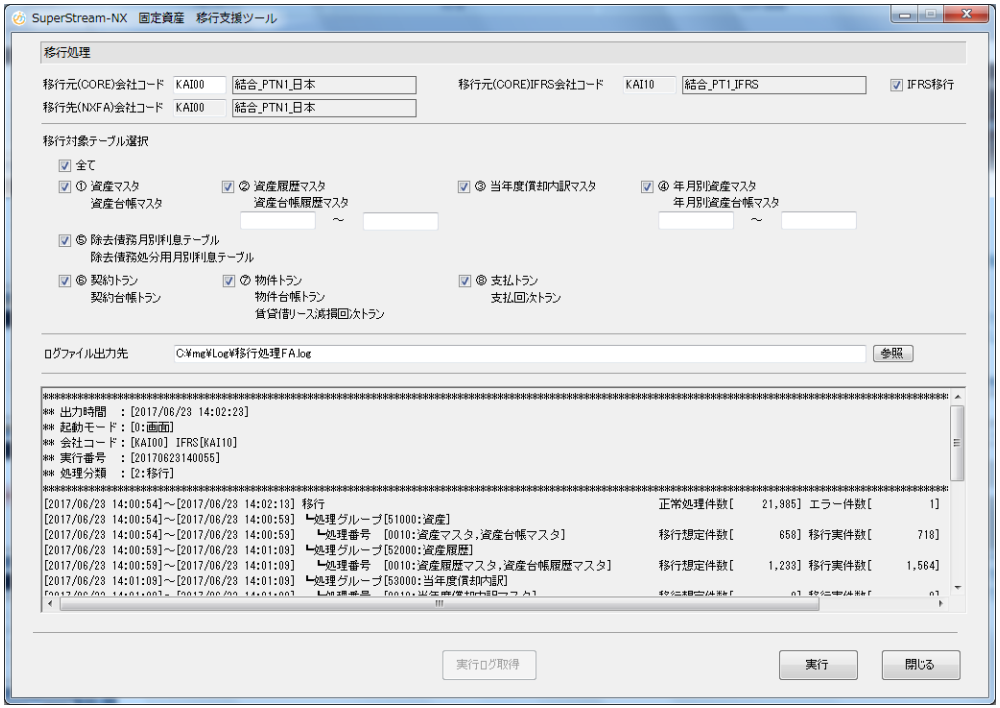
©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2-5.固定資産・リースデータの移行

①移行事前チェック処理 → **②移行処理** → ③追加処理 → ④移行事後チェック処理

バッチ形式

固定資産・リースデータ移行支援ツール【移行処理】画面



＜実行後の画面イメージ＞

・移行処理にてエラーが発生した場合、処理結果表示エリアにエラー件数が表示されます

「ログファイル出力先」にて指定したログファイルをメモ帳などで開き、エラーの内容を確認し、対応してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

①移行事前チェック処理 → ②移行処理 → **③追加処理** → ④移行事後チェック処理

バッチ形式

③追加処理

・追加処理には、以下の機能があります
- 「期中で移行した場合に、前月までの償却費、増加利息履歴データを作成する」
  FA+では、償却費、増加利息について、履歴データが存在していない為、NXFAに移行されません
  NXFAでは、固定資産増減表等の帳票で、期首から基準年月までの償却費、増加利息履歴データを参照しており、期中で移行した場合、履歴データが存在せず、金額が正しく表示されなくなるため、本機能にて、履歴データを作成する必要があります

注意事項

- 本処理は、NXFAに移行された年月別資産マスタから、履歴データを作成します
  移行を行った会計期の、年月別資産マスタの移行が完了してから実行してください
- 本処理は、期中で移行を行う場合に実施してください
  期首時点で移行する場合は、実施不要となります
- 本処理が作成する履歴データは、当年度分のみとなります
- 本処理では、既に存在している償却費、増加利息履歴データを削除してから、作成を行います
  NXFAの運用を開始した後は、本処理は実行しないようにしてください

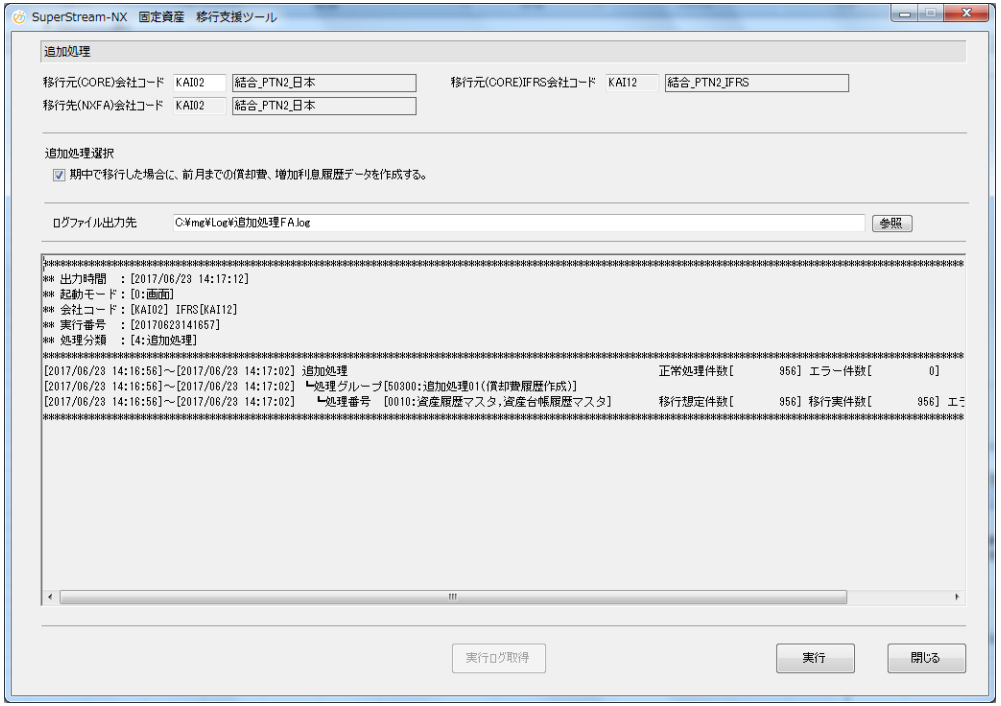
©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
2-5.固定資産・リースデータの移行

①移行事前チェック処理 → ②移行処理 → **③追加処理** → ④移行事後チェック処理

バッチ形式

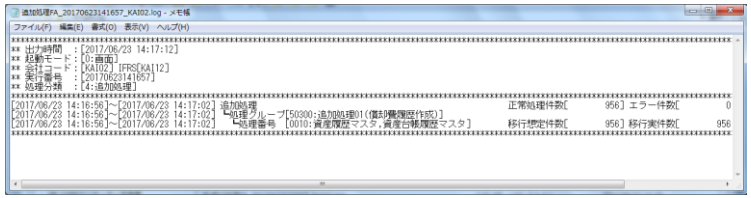
固定資産・リースデータ移行支援ツール【追加処理】画面



<実行後の画面イメージ>

・追加処理にてエラーが発生した場合、
処理結果表示エリアにエラー件数が表示されます

「ログファイル出力先」にて指定したログファイルをメモ帳などで開き、エラーの内容を確認し、対応してください

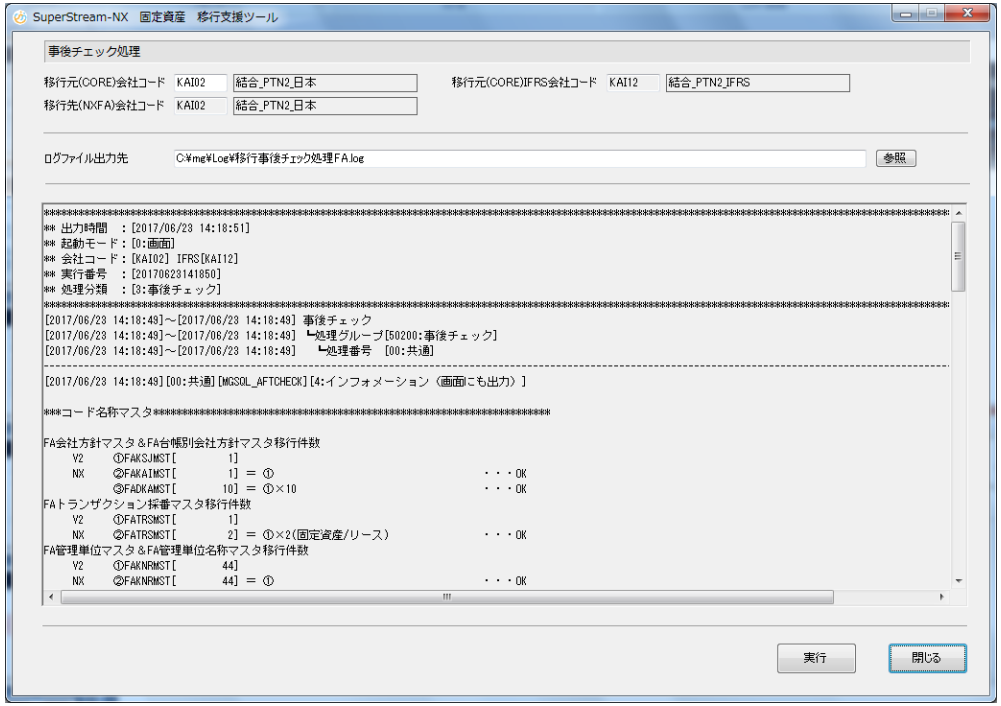


©SuperStream Inc. All rights reserved.

①移行事前チェック処理 → ②移行処理 → ③追加処理 → **④移行事後チェック処理**　　バッチ形式

④移行事後チェック

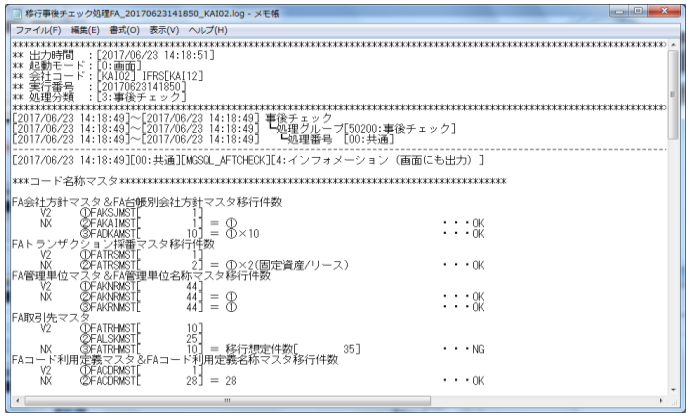
固定資産・リースデータ移行支援ツール【事後チェック処理】画面



＜実行後の画面イメージ＞

事後チェック処理では、移行元、移行先のテーブルの件数が出力されます

「ログファイル出力先」にて指定したログファイルをメモ帳などで開いてください



©SuperStream Inc. All rights reserved.

①移行事前チェック処理 → ②移行処理 → ③追加処理 → ④移行事後チェック処理　**バッチ形式**

バッチ形式

概要

・【FAバッチ実行用 実行パターン作成】画面で登録した内容で、移行事前チェック、移行処理、移行事後チェックを実施します
・各処理は統合会計移行支援ツールの【会社変換メンテナンス】画面で処理対象が「1:対象」の全ての会社を対象とし、各処理対象会社に設定されている処理順で実施します

注意事項

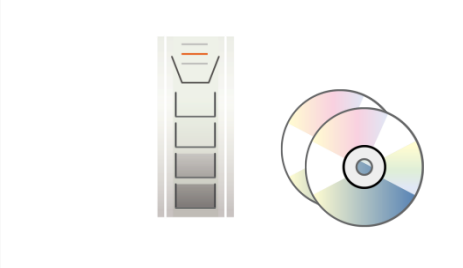
・事前に【FAバッチ実行用 実行パターン作成】画面で、設定を登録する必要があります
・バッチ形式では、処理結果やエラー内容はログファイルにのみ出力されます
処理完了時、および、エラー発生時にはログファイルをご確認ください
・バッチ形式では、自分でバッチファイルを作成し、実行する必要があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.固定資産管理移行作業手順
3.動作確認及び本番化

移行支援ツールを利用した移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業



①NXFAのインストール

②移行支援ツール環境構築

③移行支援ツールインストール

移行支援ツールの実行

④変換テーブルの設定

⑤事前作業

⑥コード名称マスタの移行

⑦固定資産・リースデータの移行

⑧事後作業

⑨追加作業

動作確認および本番化

⑩動作確認

⑪クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

動作確認および本番化作業の手順

データ移行後、動作確認を実施し、運用を行える状態となっているか確認します
動作確認および本番化の手順を、以下に説明します

ステップ１０
動作確認

移行後のシステムが利用できる状態となっているか、動作を確認します

ステップ１１
クリーンアップ

スクリプトで提供したデータベース情報などを削除します
また、移行支援ツールをアンインストールします
※詳しくは統合会計移行支援ツールマニュアルのクリーンアップの章をご覧ください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理
移行に伴う事前作業と事後作業

1．作業一覧
2．追加作業
3．運用上の注意

※COREシリーズとNXシリーズで機能の差異があります
この差異に伴い、事前作業、事後作業が発生する場合があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

作業一覧

機能差異に伴い「移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業」、「移行支援ツールの変換マスタ設定」、「移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業」が必要になります
「移行支援ツールの変換マスタ設定」については
「Ⅱ.固定資産移行作業手順 2-1.変換マスタの設定手順」も合わせてご確認ください

■固定資産

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
1	「償却計算の取消」を実施した状態で移行しないでください	月次更新を実施してください	–	–	–
2	NXFAでは現在処理年月が異なる管理単位は認めていないため、移行前に全ての管理単位の現在処理年月を同月に変更する必要があります	全ての管理単位の現在処理年月を同月に変更してください	–	–	–
3	FA+で月次更新後、「仕訳データ作成」を実行して移行を実施してください。仕訳連携前に移行しても、NXFAでは前月の償却費仕訳は作成されません	月次更新後、「仕訳データ作成」を実行してください	–	–	–
4	「資産履歴データ退避/復元」機能で退避されている履歴データは移行対象外になります	退避済みの履歴データも移行とする場合、移行前に復元処理を実施してください	–	–	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
5	NXFAとFA+では、物件番号と物件枝番の桁数が異なっているため、切り捨てて移行されます ・FA+　：物件番号(20)、物件枝番(5) ・NXFA：物件番号(15)、物件枝番(3) 番号が切り捨てられた結果、同一物件番号、物件枝番になる場合、移行時にエラーとなるため、移行前に物件番号と物件枝番を一意になるように修正する必要があります	切り捨てられた結果、同一物件番号、物件枝番になる場合、移行前に物件番号と物件枝番を一意になるように、いったんリース契約を削除し、再登録を行ってください	–	–	–
6	FA+では専用の資産科目マスタを管理しているため、移行時にNX統合会計の科目マスタのコードに変換して移行する必要があります	–	資産科目コード変換マスタに固定資産科目がNX統合会計のどの科目になるのか設定してください	–	–
7	FA+で異なる管理単位で、同じ資産番号がある場合、NXFAにそのまま移行できないため、別の資産番号に変換して移行する必要があります	–	資産番号変換マスタに新しい資産番号を設定してください	–	–
8	取得形態マスタと除去債務形態マスタを1つのマスタにまとめて移行されます。取得形態コードと除去債務形態コードに同一コードがあった場合、コードが重複しますので、除去債務形態コードを別のコードに変換する必要があります	–	除去債務形態コード変換マスタに新しい除去債務形態コードを設定してください	–	–
9	NXFAでは契約管理部門は廃止し、代わりにリース契約に対して管理単位を設定するようにしたため、移行時にFA+の契約管理部門コードを管理単位コードに変換する必要があります	–	契約管理部門コード変換マスタに契約部門がどの管理単位になるのか設定してください	–	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
10	申告先マスタの課税台帳備考が6個から4個に変更になっています 課税台帳備考は1～4を移行対象とし、課税台帳備考5、6については移行対象外になります	–	–	必要に応じて、申告先マスタの備考４に設定してください	–
11	付帯情報関連テーブルは、移行対象外になります	–	–	必要に応じて、資産管理マスタ登録にて付帯情報を登録してください	–
12	NXで本支店管理をしている場合、NXFAから本支店振替仕訳を連携するために必要な本支店振替用の伝票グループの設定が必要になります	–	–	システム区分内部コード:391 本支店振替（FA用）を使用した伝票グループを作成後、本支店別伝票グループマスタ登録で登録してください	–
13	FA+で会社情報マスタのCOREへのインタフェース方法「2」で設定している場合、減損損失科目などは「グループパターン、階層レベル、グループコード」単位で設定されています NXFAでは種類、構造用途、細目単位で設定するため、減損損失科目などは移行対象外としています	–	–	移行後、償却情報マスタの減損損失などの科目を設定してください	–
14	NXFAでは管理単位別部門マスタは存在しないため、移行対象外となります。またFA+のFAユーザマスタは、NXFAとセキュリティの設定単位が異なるため、移行対象外になります	–	–	FAユーザーグループマスタの以下のセキュリティを設定してください ・他ユーザー登録資産参照権限 ・他部門資産異動権限	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
15	FA取引先マスタでリース会社が対象になっているコードは、処分先も対象に設定する必要があります	–	–	FA取引先マスタにて、リース会社が対象になっているコードは処分先も対象に設定してください	–
16	FA+では「非償却」の資産でも減価償却額に1円以上を設定することができますが、NXFAでは不正データとなります	–	–	減価償却額が入力誤りの場合、固定資産異動入力から「変更」で、「当年度減価償却累計額」「減価償却総累計額」を0円に、「残存価額」を「取得価額-減損損失総累計額」に変更してください 入力誤りではなく、当該資産の簿価を合わせたいということであれば、固定資産異動入力から「変更」で、「減価償却総累計額」を0円に変更し、同時に「減損損失総累計額」に「減価償却総累計額」の減額分を加算してください	–
17	NXFAでは利息計算の「級数法」に対応していないため、「級数法」に設定されている場合、会社方針マスタの利息相当額算定方法が未設定状態で移行されます また同様に所有権移転外FL減価償却の「級数法」に対応していないため、「級数法」に設定されている場合、会社方針マスタの所有権移転外FL減価償却を未設定状態で移行されます	–	–	運用開始前に、利息相当額算定方法に対して利息法もしくは定額法のいずれかを設定してください 所有権移転外FL減価償却に対してリース定額法もしくは10/9定率法のいずれかを設定してください	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
18	FA+ではリース物件の部門設定時、費用管理部門マスタを参照していましたが、NXFAでは直接NX統合会計の部門マスタを参照するようにしました。データ移行時には物件の部門コードを費用管理部門マスタのCORE部門コードに置き換えて移行します 費用管理部門マスタのCORE部門コードが未登録の場合、FA+の費用管理部門コードがそのまま移行されます	–	–	リース資産異動入力（変更）から、リース物件の負担部門を、NX統合会計の部門コードに修正してください	–
19	NXFAでは、リース支払仕訳を会計（GL）に連携している場合でも、決裁科目は仕入先マスタの振込元口座に設定されている科目を利用しています 支払方法コードを元に導出するため、FA+のCORE支払科目は移行対象外になります	–	–	仕入先マスタの振込元口座に決裁科目を設定してください	–
20	FA+の取引先マスタ・リース会社マスタは、NXFAのFA取引先マスタとして移行されますが、NXFAでは直接NXの仕入先マスタを参照しています。そのため、FA+の取引先マスタ・リース会社マスタの共通仕入先コードに設定されているコードに変換して移行します なお、共通仕入先コードがNULLの場合、移行対象外になります また、固定資産やリース物件のデータには購入先、処分先、保守先、保守支払先が設定されていますが、共通仕入先コードがNULLの場合、そのままのコードで移行されるため、マスタにないコードが設定されたままとなります	FA+で共通仕入先コードがNULLの取引先コードを洗出し、共通仕入先コードを設定してから移行してください	–	事前にFA+で共通仕入先コードを設定していない場合、共通仕入先コードがNULLの取引先コードを、NX統合会計の仕入先マスタとNXFAのFA取引先マスタのそれぞれに登録してください （コード名称マスタ移行支援ツールの実施後に、登録対象のデータがファイルに出力されます）	–
21	NXFAでは、リース資産に対して償却方法に非償却は設定不可としています FA+で償却方法が非償却のリース資産は、そのまま移行されますので、修正を行ってください	–	–	以下の通り、非償却から変更し、残存価額を設定してください ・資産タイプ：有形償却、無形償却 ・償却方法：リース定額法、10/9定率法 ・残存価額：取得価額と同額	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
22	FA+ではAP+とは別に支払方法マスタを保持していましたが、NXFAでは直接NXの支払方法マスタを参照しています そのため、リース契約の支払スケジュールに設定されている支払コードは、FA+の支払方法マスタのAP+支払方法外部コードに設定されているコードに変換して移行します FA+の支払方法マスタのAP+支払方法外部コードがNULLの場合、そのままFA+の支払方法コードで移行されます	–	–	移行後、統合会計で支払方法マスタを登録してください	–
23	NXのユーザー別伝票発番グループについて、移行支援ツールではNXFAのユーザーグループコードは自動で作成しないため、別途登録する必要があります	–	–	NX統合会計にて、NXFAのユーザー別伝票発番グループを登録してください	–
24	FA+では、リース物件の各科目ごとにCORE機能コード1～4を保持していましたが、NXFAではリース物件に対して1つの会計機能コードの設定となっています どの科目のCORE機能コードを移行すればよいか判断が付かないため、NXFAのリース物件の会計機能コードはNULLで移行しています	–	–	移行後、リース資産異動入力（変更）の物件画面で会計機能コード1～4、プロジェクトを入力してください	–
25	除去債務対象のリース資産は、除去債務対象外資産と除去債務対象資産に按分されますが、月額リース料とリース料総額は除去債務対象外資産にのみ移行されます 除去債務対象資産の月額リース料とリース料総額はゼロで移行されます	–	–	移行後、固定資産異動入力（変更）画面から月額リース料とリース料総額に適切な金額を入力してください	–
26	NXFAでは、FA消費税率マスタで賃貸借処理のリース契約の仕訳データで使用する税処理コードを設定できます	–	–	移行後、FA消費税率マスタで消費税率に対応する税処理コードを登録してください	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
27	FA+では少額資産登録時、資産タイプ＝有形固定資産、会/償却方法＝非償却で登録されますが、NXFAでは会計台帳・資産タイプ＝有形非償却、償却方法＝非償却で登録されます 移行時には会計台帳・資産タイプはそのまま移行されるため、画面から修正する必要があります	–	–	移行後、会計台帳・資産タイプを有形非償却に修正してください	–
28	FA+で除去債務対象に設定されている資産は、本体資産と除去債務資産を取得価額の割合で按分し、2つの資産データ（除去債務対象外資産と除去債務資産）に分けて移行されます なお、除去債務資産の資産番号1は移行元と同一、資産番号2（枝番）は、001で作成されますが、移行元に枝番がある場合は、次の番号を採番して移行されます	–	–	–	–
29	NXFAの会社方針マスタの除去債務利息計上タイミング区分は、償却費計算タイミング区分と同じ値が設定されます	–	–	必要に応じて、移行後、FA会社方針マスタ登録画面にて、除去債務利息計上タイミング区分を変更してください	–
30	NXFAでは、償却費科目などについて、非製造と製造で振り分けて設定することができますが、FA+で設定されている科目は1種類なので、移行時には同じ科目が設定されます	–	–	必要に応じて、各資産の科目を見直してください	–
31	FA+で「外貨未使用」にも関わらず、外貨が設定されているデータが存在する場合、そのまま移行されます	あらかじめFA+で外貨が設定されている資産データを洗い出し、NULLを設定してください	–	–	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
1.作業一覧

No.	移行制限もしくは機能差異の概要	移行支援ツール実行前に行うFA+の事前作業	移行支援ツールの変換マスタ設定	移行支援ツール実行後に行うNXFAの事後作業	備考
32	資産名称等、名称系の項目において、FA+では「,」（カンマ）と「'」（シングルクォーテーション）は、使用可能ですが、NXFAでは使用不可です 移行時にはエラーは発生しませんが、移行後のマスタ登録画面等で、エラーが発生する場合があります	可能であれば、「,」（カンマ）と「'」（シングルコーテーション）は他の文字に置き換えるか、削除してください	–	対象の文字が移行されてしまった場合、NXのDB上で、他の文字に置き換えるか、削除してください	–
33	移行データについて、コード系の項目にNXの禁則文字（カナ等）が含まれている場合、移行時にエラーが発生する可能性があり、移行できた場合も、後続処理でエラーとなる場合があります ※NXFAの禁則文字が、FA+のテーブルに存在するかをチェックするには、以下のSQLにて確認可能です SELECT ｛カラム名｝ FROM ｛テーブル名｝ WHERE NOT REGEXP_LIKE(TRIM(｛カラム名｝), '^([0-9]|[a-z]|[A-Z]|¥!|¥#|¥$\|¥%\|¥&\|¥(\|¥)\|¥=\|¥-\|¥~\|¥^\|¥\|\|¥¥\|¥`\|¥@\|¥{\|¥}\|¥[\|¥]\|¥*\|¥:\|¥+\|¥;\|_\|¥?\|¥/\|¥>\|¥.\|¥<)+$', 'c'); 確認が必要なコード系の項目については、補足資料「禁則文字チェック項目一覧_固定資産.xls」をご参照ください	FA+の各テーブルにNXFAの禁則文字が含まれるかどうかを洗い出し、NXFAで使用できるコードに変換してください	–	–	–
34	NXFAに移行した場合、減損管理する設定で移行されますが、NXFAでは、減損管理の有無を切り替えることが可能です	–	–	必要に応じて、移行後、FA会社方針マスタ登録画面にて、減損管理を変更してください	–
35	FA+では、リース物件情報に保守備考を入力して管理していますが、NXFAでは保守備考を保持する項目が無いため、移行されません	–	–	必要に応じて、移行後、物件や物件台帳の備考欄などに登録してください	–

©SuperStream Inc. All rights reserved.

追加作業

NXFAで新たに追加された機能のうち、運用で使用するマスタの新規設定を行います
製品マニュアル/システム設定Ｉに各マスタの詳細が記載されています
同マニュアルの「3.1 マスタの設定手順」と合わせて設定対象となるマスタをご確認ください

機能名	追加作業
会社方針マスタ	・先行入力を設定してください ・資産別仕訳摘要１、２を設定してください ・戻し仕訳を作成するか設定してください ・償却費仕訳の戻し仕訳を作成する場合、戻し仕訳（赤黒/差分）を設定してください
FAメニューロールマスタ登録	FAメニューロールマスタを新規設定してください
FAユーザーグループマスタ登録	FAユーザーグループマスタを新規設定してください
処理種別マスタ登録	異動承認を利用する際、NX統合会計と承認ルートを分ける場合は、固定資産用の処理種別を追加で設定してください
システム区分マスタ	異動承認を利用する場合、「承認あり」などに設定を変更してください
承認ユーザーグループマスタ登録	異動承認を利用する場合、承認ユーザーグループを新規設定してください
代理承認者グループマスタ登録	異動承認を利用する場合、代理承認者を新規設定してください
ワークフロー部内承認ルートマスタ登録	異動承認を利用する場合、部内承認ルートを新規設定してください
ワークフロー主管承認ルートマスタ登録	異動承認を利用する場合、主管承認ルートを新規設定してください。
ユーザーグループ別メニューマスタ登録	ユーザーグループ別メニューマスタを利用する場合、ユーザー別メニューを新規設定してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
2.追加作業

機能名	追加作業
メールメッセージマスタ登録	異動承認を利用する場合、申請や差戻しなどで送られるメールのメッセージを登録してください
取得形態マスタ登録	必要に応じてデフォルトを設定してください
FA会計部門マスタ登録	必要に応じて管理単位コードや申告先コードなどを設定してください
伝票グループマスタ	システム区分に従って伝票グループを登録してください
ユーザー別伝票発番グループマスタ登録	システム区分に従ってユーザー別伝票発番グループマスタを登録してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

運用上の注意

機能差分に伴い移行後の運用の中で制限、注意事項がありますので運用がはじまる前に予めご確認ください

■固定資産

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
1	FA+の「会社情報マスタ設定（その他）」で「月別償却管理する」が未チェックの場合、過去の償却額を按分して自動作成するため、同会計期内で過去日付異動を行った場合の異動仕訳の調整償却費と、作成済の償却費仕訳の金額に誤差が出ることがあります	振替伝票をNX側で登録してください
2	NXFAでは、資産履歴マスタの変更レコードについて、変更前後のレコードを両方保持するように仕様が変更されているため、NXFA移行支援ツールでは、変更後レコードと同じ内容で、変更元レコードを作成するようにしています そのため、以下のような影響が生じます ・NXFAの固定資産異動照会ではデータ移行前の変更履歴は出力できません ・固定資産増減表においては、期中で金額の変更処理を行っていると、増減に差額が生じることがあります ・償却資産税申告では取得価額変更は増減に反映されません	
3	NXFAの資産台帳履歴マスタにて、IFRS台帳のデータには、会計台帳と同じ内容で履歴レコードを作成します	
4	NXFAでは、FA+とは異なり、除去債務資産と本体資産は別資産として登録します（FA+の本体資産と除去債務単独資産） そのため、NXFA移行支援ツールでは、除去債務対象資産を除去債務資産と本体資産の2資産に分解し、移行します	
5	FA+では、間接法/直接法の計上方法の設定が、有形資産、無形資産、繰延資産毎に設定しました NXでは、仕訳作成方法（有形資産）、仕訳作成方法（有形資産以外）毎に設定となります NXFA移行支援ツールではFA+の設定が、「有形資産→有形資産」、「無形資産→有形資産以外」に連携されます	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
3.運用上の注意

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
6	FA+の備考などの文字列について、NXFAでは文字数が縮小されているため、入り切らない情報は切り捨てて移行されます ・固定資産 備考【VARCHAR2（40）→NVARCHAR（20）】 ・リース資産 物件番号１【CHAR（20）→NVARCHAR（15）】 物件番号２【CHAR（5）→NVARCHAR（3）】 単位名称【CHAR（6）→NVARCHAR（5）】 備考【VARCHAR2（40）→NVARCHAR（20）】	
7	NXFAでは資本的支出の合算機能は未対応のため、合算後の資産データを移行します 合算前の資産データは移行対象外になります	
8	FA+で仕訳を作成済みの異動処理に関しても、NXFAで異動仕訳対象日の範囲に過去の日付を指定すると、異動仕訳が作成されます NXFAで異動仕訳を作成する際には、異動仕訳対象日の範囲に、移行前の日付を含めないようにご注意ください	
9	FA+では資産除去債務に対して見積変更を行った場合、変更前の情報を保持していますが、NXFAでは変更前情報を保持していないため、移行対象外になります	
10	NXFAでは「減損認識判定・入力データ作成」機能はないため、資産データに設定されている資産区分、配分区分、将来キャッシュフロー、回収可能価額などの情報は移行対象外になります	
11	FA+で資産データに添付した画像データは移行対象外になります	
12	FA+で複数帳簿運用を行っている場合、IFRS会社の税務台帳はメモ情報のため、移行対象外になります	
13	FA+のインターフェース科目マスタの機能コード１～４、税処理コード、税入力区分、摘要は、NXFAの仕訳パターンマスタにはないため、移行対象外になります	
14	NXFAではリース契約登録時、車両リース区分による固定資産画面の省略は行っていないため、契約形態マスタの車両リース区分は移行していません	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅲ.固定資産管理移行に伴う事前作業と事後作業
3.運用上の注意

No.	運用上の制限および注意事項について	補足
15	リースの支払スケジュールおよび取引分類判定は、NXFAでは台帳別に設定できないため、会計台帳の情報を移行します	
16	FA+のコード定義マスタについて、正式名称が未設定の場合、FA+の略式名称をNXFAの正式名称と略式名称の両方に移行します	
17	NXFAでは、管理部門の入力が必須となっているため、FA+で部門コードを管理していない場合、そのまま移行することはできませんので、ご注意ください	
18	FA+の会社情報マスタが「売買リース資産登録方法：固定資産画面」の設定の場合、リース契約登録画面から登録する際、固定資産情報のない売買処理契約が登録できます NXFAでは同様の設定でも、固定資産情報のない売買処理リースは登録できないようにしています このようなリース契約は、FA+の［リース契約削除］で削除し、移行対象外としてください 移行後、売買処理リースとして移行データを作成していただき、［リース資産異動データ取込］からCSVファイルを取り込んで登録してください	
19	NXFAでは償却費科目などに製造・非製造の2つを設定できるように対応していますが、FA+では1つのみの設定となっていました そのため、移行時は償却費（製造）・償却費（非製造）には同じ科目を設定します	
20	FA+の退避用資産マスタは、処分入力した年月以降は作成されないため、NXFAでは処分年月以降の年月別資産マスタと年月別資産台帳マスタは移行されません そのため、移行後の帳票出力時、出力年月に年月別資産マスタに存在しない過去日付を指定した場合、処分資産が出力されません 資産履歴マスタから出力している帳票については、処分資産も出力されます	
21	FA+では、処分時の除去履行額にゼロ円が入力可能ですが、NXFAではゼロ円を入力することができません	

©SuperStream Inc. All rights reserved.

固定資産管理

・移行に関するFAQ

・補足資料

©SuperStream Inc. All rights reserved.

固定資産管理移行に関するFAQ

SuperStream

Q1

コード名称マスタの移行時、移行先にNXFAの会社を作成しておく必要がありますか？

Answer

移行先にNXFAの会社を作成する必要はありません
※統合会計の移行では先に会社作成をする必要があります

Q2

NX統合会計の移行作業が完了していることが前提条件としてありますが、NX統合会計の”マスタのみ”の移行が完了していれば問題ありませんか？

Answer

NX統合会計の”マスタのみ”の移行が完了していれば、NXFAの移行は可能です

Q3

NXFA移行支援ツールでは、複数回に分けての移行は可能ですか？

Answer

移行行実施年度（管理単位マスタの現在処理年月を含む会計期）のデータについては全て移行してください
前年以前分の履歴マスタと年月別マスタについては、運用開始後の移行でも問題ありません

Q4

移行実施後に使用台帳の追加はできますか？

Answer

現行バージョンではできません
使用台帳を追加したい場合は、移行支援ツールは利用せず、通常の新規導入と同様、新会社セットアップより複数台帳使用するとし、資産を登録（取込）して頂く必要があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

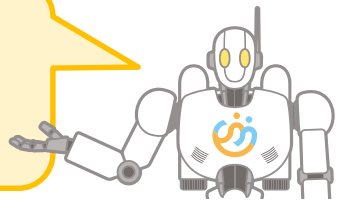
固定資産管理移行に関するFAQ

SuperStream

Q5

移行対象外である付帯情報関連テーブルは、どのテーブルを指しますか？

Answer

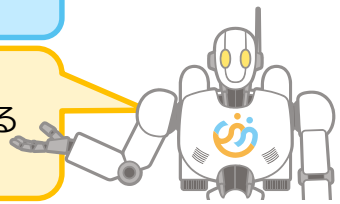


以下9テーブルです
貸与先マスタ、貸与先情報マスタ、担保提供先マスタ、担保情報マスタ、保険会社マスタ、保険種類マスタ、保険情報マスタ、修繕依頼先マスタ、修繕履歴情報マスタ

Q6

FA取引先マスタでリース会社が対象になっているコードについて、処分先を対象に設定する理由は何ですか？

Answer

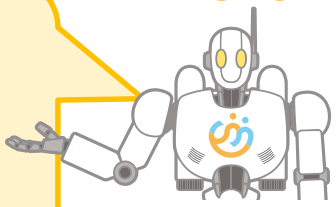


NXFAのFA取引先マスタ登録において、リース会社区分が「対象」の場合、リース契約終了後の返却・再リースを考慮し、必ず処分先区分も「対象」とするよう制限をかけているためです

Q7

名称系の項目において、FA+では「,」（カンマ）と「'」(シングルクォーテーション)は使用不可ですが、FA+で確認すべきテーブル項目を教えてください

Answer



資産マスタ（FASSNMST）の以下の項目です
資産名称（SSN_SSN_NAME）、旧システム資産番号１（OLD_SYS_SSN_NO1）、旧システム資産番号２（OLD_SYS_SSN_NO2）、契約番号１（KYK_NO1）、契約番号２（KYK_NO2）、再リース契約番号１（RE_LES_KYK_NO1）、再リース契約番号２（RE_LES_KYK_NO2）、物件番号１（BKN_NO1）、物件番号２（BKN_NO2）

©SuperStream Inc. All rights reserved.

固定資産管理補足資料

■補足資料一覧表

資料名	ファイル名	備考
対象テーブル一覧／ ＤＢ項目比較表	対象テーブル一覧_固定資産.xls ＤＢ項目比較表_固定資産.xls	テーブル単位での移行情報と、カラム別のマッピング資料です
外部データ取込項目比較表	外部データ取込項目比較表_固定資産.xls	外部取込機能の取込項目をまとめた資料です
マスタ取込項目比較表	マスタ取込項目比較表_固定資産.xls	バッチ・マスタメンテナンスの取込項目をまとめた資料です
COREシリーズとNXとの 機能差異一覧	CORE・NX機能比較表_FA.xls	機能差異に関する項目をまとめた資料です
性能評価	性能評価_固定資産.xls	移行処理に関する性能測定結果をまとめた資料です
メッセージ一覧	メッセージ一覧_固定資産.xls	移行支援ツールで発生したメッセージについて、 対応方法の一覧をまとめた資料です
禁則文字チェック項目一覧	禁則文字チェック項目一覧_固定資産.xls	NXFAの禁則文字が含まれるFA+のテーブルと項目をまとめた資料です

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX 人事給与

・HR：人事管理
・PR：給与管理
・field/HR：人事諸届・照会
・RE：退職金管理

Ⅰ.人事給与ソリューション
移行支援ツールの概要

1.対象プロダクト
2.前提条件
3.プロダクト別実行方式
4.移行支援ツールによる移行処理の流れ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ．人事給与ソリューション移行支援ツールの概要

1.対象プロダクト

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
CORE 一般会計	GL／AP／AR 統合会計	●
AP+ 支払管理		
AR+ 債権管理		
field 分散入力		×
FA+ 固定資産・リース資産	FA／LM 固定資産・リース資産	●
PN+ 手形管理	PN 手形管理	●
スーパーインターフェース	スーパーインターフェース	×
Planning 経営分析	GM グループ経営管理	×
	GM Mobile GMモバイルOP	-
Connect データ連携	Connect システム連携ツール	×
	Cloud Connecter クラウド接続OP	-

COREシリーズ	NXシリーズ	移行ツール
HR+ 人事管理	HR+ 人事管理	●
PR+ 給与管理	PR+ 給与管理	●
RE 退職金管理	RE 退職金管理	●
field/HR 人事諸届・照会	field/HR 人事諸届・照会	●
	CP 建設仮勘定OP	-
	ER 電債OP	-
	EV 証憑管理OP	-
	EV 証憑管理e文章対応OP	-
	factoring ファクタリングOP	-

Ⅰ.人事給与ソリューション移行支援ツールの概要
2.前提条件

COREシリーズ → **SuperStream-NXシリーズ**

移行元バージョン：SP20170701版

- 人事管理システム
- 給与管理システム
- 人事諸届・照会システム

※退職金管理オプションも対象

移行先バージョン：NX2017-06-01版

- 人事管理システム
- 給与管理システム
- 人事諸届・照会システム

※退職金管理オプションも対象

移行支援ツールの前提

- SuperStream-NXシリーズへの移行を行う場合、上記のバージョンが移行対象になります
  COREシリーズは上記バージョンまでバージョンアップが必要です
- 移行支援ツールはOracleデータベース上での稼働が前提となります
- ビュー・ワーク・退避データ・バックアップ・ログなどは移行対象外とします
- アドオンテーブルは移行対象外となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅰ.人事給与ソリューション移行支援ツールの概要
3.プロダクト別実行方式

SuperStream

各プロダクトごとに移行支援ツールの実行方式が異なります

■プロダクト別実行方式一覧

プロダクト	種類	実行方式
CORE(基幹会計システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
AP+(支払管理システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
AR+(債権管理システム)	マスタ・データ	【1】DB to DB
FA+(固定資産管理システム)	固定資産・リースデータ	【1】DB to DB
	コード名称マスタ	【2】パターンファイル
HR+(人事管理システム)	**マスタ・データ**	**【3】export/import 【4】アップグレード**
PR+(給与管理システム)	**マスタ・データ**	**【3】export/import 【4】アップグレード**
field/HR(人事諸届照会システム)	**マスタ・データ**	**【3】export/import 【4】アップグレード**
人事・給与共通	**マイナンバーデータ**	**【1】DB to DB**

※ DB to DB

・DB to DBとは、***SuperStream*-CORE**とSuperStream-NXのデータベースをデータベースリンクを用いて、データ移行を実施する実行方式です

・DB to DBの処理はPL/SQLで作成されているため、 ***SuperStream*-CORE**とSuperStream-NX のデータベースに直接データの更新を実施します

※ 固定資産の移行支援ツール

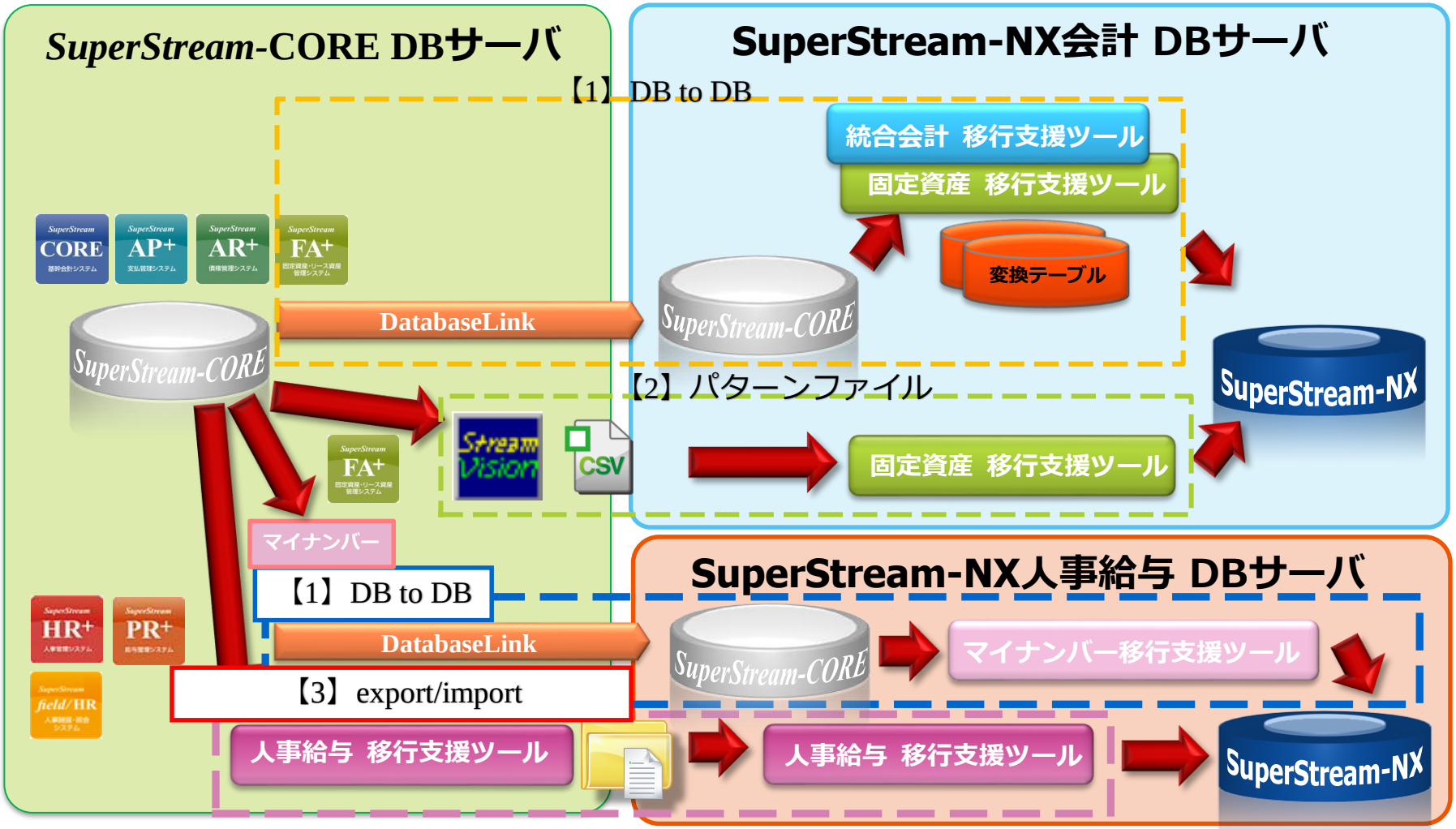
・固定資産の移行支援ツールは2種類あり、DB to DBの移行支援ツールを利用して固定資産・リース契約・物件などのデータを移行します
またパターンファイルによる移行支援ツールを利用して、償却情報や申告先マスタなどのコード名称マスタを移行します

※ 人事給与の移行

・人事給与の移行は、別インスタンス（別サーバ）に移行するexport/import及びDB to DB方式と、現在の環境をそのまま移行するアップグレード方式の2つがあります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

【移行処理の全体の流れ】



©SuperStream Inc. All rights reserved.

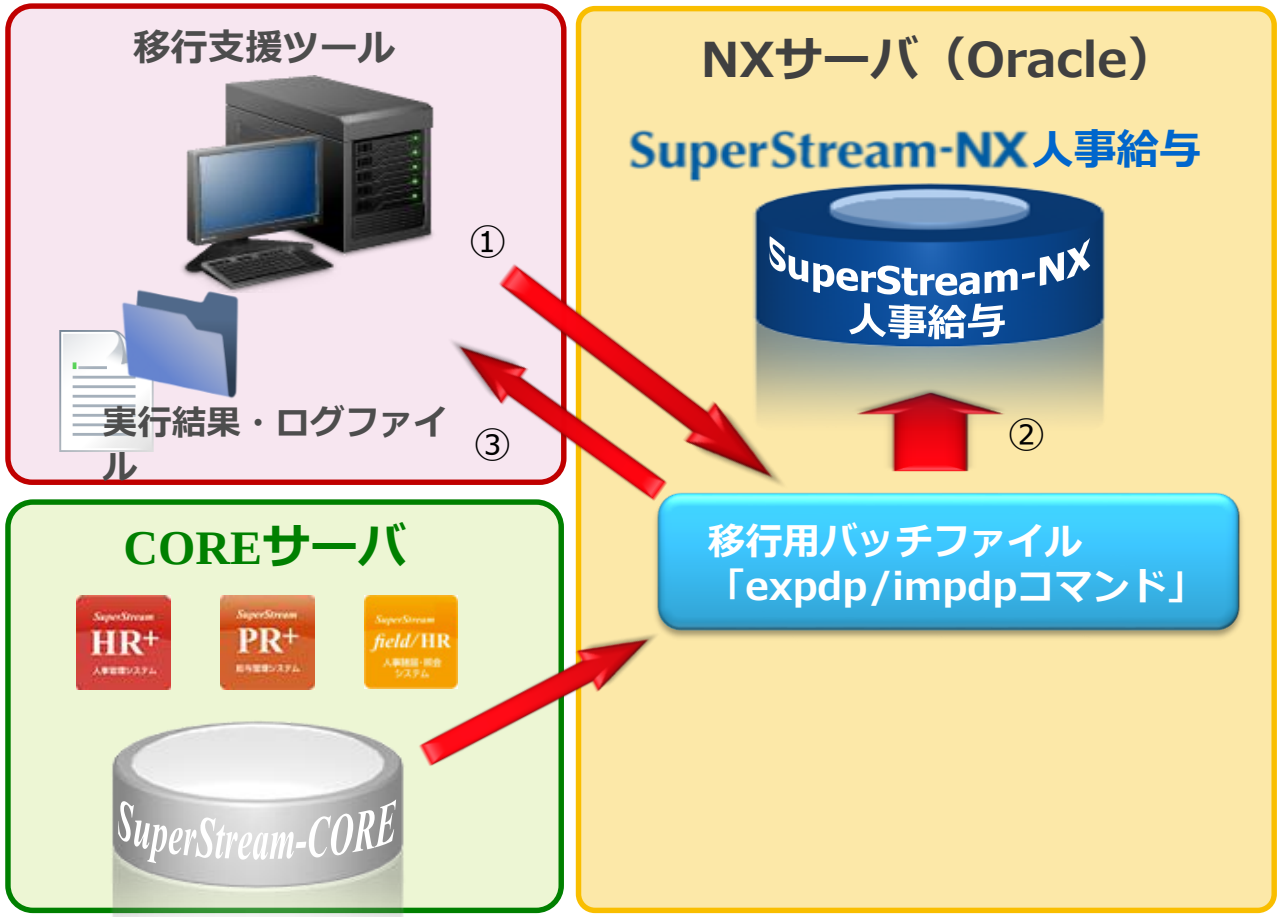
【 export/importによる移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①移行支援ツールによって移行用バッチファイル（「expdp/impdp コマンド」)の作成

②移行用バッチファイルを実行し、COREのデータをNXのデータへ移行

③画面およびログにて移行結果を確認



対象テーブル
NX人事給与に必要なテーブルのみが export/import の対象となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

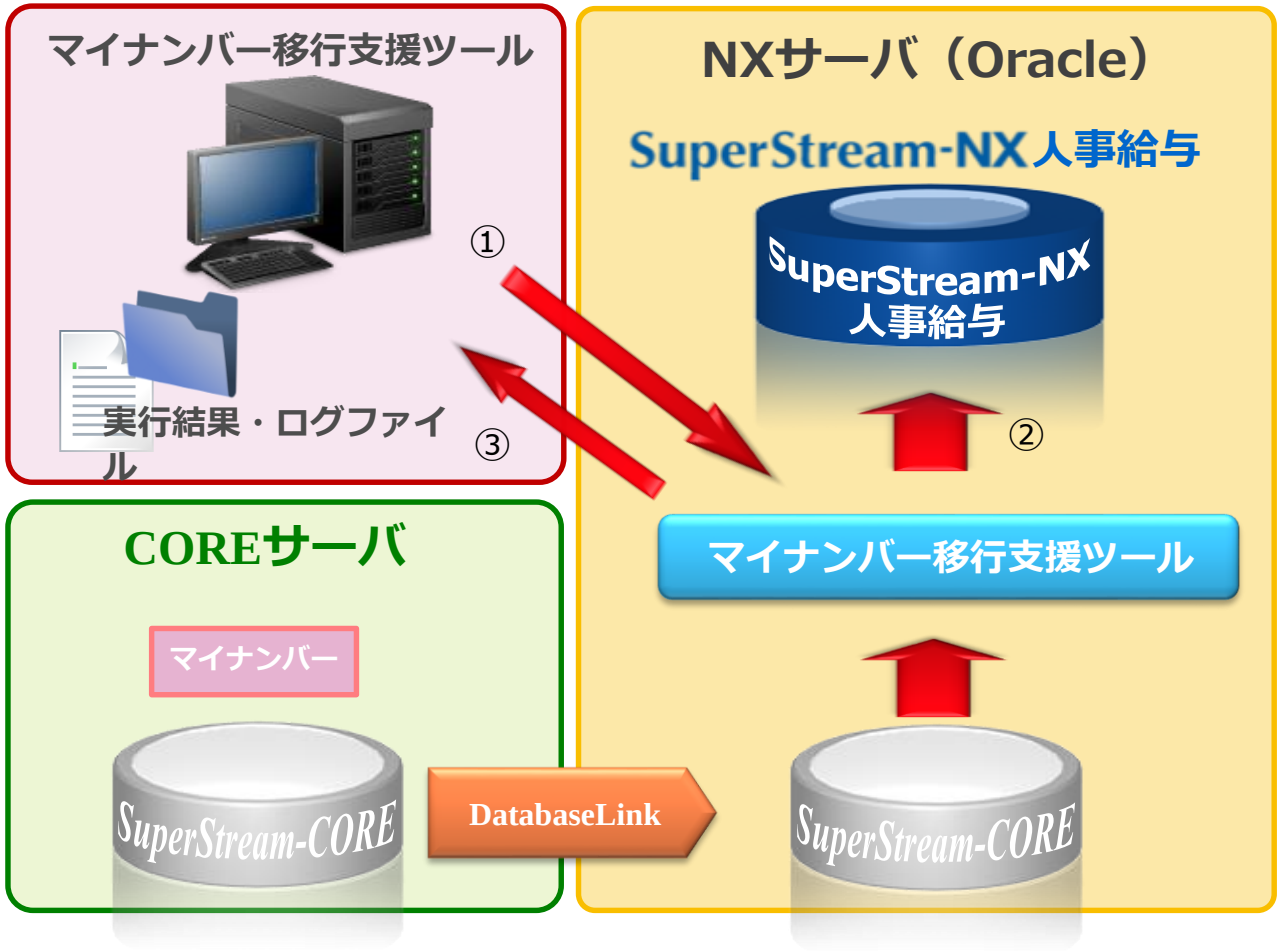
【 DB to DBによるマイナンバー移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①画面より移行処理指示

②マイナンバー移行支援ツールによってCOREのデータをNXのデータへ移行

③画面およびログにて移行結果を確認



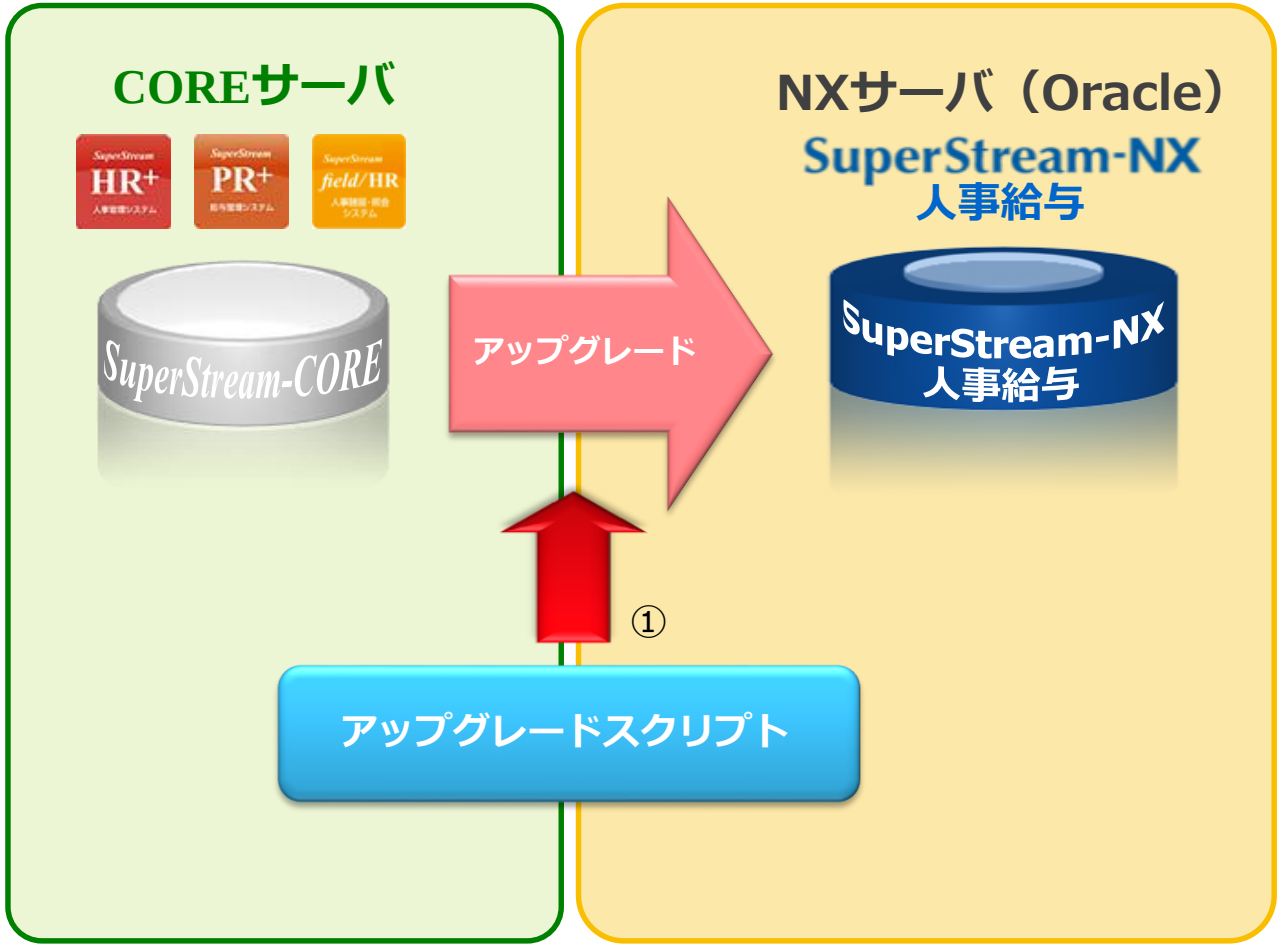
©SuperStream Inc. All rights reserved.

【アップグレードによる移行処理の全体の流れ】

【処理概要】

①アップグレードスクリプトを実行することにより、CORE　サーバの環境をNX人事給与の環境にアップグレード

人事給与以外のプロダクト
NX人事給与にアップグレードした後は、人事給与以外のプロダクトは使用できなくなります



©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション

移行作業手順

はじめに

export/import及び、DB to DBによる移行

1.環境構築作業

2.移行支援ツールの実行

3.動作確認及び本番化

アップグレードによる移行

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
はじめに

■環境の違いによる２種類の移行手順

export/import及び、DB to DB(マイナンバー関連)による移行

・現在使用しているCOREシリーズの環境から、Oracleのexport/import機能を使用して、別インスタンス（別サーバ）のNX人事給与環境に必要なデータのみを移行します
COREシリーズの人事給与以外のプロダクトをご活用頂いているお客様では、使用しないデータは新しい環境へは移行しません
・**マイナンバー関連データの移行は、専用のツールにて移行します**

アップグレードによる移行

現在使用しているCOREシリーズの環境を、NX人事給与として使用できる環境にアップグレードします
人事給与以外のプロダクトをご活用頂いていた場合、データはそのまま残りますがNX人事給与以外の機能は使用できなくなります
なお、NX共通データベースとアプリケーションサーバのインストールは必須となりますので、インフラガイドを参照してください
※アップグレードによる移行の場合、マイナンバー移行の必要はありません

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 - 1.環境構築作業

export/import及び、DB to DB(マイナンバー関連)による移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

①NX人事給与のインストール

②移行支援ツールインストール

③移行支援ツール（マイナンバー用）のインストール

移行支援ツールの実行

④データ移行準備

⑤データ移行（export）

⑥データ移行ログチェック(export)

⑦データ移行（import）

⑧データ移行ログチェック(import)

⑨NX人事給与用データの追加実行

⑩データ移行後の連携設定

⑪データ移行
（DB to DB マイナンバー関連）

動作確認および本番化

⑫動作確認

⑬クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

export/import及び、DB to DBによる移行の作業手順

export/import及び、DB to DBによる移行の作業手順を以下に説明します

ステップ 1
NX人事給与のインストール

出荷CDを使用し、移行先となる新しいNX人事給与環境を構築します
（インフラガイド参照）
また、現在のCOREサーバと同じ環境になる様に、NX人事給与のSSI掲載パッチを適用します

ステップ 2
移行支援ツールインストール

移行支援ツールを実行環境にコピーします

ステップ 3
移行支援ツール（マイナンバー用）インストール

移行支援ツール（マイナンバー用）を実行環境にコピーします

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 - 2.移行支援ツールの実行

export/import及び、DB to DB(マイナンバー関連)による移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

- ①NX人事給与のインストール
- ②移行支援ツールインストール
- ③移行支援ツール（マイナンバー用）のインストール

移行支援ツールの実行

- ④データ移行準備
- ⑤データ移行（export）
- ⑥データ移行ログチェック(export)
- ⑦データ移行（import）
- ⑧データ移行ログチェック(import)
- ⑨NX人事給与用データの追加実行
- ⑩データ移行後の連携設定
- ⑪データ移行（DB to DB マイナンバー関連）

動作確認および本番化

- ⑫動作確認
- ⑬クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 - 2.移行支援ツールの実行

ステップ 4 データ移行準備	移行支援ツールの「データ移行準備」を実行し、データ移行の準備を行います
ステップ 5 データ移行 （export）	移行支援ツールで作成したバッチファイルを使用して、データのexportを行います exportはテーブル単位で行います
ステップ 6 データ移行ログ チェック(export)	データのexportが正常に行われたか、移行支援ツールの「データ移行ログチェック」を実行して、ログファイルのチェックを行います
ステップ 7 データ移行 （import）	データのexportで作成されたDumpファイルを移行先サーバにコピーし、移行支援ツールで作成したバッチファイルを使用して、データのimportを行います
ステップ 8 データ移行ログ チェック(import)	データのimportが正常に行われたか、移行支援ツールの「データ移行ログチェック」を実行して、ログファイルのチェックを行います

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 - 2.移行支援ツールの実行

ステップ９
NX人事給与用データの追加

・データ追加用スクリプトを実行し、移行後の環境でNX人事給与に不足している共通データを追加します
・環境整備用スクリプトを実行し、 NX人事給与の環境整備を行います

ステップ１０
データ移行後の連携設定

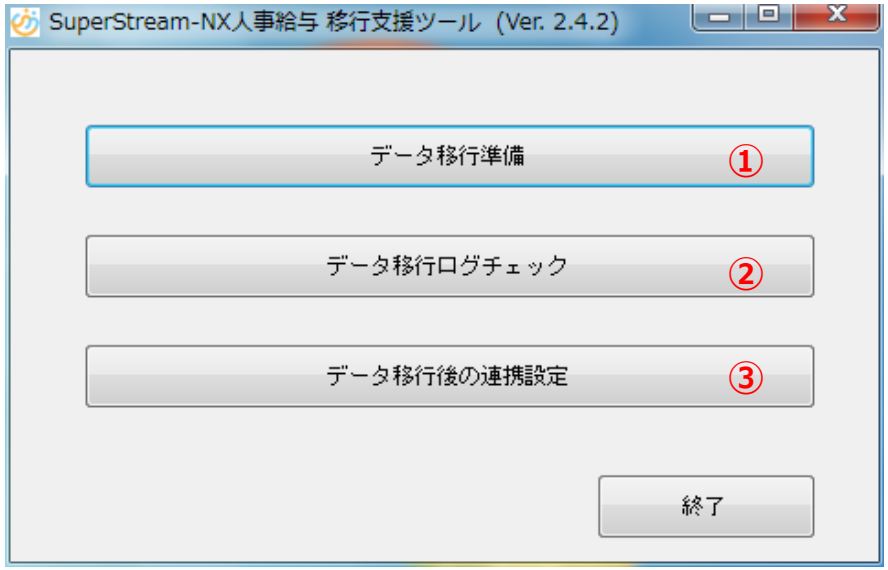
移行支援ツールを使用して、移行後の環境でNX統合会計との連携を行うかの設定を行います

ステップ１１
データ移行（DB to DB マイナンバー関連）

移行支援ツール（マイナンバー用）を使用して、DB to DB形式でデータの移行を行います

©SuperStream Inc. All rights reserved.

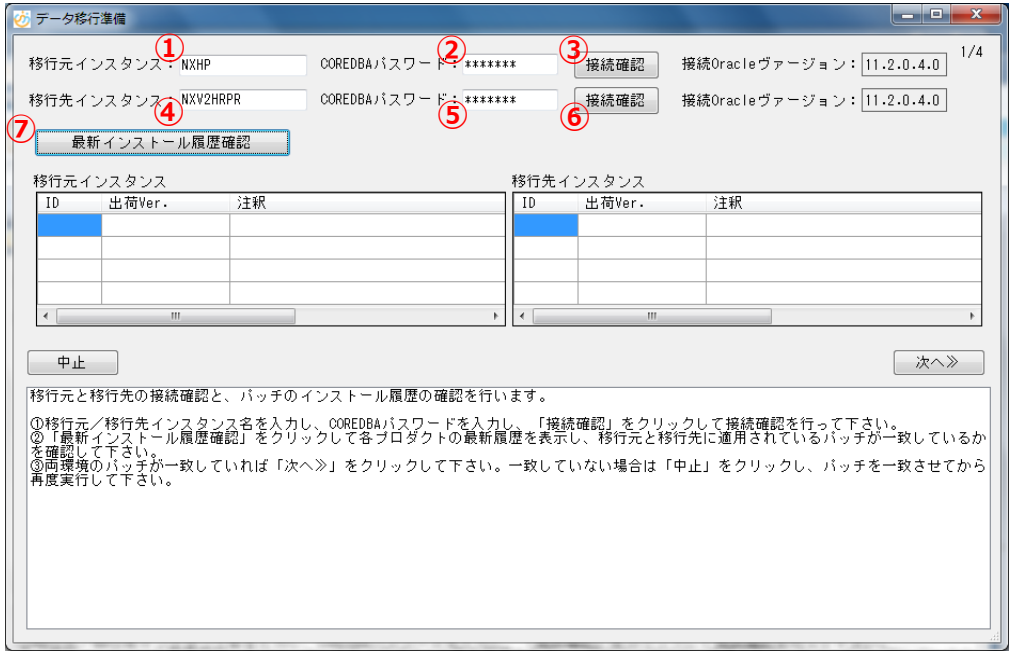
移行支援ツール（NXHPIkoApp.exe）



①データ移行準備
：移行事前チェック、移行先インスタンスの初期化、移行用バッチファイルの作成を実行します
②データ移行ログチェック
：Oracle Exportログ、Importログに対するチェックを実行します
③データ移行後の連携設定
：統合会計との自動連携に関する設定を行います

©SuperStream Inc. All rights reserved.

データ移行準備



各ボタンの説明

「次へ》」・・・画面が切り替わり、次の処理画面に進みます

「中止」・・・処理を中止し、画面を閉じてメインメニューに戻ります

・移行元、移行先の接続確認と、パッチ適用状況の確認を行います

① 移行元インスタンス（COREサーバ）を入力してください

② 移行元インスタンスのCOREDBAパスワードを入力してください

③「接続確認」ボタンを押下し、インスタンスの接続確認を行ってください
正常に接続された場合、Oracleのバージョンが表示されます

④ 移行先インスタンス（NX人事給与サーバ）を入力してください

⑤ 移行先インスタンスのCOREDBAパスワードを入力してください

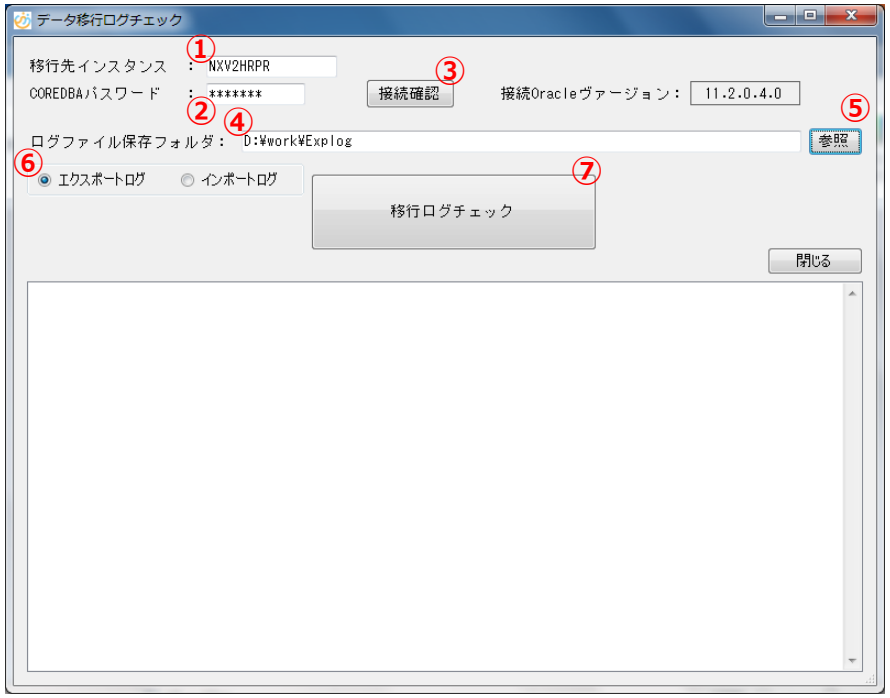
⑥「接続確認」ボタンを押下し、インスタンスの接続確認を行ってください
正常に接続された場合、Oracleのバージョンが表示されます

⑦「最新インストール履歴確認」ボタンを押下してください
移行元、移行先に適用されている各プロダクトの最新履歴が表示されます
PR+→（NXPR）、HR+→（NXHR）、HR+退職金→（NXRE）、FLHR→（NXFLHR）

・移行元、移行先の適用パッチに差異がある場合は、「中止」ボタンを押下して処理を中止し、パッチを適用してから再度実行してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

データ移行ログチェック（export/import）



各ボタンの説明
「閉じる」・・画面を閉じてメインメニューに戻ります

・Oracle export/importのログチェックを行います

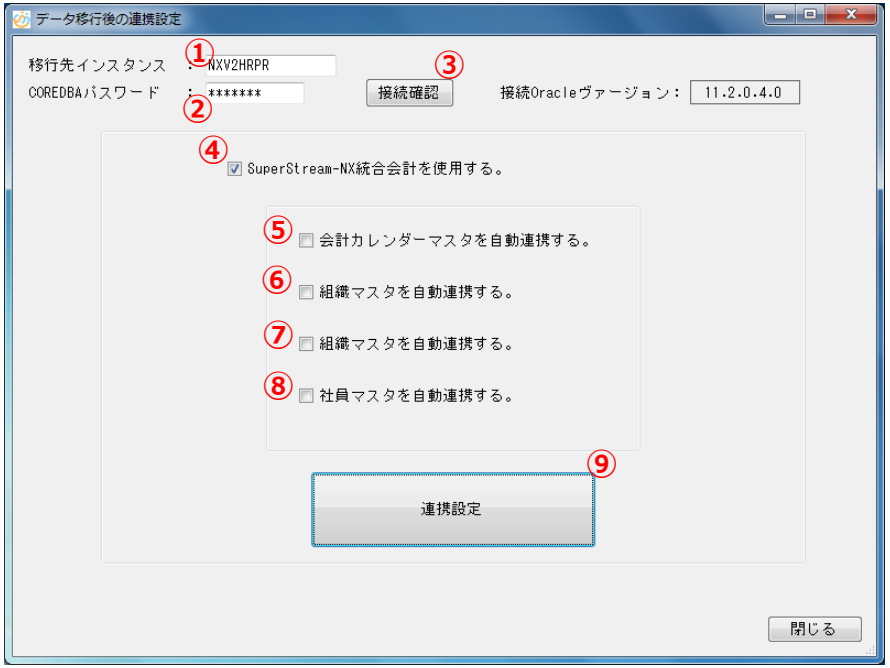
① 移行先インスタンス（NX人事給与サーバ）を入力してください
② 移行先インスタンスのCOREDBAパスワードを入力してください
③ 「接続確認」ボタンを押下し、インスタンスの接続確認を行ってください
正常に接続された場合、Oracleのバージョンが表示されます
④ ログファイル保存フォルダを入力してください
⑤ 「参照」ボタンを押下し、フォルダ選択ダイアログからフォルダを選択することができます
⑥ ログの種類から「エクスポートログ」または「インポートログ」を選択してください
⑦ 「移行ログチェック」ボタンを押下し、ログファイルのチェックを行ってください

・テーブル単位でのログチェックを行います
チェック結果は以下の様に表示されます
xxxxxx ・・・ 結果 ※ xxxxxx：テーブル名

結果は以下の種類となります。
OK ：正常
NG ：エラー
Not Found ：ログファイルなし

©SuperStream Inc. All rights reserved.

データ移行後の連携設定



各ボタンの説明

「閉じる」・・画面を閉じてメインメニューに戻ります

・データ移行後の連携設定を行います

① 移行先インスタンス（NX人事給与サーバ）を入力してください

② 移行先インスタンスのCOREDBAパスワードを入力してください

③ 「接続確認」ボタンを押下し、インスタンスの接続確認を行ってください
正常に接続された場合、Oracleのバージョンが表示されます

④ NX統合会計を使用し、データの連携を行う場合はチェックをONにしてください
チェックをONにすると⑤～⑧が活性化されます

⑤ HR+/PR+新会社セットアップを行った際、NX統合会計から会計カレンダーマスタを自動で連携するかを設定します
自動連携を行う場合はチェックをONにしてください

⑥ 組織階層テーブル登録画面の費用計上タブで、「CORE連携」ボタンを押下した際、NX統合会計から会計組織マスタを自動で連携するかを設定します
自動連携を行う場合はチェックをONにしてください

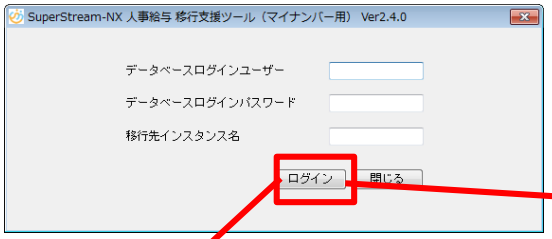
⑦ 組織階層テーブル登録画面のプロジェクトタブで、「CORE連携」ボタンを押下した際、NX統合会計からプロジェクトマスタを自動で連携するかを設定します
自動連携を行う場合はチェックをONにしてください

⑧ PR+連携情報確認＆登録処理で社員マスタを更新した際、NX統合会計へ更新した社員情報を自動で連携するかを設定します
自動連携を行う場合はチェックをONにしてください

⑨ 画面上で設定した内容を登録します

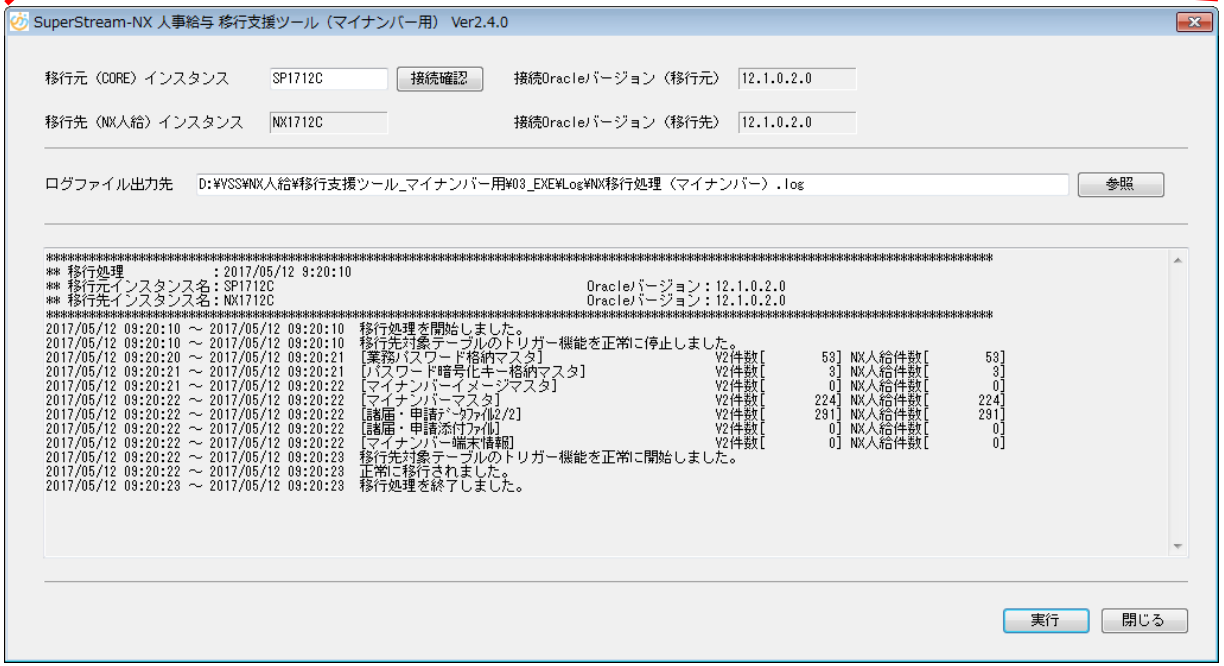
©SuperStream Inc. All rights reserved.

移行支援ツール（マイナンバー用）（NXHPIkoMyno.exe）



【ログイン】

- 「NXHPIkoMyno.exe」を起動すると、ログイン画面が表示されます
- マイナンバーデータにアクセス権限のあるログインユーザ（マイナンバー管理者）でログインします
- 移行先の環境(NX人事給与)へ接続します



【データ移行メイン画面】

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 – 3.動作確認及び本番化

export/import及び、DB to DB(マイナンバー関連)による移行作業は、下記の通りに実施します

環境構築作業

- ①NX人事給与のインストール
- ②移行支援ツールインストール
- ③移行支援ツール（マイナンバー用）のインストール

移行支援ツールの実行

- ④データ移行準備
- ⑤データ移行（export）
- ⑥データ移行ログチェック(export)
- ⑦データ移行（import）
- ⑧データ移行ログチェック(import)
- ⑨NX人事給与用データの追加実行
- ⑩データ移行後の連携設定
- ⑪データ移行（DB to DB マイナンバー関連）

動作確認および本番化

- ⑫動作確認
- ⑬クリーンアップ

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
export/import及び、DB to DBによる移行 – ３.動作確認及び本番化

ステップ１２ 動作確認	移行後のシステムが利用可能となっているか、動作を確認します
ステップ１３ クリーンアップ	移行支援ツール、移行支援ツール（マイナンバー用）、Dumpファイル、export用ファイル、import用ファイル、LOGファイルを削除します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

Ⅱ.人事給与ソリューション移行作業手順
アップグレードによる移行 – 1.アップグレード作業

アップグレードによる移行作業は、下記の通りに実施します

アップグレード作業

①スクリプト実行

②共通データベースのインストール

③アプリケーションサーバのインストール

④SSI掲載パッチ適用

動作確認

⑤動作確認

©SuperStream Inc. All rights reserved.

アップグレードによる移行の作業手順

アップグレードによる移行の作業手順を以下に説明します

ステップ 1 スクリプト実行	・アップグレード用スクリプトを実行します ※該当ユーザのみ、退職金オプション用スクリプトを実行します ・環境整備用スクリプトを実行します
ステップ 2 NX共通データベースインストール	NX共通データベースをインストールします
ステップ 3 アプリケーションサーバインストール	アプリケーションサーバをインストールします
ステップ 4 SSI掲載パッチの適用	NX共通モジュールとNX人事給与用に掲載されている対応バージョンのパッチを適用します
ステップ 5 動作確認	アップグレード後のシステムが利用可能となっているか、動作を確認します

©SuperStream Inc. All rights reserved.

人事給与ソリューション

・移行に関するFAQ

・補足資料

人事給与ソリューション 移行に関するFAQ

SuperStream

Q1

EXP/IMP方式とアップグレード方式はどのような基準で選ぶのでしょうか？

Answer

移行と合わせてサーバリプレースを伴う場合にはEXP/IMP方式をご検討下さい
現行環境を継続して利用する場合には、アップグレード方針をご検討下さい

Q2

NX人事給与をNX統合会計と同一インスタンスにインストールすることはできますか?

Answer

NX統合会計のインスタンスとはキャラクターセットが異なるため、別インスタンスをご用意いただく必要があります

Q3

アップグレード方式にてNX人事給与に移行した環境で、CORE会計プロダクトを継続して運用することはできますか？

Answer

CORE会計シリーズを継続して運用することはできません
CORE会計シリーズを継続利用する場合には、環境を分けていただく必要があります

Q4

アップグレード方式にてNX人事給与に移行した場合、CORE会計プロダクトのデータは削除されますか？

Answer

CORE会計プロダクトのデータは削除されません
NX人事給与では参照しませんので、必要に応じて外部ツール等にて削除してください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

人事給与ソリューション 移行に関するFAQ

SuperStream

Q5

DB構造（項目）について、CORE版とNX版で差異はありますか？

Answer

現行バージョンにおいて、CORE版・NX版の双方に存在するテーブルの差異はありません

Q6

勤怠データの取込レイアウトについて、CORE版とNX版で差異はありますか？

Answer

現行バージョンにおいて、差異はありません

Q7

ログ管理機能について、CORE版とNX版で差異はありますか？

Answer

現行バージョンにおいて、差異はありません

Q8

移移行支援ツール（マイナンバー用）で「移行先インスタンスに接続できません［User Id=COREMYNO; Password=; Data Source=]」のエラーが発生します どうすればいいですか？

Answer

移行元と移行先のインスタンスのユーザ・ロールのパスワードが異なる場合に発生します
マイナンバー移行は、移行元インスタンス（CORE）、移行先インスタンス（NX人事給与）のユーザやロールのパスワードが、一致している環境で行ってください

©SuperStream Inc. All rights reserved.

人事給与ソリューション 補足資料

■補足資料一覧表

資料名	ファイル名	備考
性能評価	性能評価_人事給与.xls	移行処理に関する性能測定結果をまとめた資料です。

©SuperStream Inc. All rights reserved.

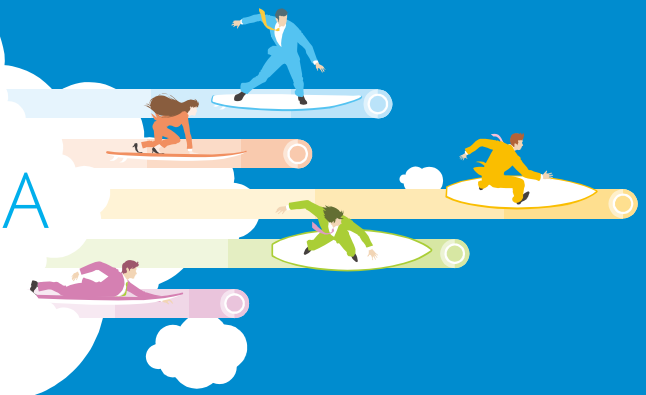
02

SuperStream-NX
製品ロードマップのご紹介

スーパーストリーム株式会社
取締役 企画開発本部長　山田 誠
商品企画部　部長　瀧 頼子

©SuperStream Inc. All rights reserved.

AGENDA



1.SuperStream-NX 2017-06-01版（Ver.2.0.20）
『消費税の達人』連携機能について

2. SuperStream-NX 2018-06-01版（Ver.2.1）
概要について

3.その他　製品関連情報

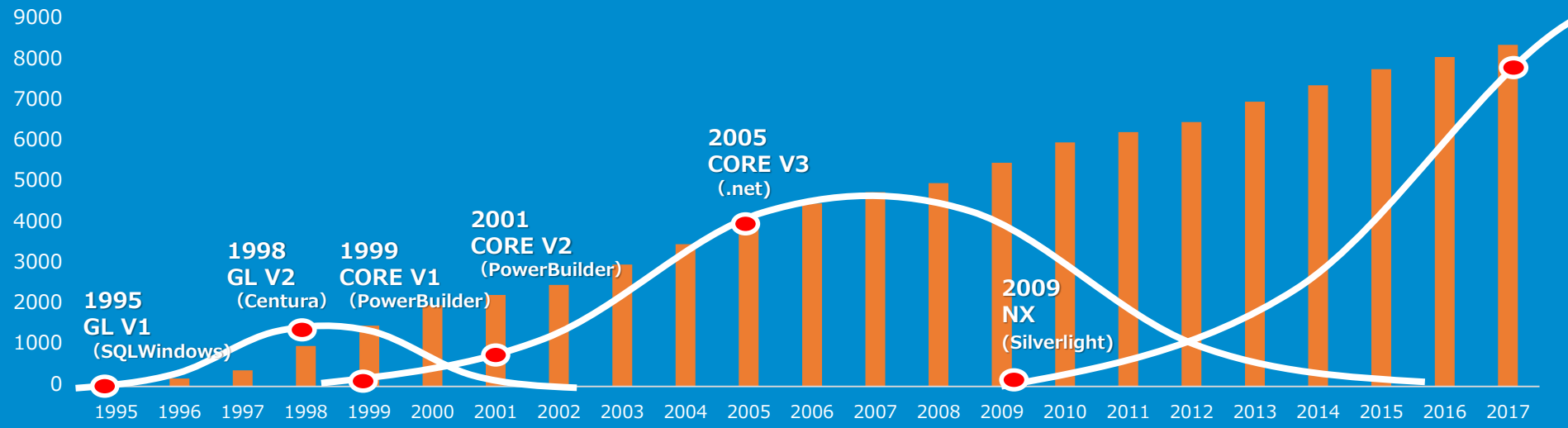
4.2018年度　イベント情報のご案内

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream Product

Roadmap

2017/6 Product Life Cycle



2017/6にNX-V2 リリース

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX ロードマップ

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020
統合会計（GL・AP・AR・EX・EV）	2017/6 NX-V2 VerUp 2017/7 移行ツール 2017/12 消費税 達人連携	2018/6 経費Mobile 摘要入力、一括入力 中国語/タイ語（予定）	2019/10 AR機能強化 パフォーマンス強化	2020/6 VerUp
固定資産/建設仮勘定（FA・LM・CP）	2017/6 NX-V2 VerUp 2017/7 移行ツール	2018/6 セキュリティの大幅強化 承認機能パーソナライズ リース増減明細内訳表	2019/10 パフォーマンス強化	2020/6 VerUp
手形・電債・ﾌｧｸﾀﾘﾝｸﾞ（PN・ER・factoring）	2017/8 NX-V2 Release	2018/8 定期VerUp	2019/12 VerUp	2020/8 VerUp
人事、給与、退職金 人事諸届/照会（HR・PR・RE・fieldHR）	2017/6 NX-V2 VerUp 2017/7 移行ツール	2018/6 社員台帳追加	2019/10 Ver.Up	2020/6 Ver.Up
グループ経営管理（GM・Mobile）	2017/6 V2連動対応	2018/6 エンジン強化 インメモリ対応	2019/10 VerUp	2020/6 VerUp
システム連携ツール（Connect・CC）	2017/6 V2連動対応	2018/6 定期VerUp	2019/10 VerUp	2020/6 VerUp

TODAY

次のバージョンアップは2018年6月です

©SuperStream Inc. All rights reserved.

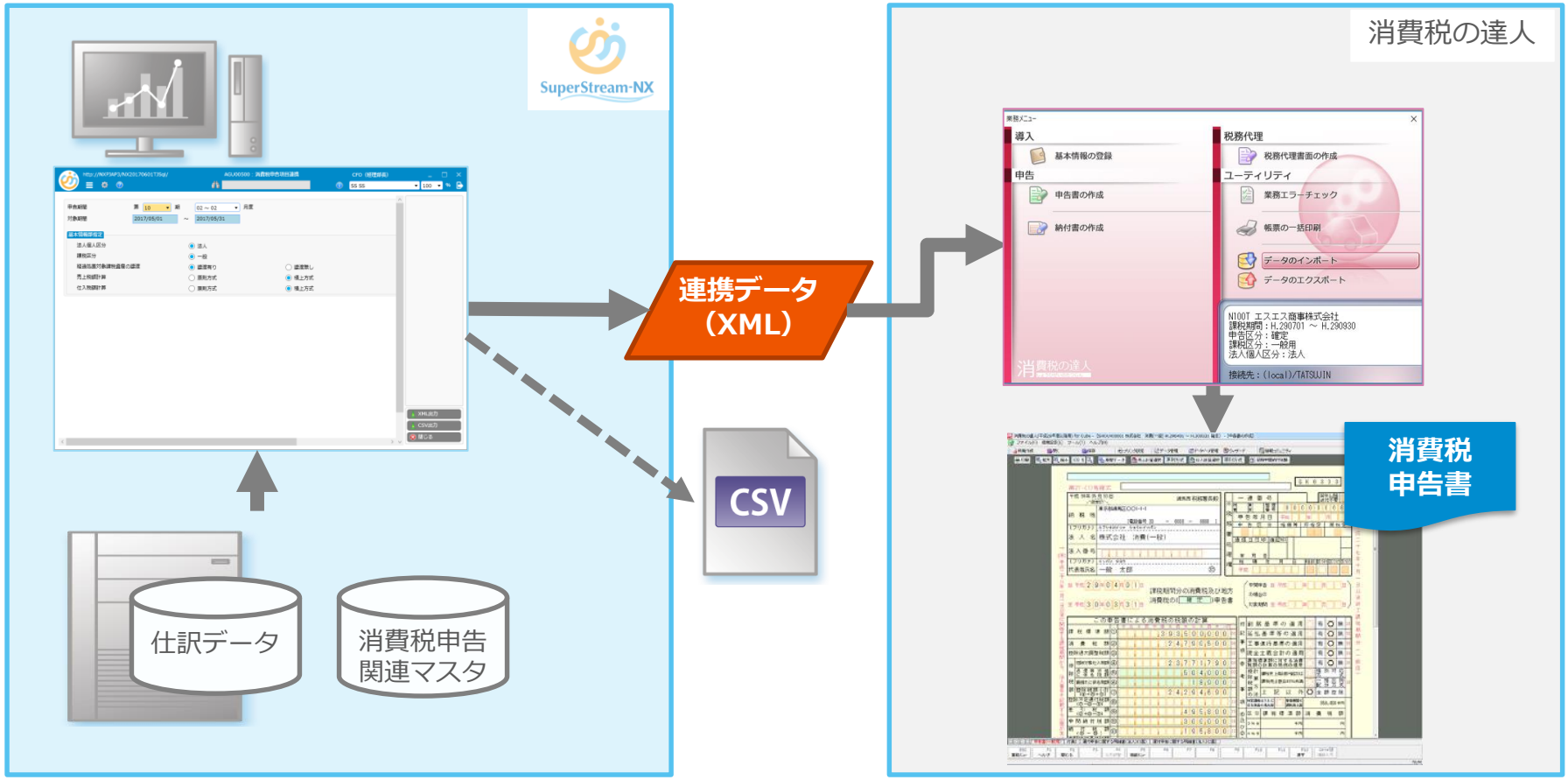
01

SuperStream-NX 2017-06-01版（Ver.2.0.20）『NTTデータ 消費税の達人』連携機能について

SuperStream-NX 統合会計
消費税申告書出力　～『消費税の達人』連携～

■機能概要

『消費税の達人』（株式会社NTTデータの申告書作成ソフト）と連携することで、消費税申告書を容易に作成することが可能になります
消費税の達人連携機能では、NX統合会計の仕訳上で保持している消費税データを『消費税の達人』側に連携するためのデータ（XML形式）を作成することが可能です



©SuperStream Inc. All rights reserved.

SuperStream-NX 統合会計
1.消費税の達人連携

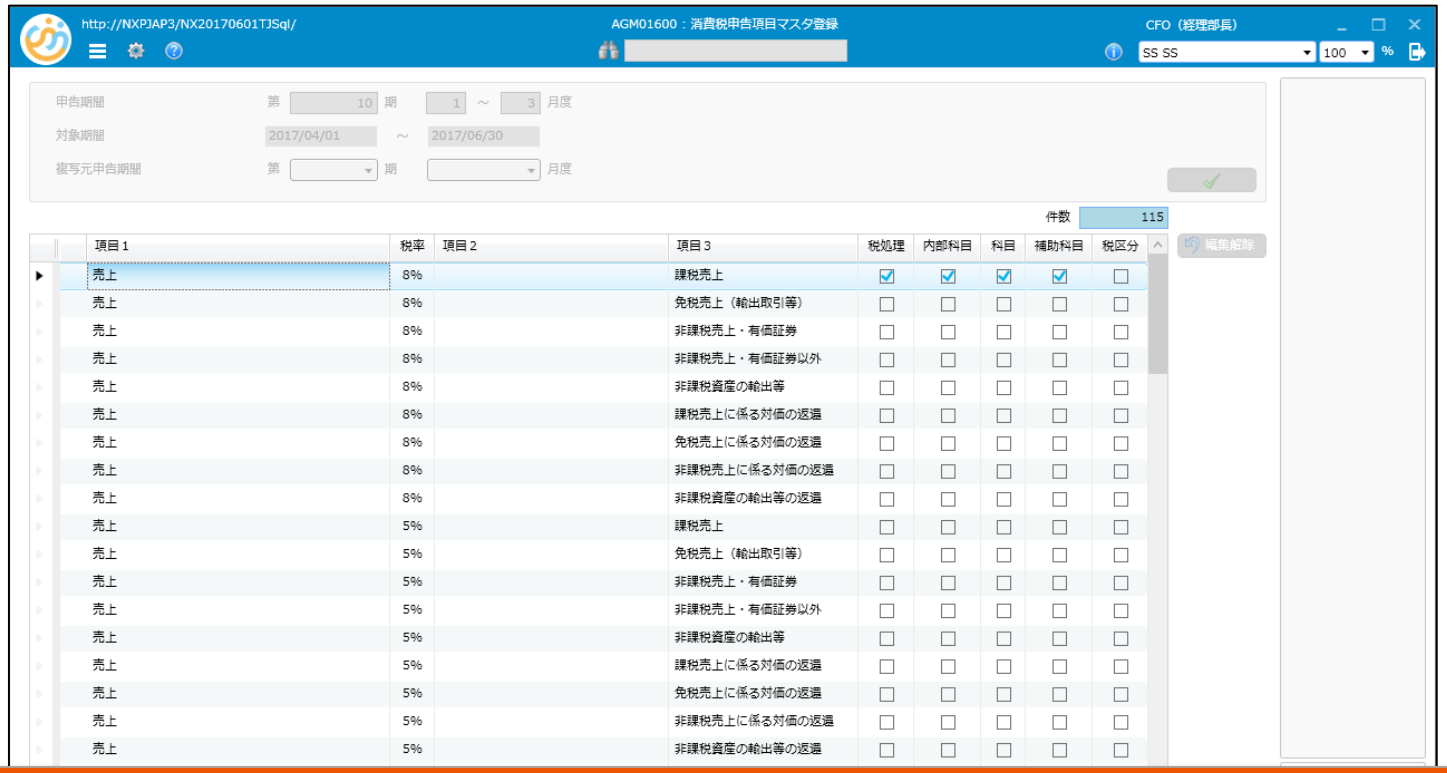
■連携データ作成までの流れ

業務の手順	SuperStream-NXの処理手順
消費税申告書用の項目を準備	**設　定** 消費税申告項目マスタ登録 申告項目に集計する仕訳データの抽出条件を登録
集計対象とする科目グループを登録	消費税集計マスタ登録 集計対象とする科目グループを登録
申告書項目と税コードの紐付け	消費税申告項目別集計条件登録 申告項目に集計する仕訳データの抽出条件の詳細を登録
消費税金額の集計	**集計・連携** 消費税申告項目集計処理 仕訳金額および税額を申告項目別に集計
消費税金額の確認	消費税申告項目集計結果一覧表 申告項目別に集計した結果を確認
連携データの作成	消費税申告連携処理 連携データ（XMLファイル）を作成

©SuperStream Inc. All rights reserved.

①設定：消費税申告項目マスタ登録

1．消費税申告書の期間と、申告項目を登録
申請項目については［税処理］［内部科目］［科目］［補助科目］より集計条件を選択



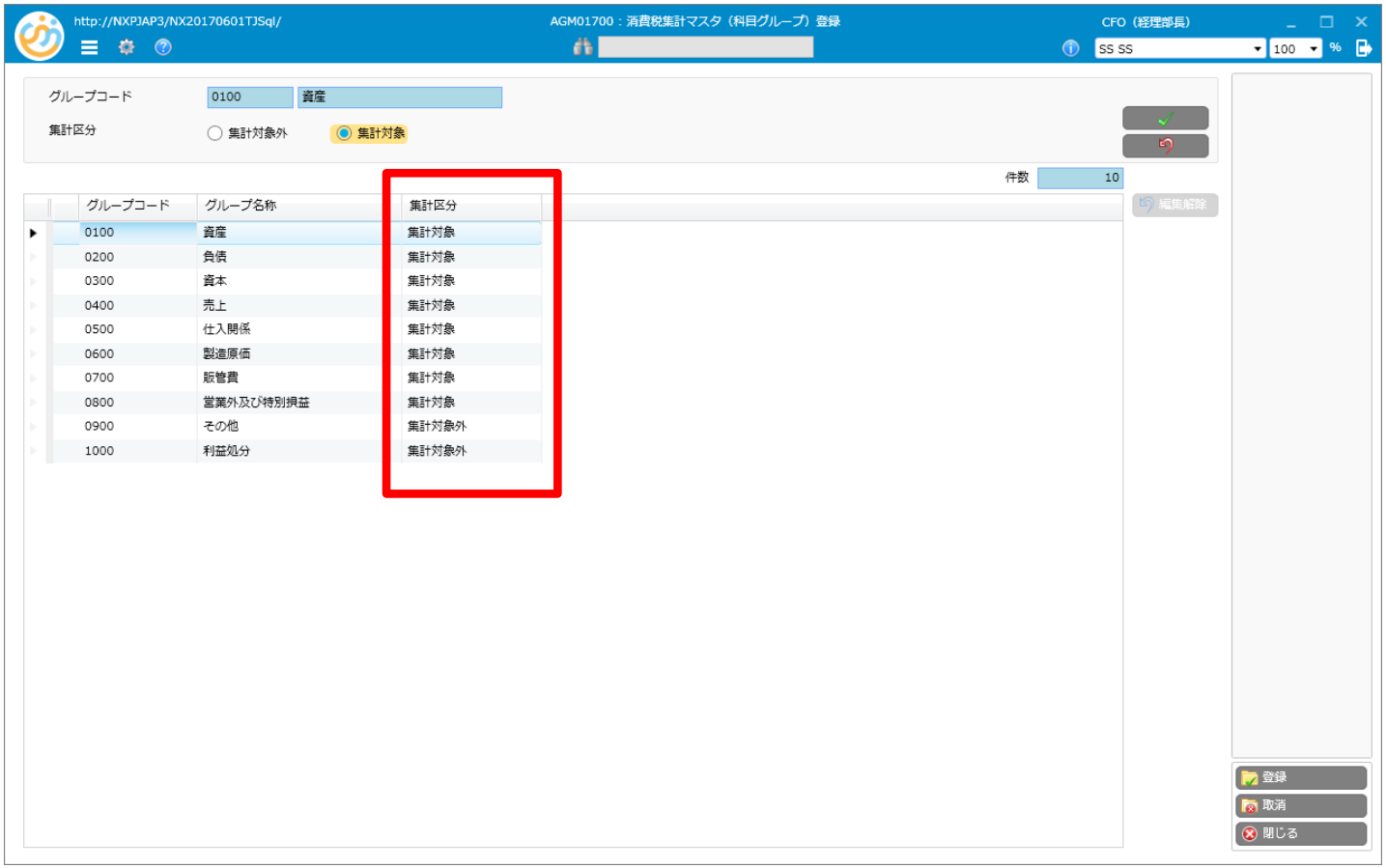
項目1	税率	項目2	項目3	税処理	内部科目	科目	補助科目	税区分
売上	8%		課税売上	☑	☑	☑	☑	☐
売上	8%		免税売上（輸出取引等）	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		非課税売上・有価証券	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		非課税売上・有価証券以外	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		非課税資産の輸出等	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		課税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		免税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		非課税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	8%		非課税資産の輸出等の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		課税売上	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		免税売上（輸出取引等）	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		非課税売上・有価証券	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		非課税売上・有価証券以外	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		非課税資産の輸出等	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		課税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		免税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		非課税売上に係る対価の返還	☐	☐	☐	☐	☐
売上	5%		非課税資産の輸出等の返還	☐	☐	☐	☐	☐

（注意点）
「消費税の還付申告に関する明細書」に出力するための「決済額の税区分」および、「資産の取得価額の税区分」の集計項目についてのみ［税区分］にチェックが付きますが、チェックを外すことはできません

©SuperStream Inc. All rights reserved.

①設定：消費税集計マスタ（科目グループ）登録

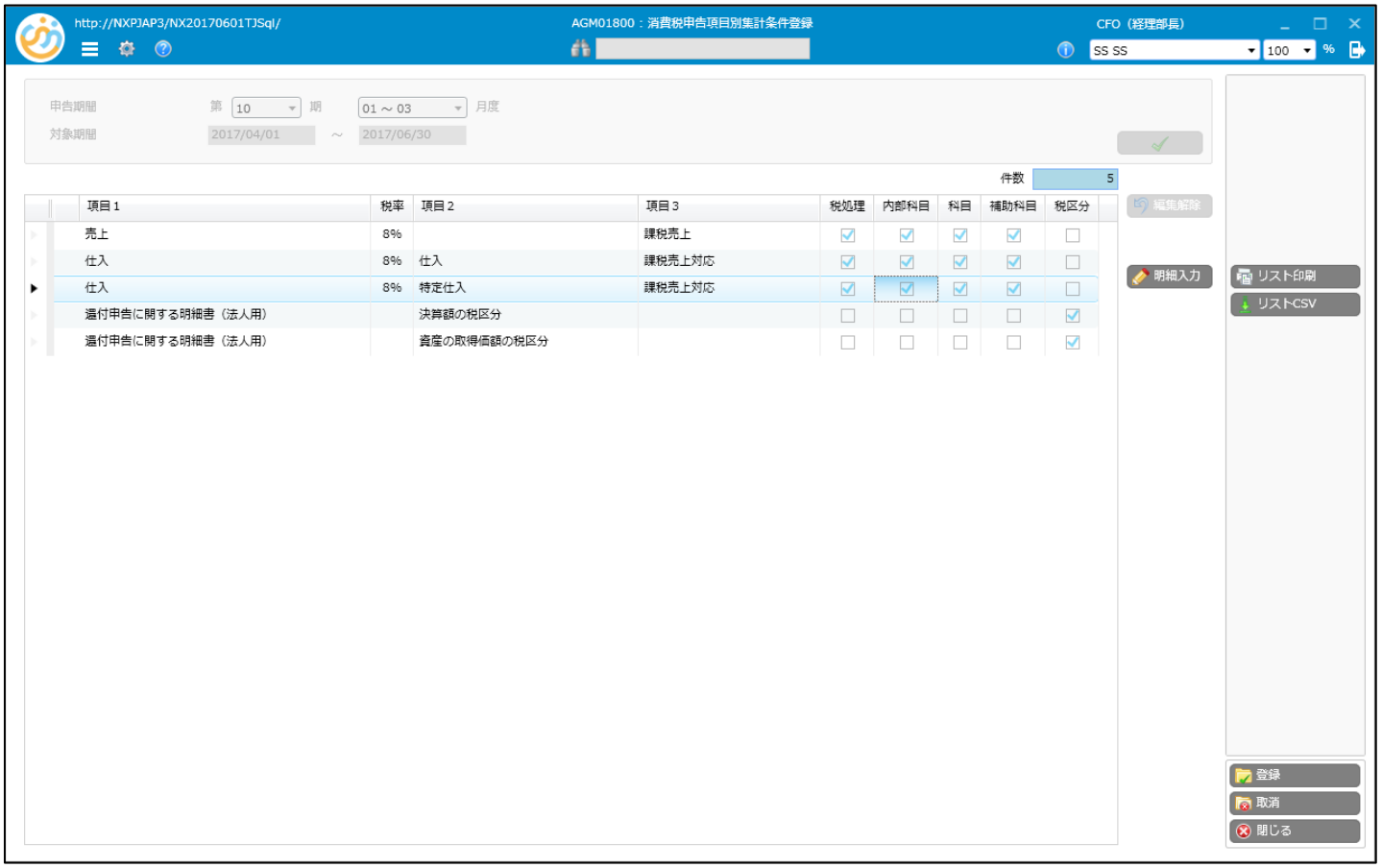
2．集計の対象となる、科目グループを登録



©SuperStream Inc. All rights reserved.

①設定：消費税申告項目別集計条件登録

3．申告項目に集計するための詳細情報を登録
「明細入力」ボタンを押下することで「消費税申告項目明細入力」画面を表示
「リスト印刷」ボタンからは「消費税申告項目別集計条件一覧表」を出力



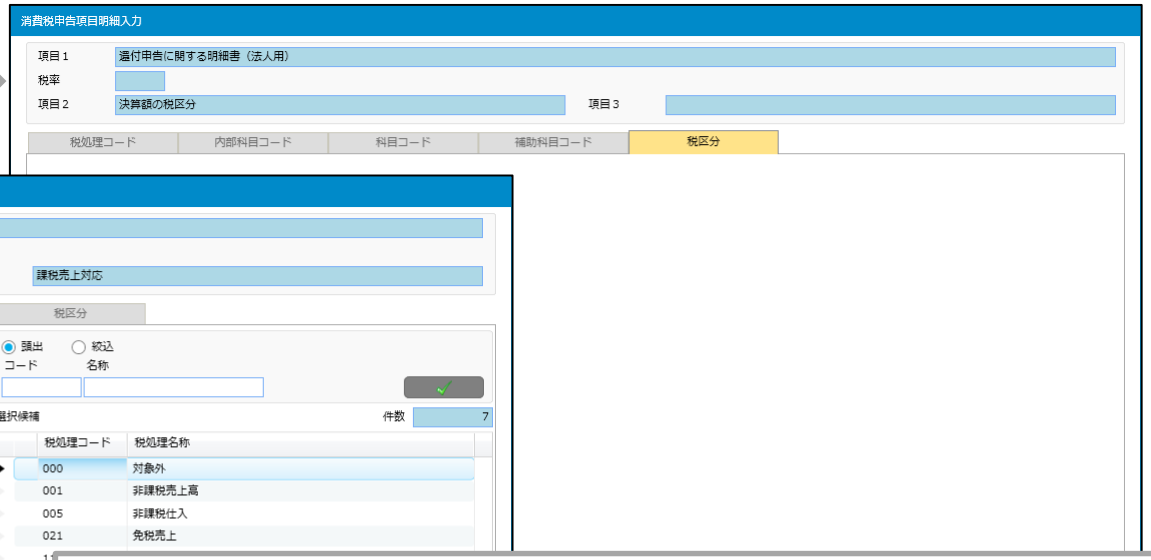
©SuperStream Inc. All rights reserved.

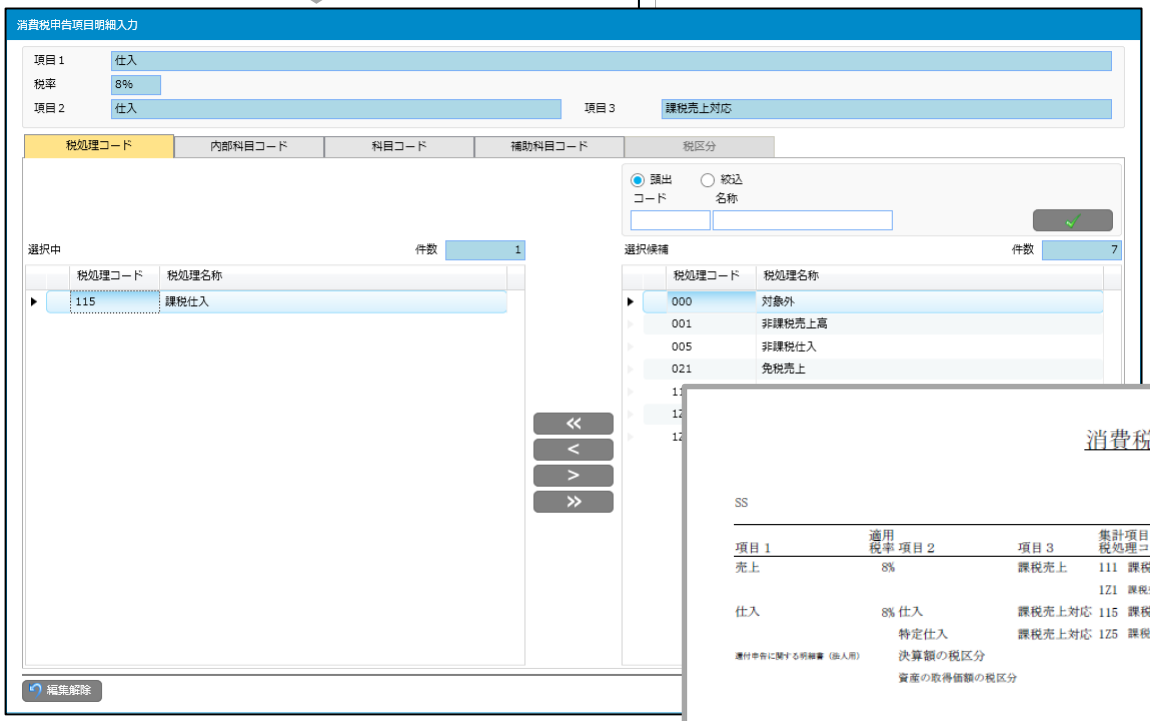
SuperStream-NX 統合会計
1.消費税の達人連携

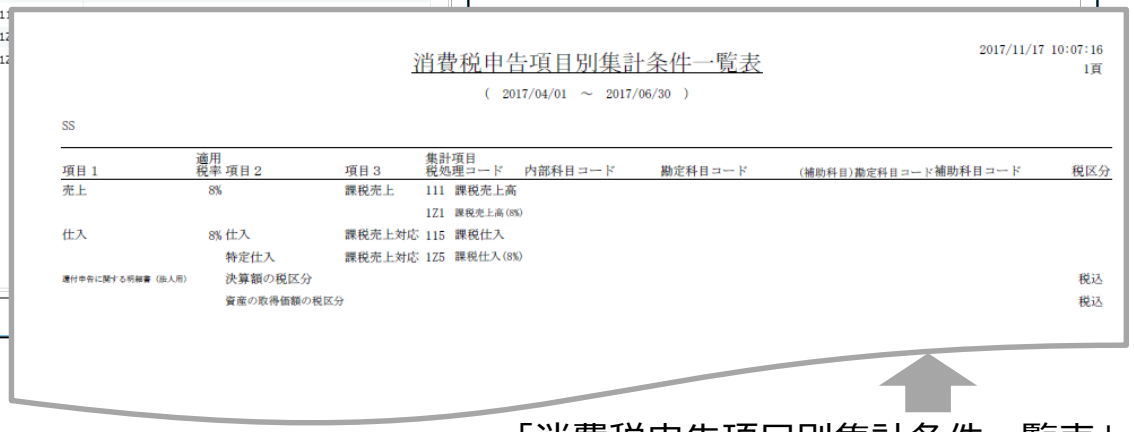
①設定：消費税申告項目別集計条件登録

①設 定 → ②集計処理 → ③連携処理 → ④新会社セットアップ

「消費税申告項目明細入力」





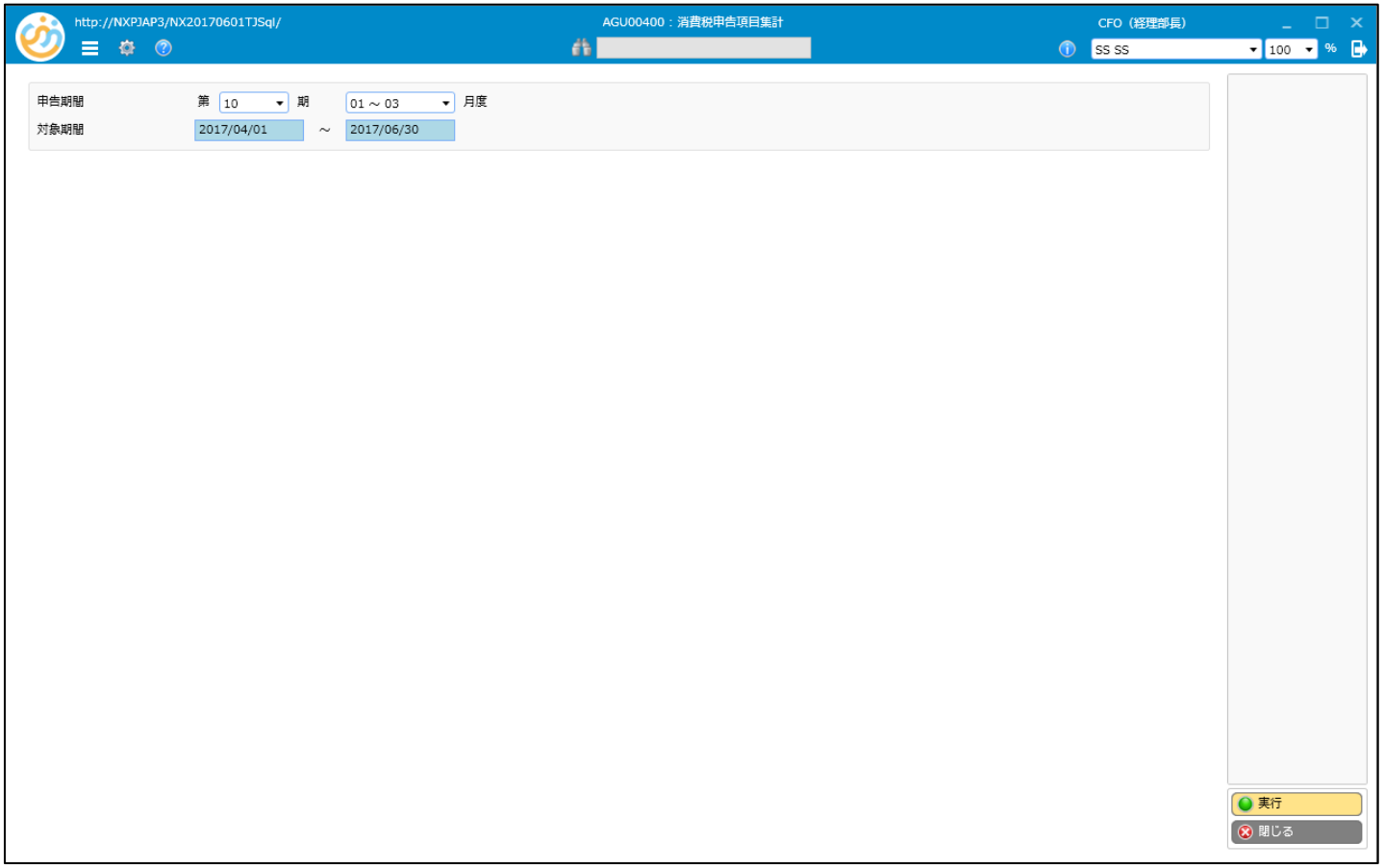


「消費税申告項目別集計条件一覧表」

©SuperStream Inc. All rights reserved.

②集計処理：消費税申告項目集計処理

1．申告期間内の仕訳金額および税額を仕訳データから抽出し申告項目別に集計
集計を行うためには、NX統合会計の「月次更新」機能で、申告期間の会計月が「締済」となっている必要があります



©SuperStream Inc. All rights reserved.

②集計処理：消費税申告項目集計処理

- 「消費税申告項目別集計条件登録」の「消費税申告項目明細入力」で、
  ［税処理コード］［内部科目コード］［科目コード］などを複数指定した場合

  → 指定したすべての集計条件に一致する仕訳明細を集計対象とします

- 仕訳明細の内容が、複数の申告項目に対する集計条件と一致する場合

  → それぞれの申告項目で集計します

- 集計金額は、税処理コードの属性（売上または仕入）による貸借判定を行って算出

  次の場合は、仕訳金額および税額の符号を反転し集計します
  - 税処理コードが売上で、貸借区分が借方
  - 税処理コードが仕入で、貸借区分が貸方

- 「消費税申告項目マスタ登録」で登録した申告項目のうち、「消費税申告項目別集計条件登録」で抽出条件が未登録のもの

  →指定期間内の全明細を集計対象とします

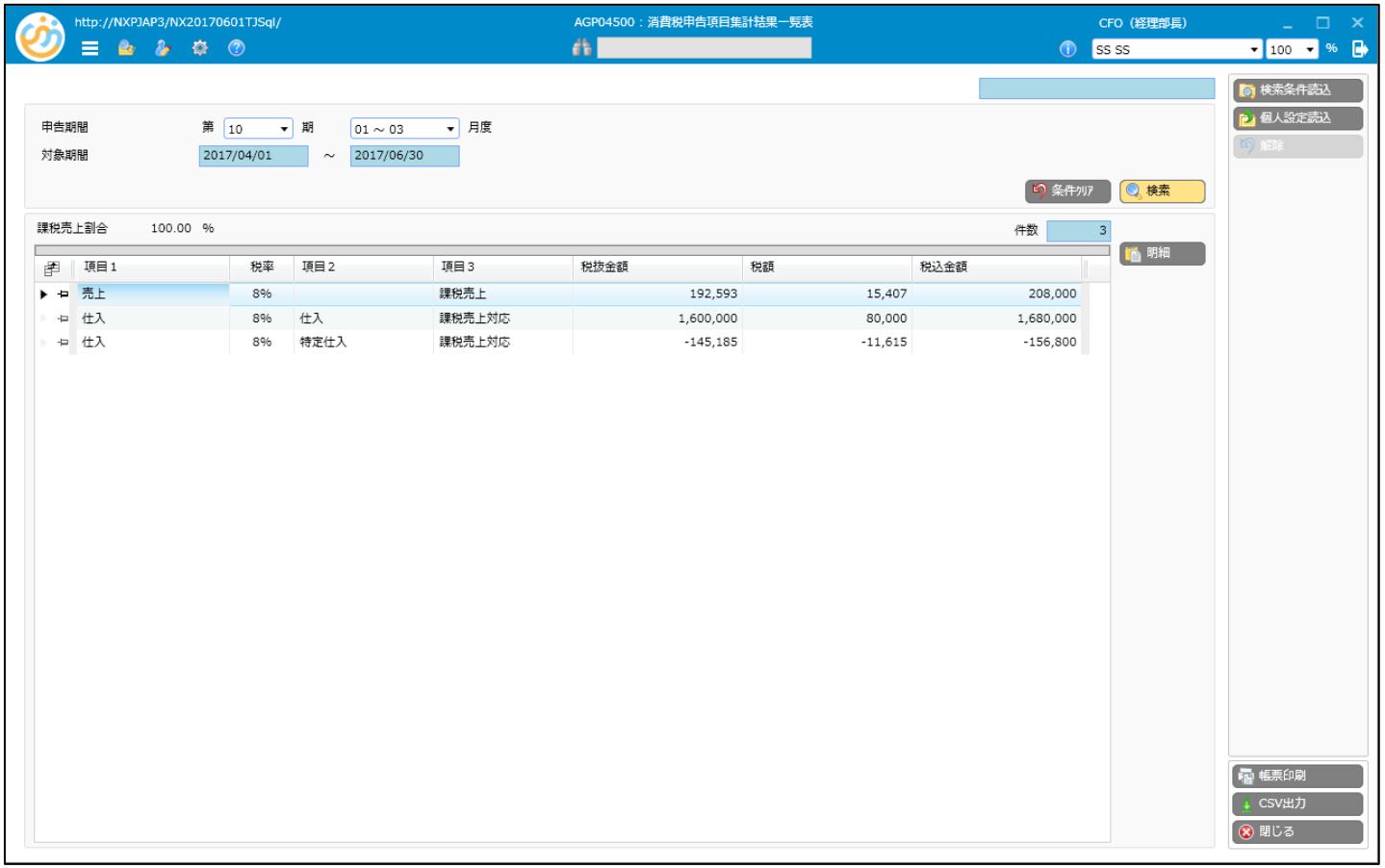
- 「消費税集計マスタ(科目グループ)登録」で「集計対象」とした科目グループの科目のみ集計対象とします

- 制度遡及区分が「C：共通」「J：国内基準」の仕訳伝票を集計対象とします

©SuperStream Inc. All rights reserved.

②集計処理：消費税申告項目集計結果一覧表

2．「消費税申告項目集計処理」での集計結果を、画面または帳票で確認
集計元の仕訳伝票の内容も確認可能

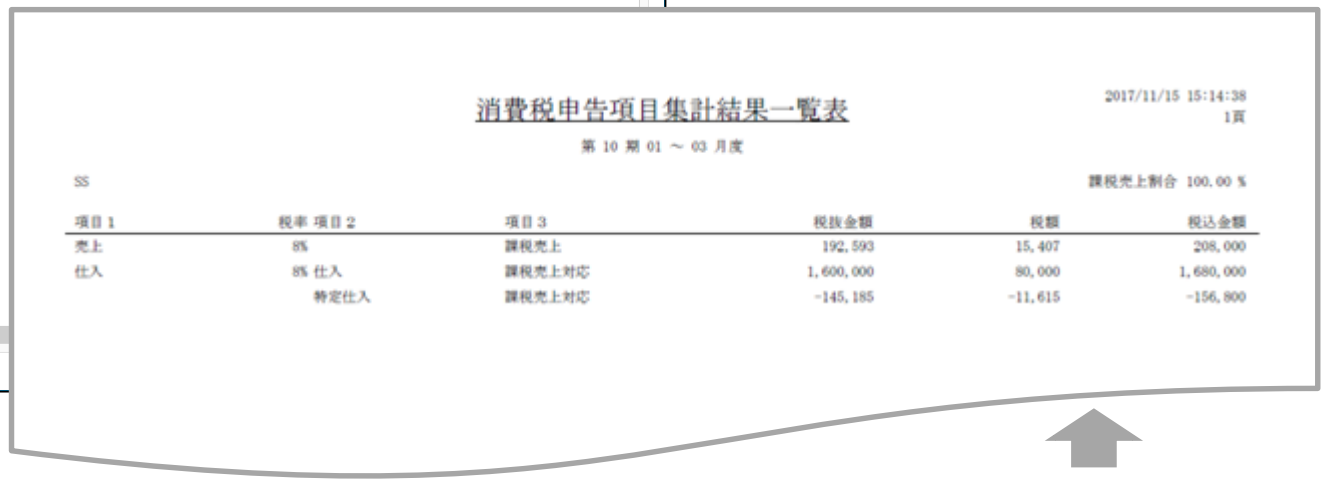


©SuperStream Inc. All rights reserved.

②集計処理：消費税申告項目集計結果一覧表

「日本語：小数点なし」帳票のみ出力　※英語帳票の出力はサポート対象外

「消費税申告項目明細」



消費税申告項目集計結果一覧表

2017/11/15 15:14:38
1頁

第 10 期 01 ～ 03 月度

SS　　課税売上割合 100.00 %

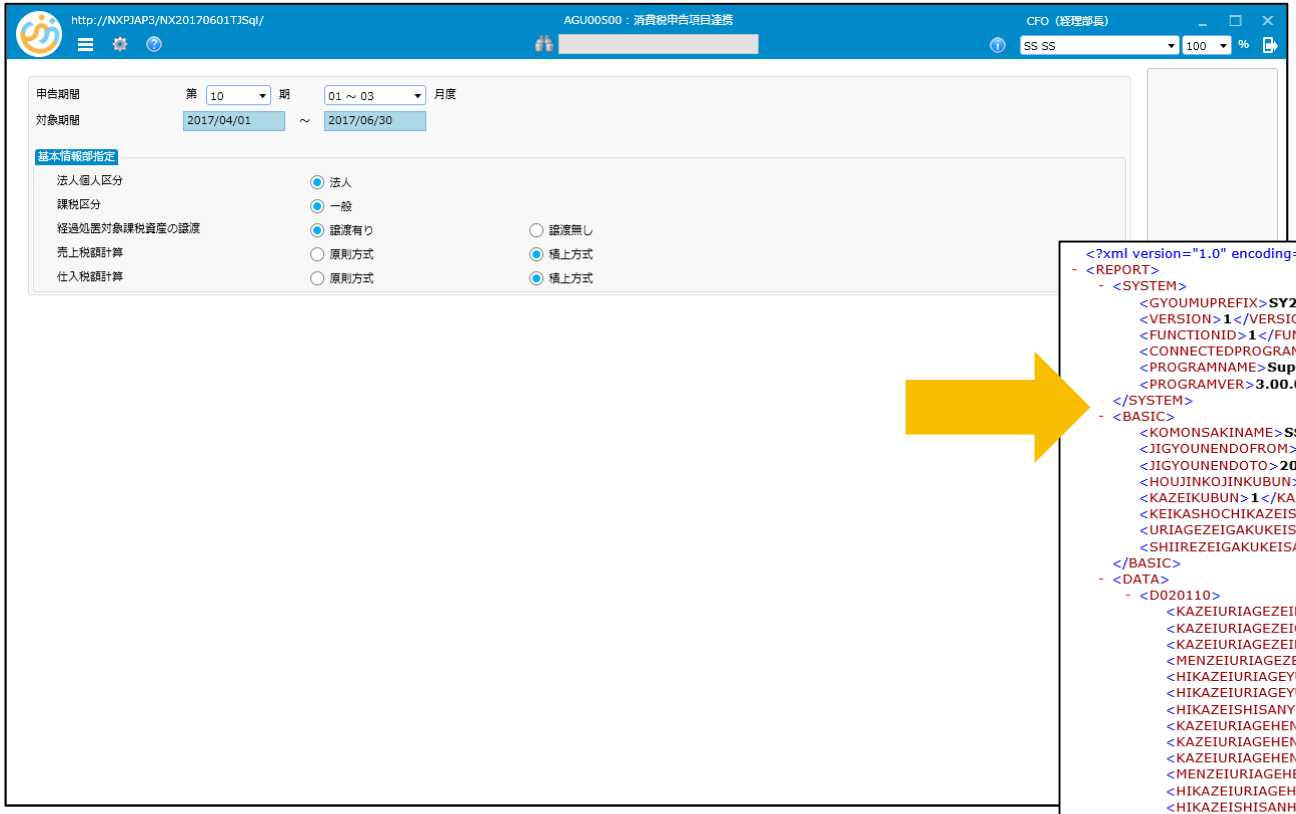
項目1	税率	項目2	項目3	税抜金額	税額	税込金額
売上	8%		課税売上	192,593	15,407	208,000
仕入	8%	仕入	課税売上対応	1,600,000	80,000	1,680,000
		特定仕入	課税売上対応	-145,185	-11,615	-156,800

「消費税申告項目集計結果一覧表」

©SuperStream Inc. All rights reserved.

③連携処理：消費税申告連携処理

「消費税の達人」に引き渡す連携データ（XMLファイル）を作成
CSVファイルでの出力も可能




```xml
<?xml version="1.0" encoding="SHIFT_JIS"?>
- <REPORT>
  - <SYSTEM>
      <GYOUMUPREFIX>SY26</GYOUMUPREFIX>
      <VERSION>1</VERSION>
      <FUNCTIONID>1</FUNCTIONID>
      <CONNECTEDPROGRAMVER>1.00.00</CONNECTEDPROGRAMVER>
      <PROGRAMNAME>SuperStream</PROGRAMNAME>
      <PROGRAMVER>3.00.00</PROGRAMVER>
    </SYSTEM>
  - <BASIC>
      <KOMONSAKINAME>SS</KOMONSAKINAME>
      <JIGYOUNENDOFROM>20170401</JIGYOUNENDOFROM>
      <JIGYOUNENDOTO>20170630</JIGYOUNENDOTO>
      <HOUJINKOJINKUBUN>1</HOUJINKOJINKUBUN>
      <KAZEIKUBUN>1</KAZEIKUBUN>
      <KEIKASHOCHIKAZEISHISAN>1</KEIKASHOCHIKAZEISHISAN>
      <URIAGEZEIGAKUKEISAN>2</URIAGEZEIGAKUKEISAN>
      <SHIIREZEIGAKUKEISAN>2</SHIIREZEIGAKUKEISAN>
    </BASIC>
  - <DATA>
    - <D020110>
        <KAZEIURIAGEZEINUKI8>192593</KAZEIURIAGEZEINUKI8>
        <KAZEIURIAGEZEIGAKU8>15407</KAZEIURIAGEZEIGAKU8>
        <KAZEIURIAGEZEIKOMI8/>
        <MENZEIURIAGEZEINUKI8>0</MENZEIURIAGEZEINUKI8>
        <HIKAZEIURIAGEYUUKAZEINUKI8>0</HIKAZEIURIAGEYUUKAZEINUKI8>
        <HIKAZEIURIAGEYUUKAIGAIZEINUKI8>0</HIKAZEIURIAGEYUUKAIGAIZEINUKI8>
        <HIKAZEISHISANYUSHUTSUZEINUKI8>0</HIKAZEISHISANYUSHUTSUZEINUKI8>
        <KAZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>0</KAZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>
        <KAZEIURIAGEHENKANZEIGAKU8>0</KAZEIURIAGEHENKANZEIGAKU8>
        <KAZEIURIAGEHENKANZEIKOMI8/>
        <MENZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>0</MENZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>
        <HIKAZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>0</HIKAZEIURIAGEHENKANZEINUKI8>
        <HIKAZEISHISANHENKANZEINUKI8>0</HIKAZEISHISANHENKANZEINUKI8>
      </D020110>
    - <D020111>
        <KAZEIURIAGEZEINUKI5>0</KAZEIURIAGEZEINUKI5>
        <KAZEIURIAGEZEIGAKU5>0</KAZEIURIAGEZEIGAKU5>
        <KAZEIURIAGEZEIKOMI5/>
```


©SuperStream Inc. All rights reserved.

④その他：新会社セットアップ

複写マスタに「消費税申告連携関連マスタ」を追加
「科目マスタ」「税処理マスタ」「会計部門マスタ」がチェックされている場合のみ、
「消費税申告連携関連マスタ」のチェックが可能となります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

⑤対象バージョン

『SuperStream-NX 2017-06-01版(Ver.2.0.20)』の前提バージョン

SuperStream-NX 統合会計 2017-06-01版(Ver.2.0.15)

※移行支援ツールは2018-06-01版での対応を予定しております

『消費税の達人』の対象バージョン

Version 1.7.1.6 (1.07.0000)

⑥対象プログラム一覧

＜変更＞

NSM00100:新会社セットアップ		

＜新規＞

AGM01600:消費税申告項目マスタ登録	AGM01700:消費税集計マスタ（科目グループ）登録
AGM01800:消費税申告項目別集計条件登録	AGP04500:消費税申告項目集計結果一覧表
AGU00400:消費税申告項目集計	AGU00500:消費税申告項目連携

©SuperStream Inc. All rights reserved.

02

SuperStream-NX 2018-06-01版（Ver.2.1）概要について

今回のNXバージョンアップのコンセプト

NXの入力機能を大幅改善

（各入力画面・経費精算）

SuperStream

従業員モバイルオプション

ANDROID iOS

経費精算のモバイル対応

- 「従業員モバイルオプション」を2018年6月に新リリース
- SuperStream専用の経費精算機能
- カメラ機能によるOCR読取や領収書データのe文書に対応
- 従業員数に応じたライセンス体系

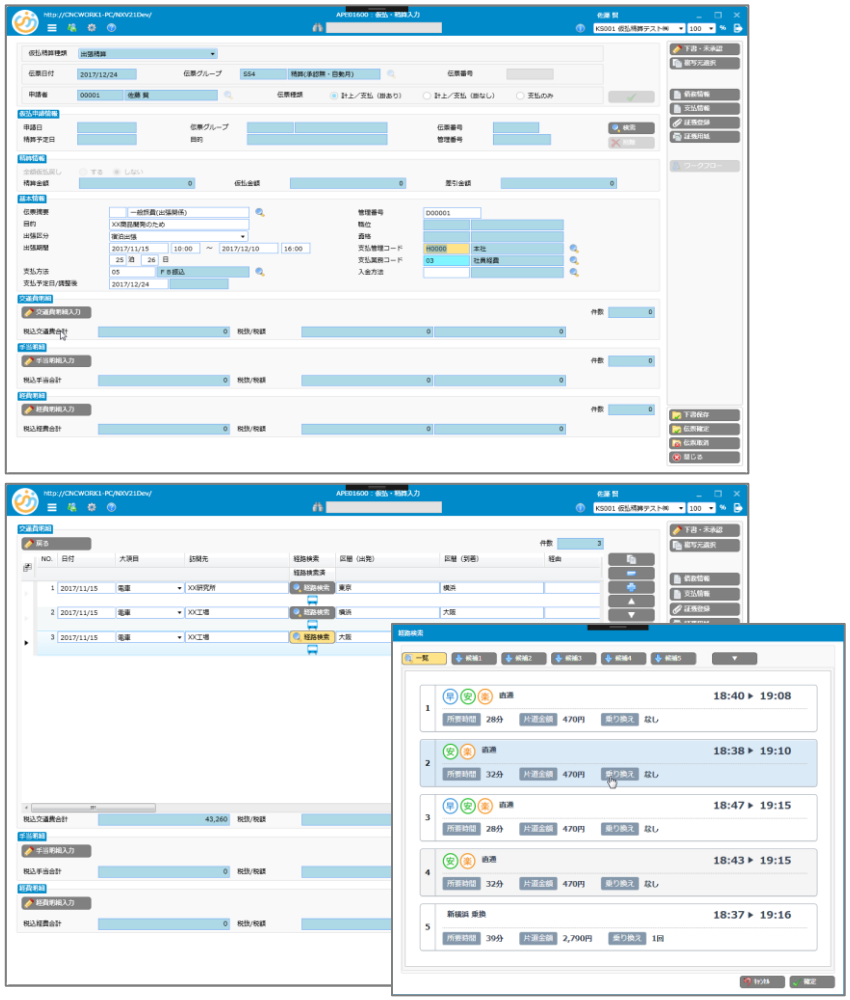
ライセンスはリリース前の5月に
製品説明会でご案内いたします

2018/6に新オプション製品

従業員向けモバイル製品をリリース

©SuperStream Inc. All rights reserved.

2018/6 統合会計の主な機能改善
経費精算機能（PC側）のリニューアル



経費精算機能をリニューアル

- NX統合会計側の経費精算機能も刷新
- 一括入力可能な操作性に機能改善
- 駅すぱあと連携の結果画面を改善
- 駅すぱあとオプションのライセンス体系も従業員数単位に見直します

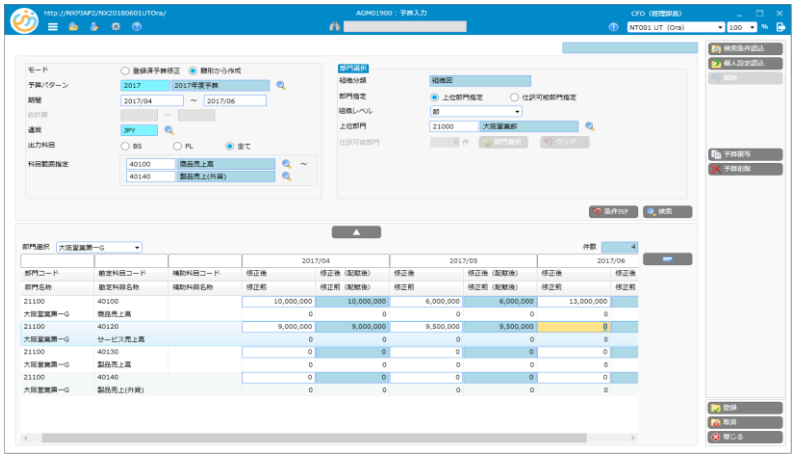
※5月の製品説明会でご案内致します

※従来の経費精算画面のメニューも利用可能です

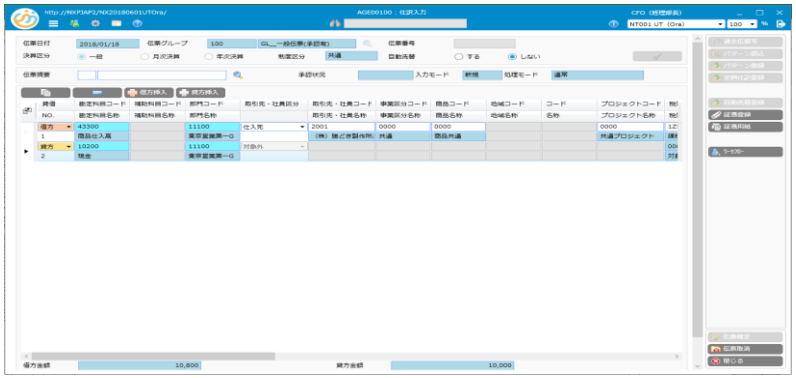
従業員向けモバイル製品をリリース

©SuperStream Inc. All rights reserved.

グリッド入力（一括入力）機能



予算登録画面



仕訳入力画面

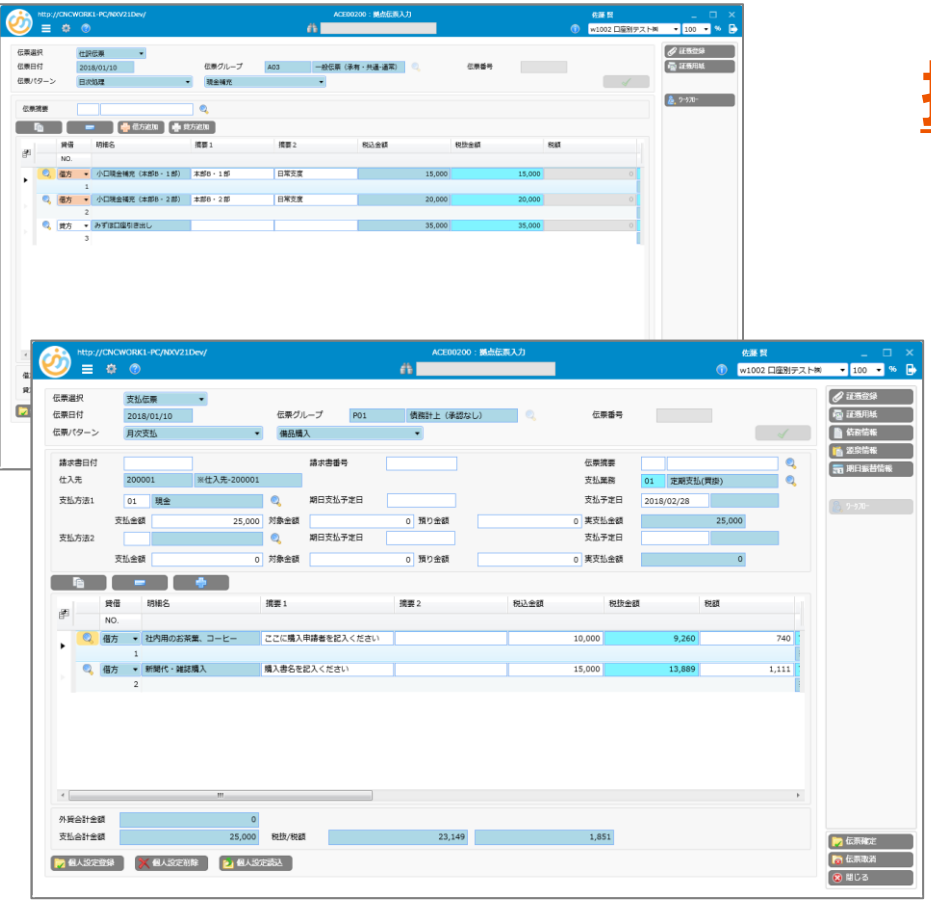
入力操作性の機能強化

- V2コンセプトである「入力/出力の抜本的な進化」の取り組み
- １件づつ入力するのではなく、グリッド上で一括入力可能に
- 「仕訳入力」（既存画面）「予算入力」（新規画面）に対応
- ユーザ単位でパーソナライズ化
- Excelからの貼り付け/出力も簡易

NX-V2の入力機能を大幅に改善

©SuperStream Inc. All rights reserved.

拠点伝票入力機能



拠点担当者向けの“摘要入力”

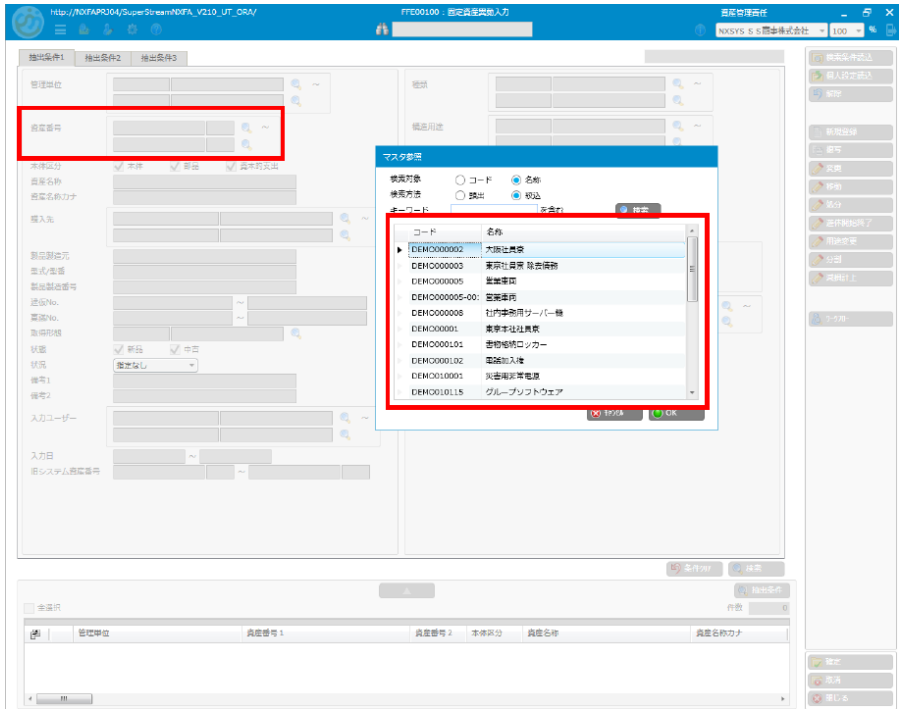
- 会計知識がない拠点担当者を想定した簡易入力機能（科目の理解は不要）
- 仕訳、支払伝票、経費に対応
  （COREシリーズのfield機能に相当）
- 担当者に入力しやすい一括入力画面
- Excelからの貼り付け/出力も簡易

ライセンス体系は別途5月の
製品説明会でご案内します

拠点担当者向けの入力画面をご用意

©SuperStream Inc. All rights reserved.

セキュリティ機能の大幅機能強化



固定資産のセキュリティ機能

- 拠点担当者を意識した
  セキュリティ機能を全面的に実装
- 主な対象機能
  固定資産/リース資産入力
  固定資産/リース資産レポート機能
  予測処理、外部連携、建設仮勘定機能

※上記の機能範囲の詳細は2018年5月の製品説明会で
ご案内致します

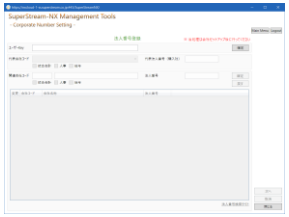
※従来は固定資産システムにセキュリティは不要とのコンセプト（考え方）でしたが、
ユーザ会・お客様のご要望により、統合会計同様に全面的に実装することとしました

固定資産のセキュリティ対応を大幅強化

©SuperStream Inc. All rights reserved.

SDS/IoAサービス機能の拡充

管理ツール
（利用許諾/法人コード）



法人コードと
ユーザキーで許諾

SuperStream 許諾後に利用可能な機能

マニュアル検索
操作説明、DB定義

E-Learning
動画の操作説明

New
製品要望
ご要望をダイレクトに

New
いいね！
製品評価

お客様の声をもっと身近に

- お客様からの製品要望や製品評価を
  V2製品から直接メーカーへ
  （ユーザ会からの要望）
- 頂いた製品要望はユーザ会を通じて
  統計情報として発表していきます

※当サービスを利用する際には
情報収集の利用許諾を頂く必要があります

管理ツールについて

・NX-V2のCDメディアに管理ツールは同封されています
・外部ネットワークへの接続が必要です
NX-V2が動作するクライアント側のNX動作フォルダに
管理ツールをコピーし、EXEを起動して下さい

各種サービスを利用するにあたり
お客様の利用許諾のご協力をお願いします

©SuperStream Inc. All rights reserved.

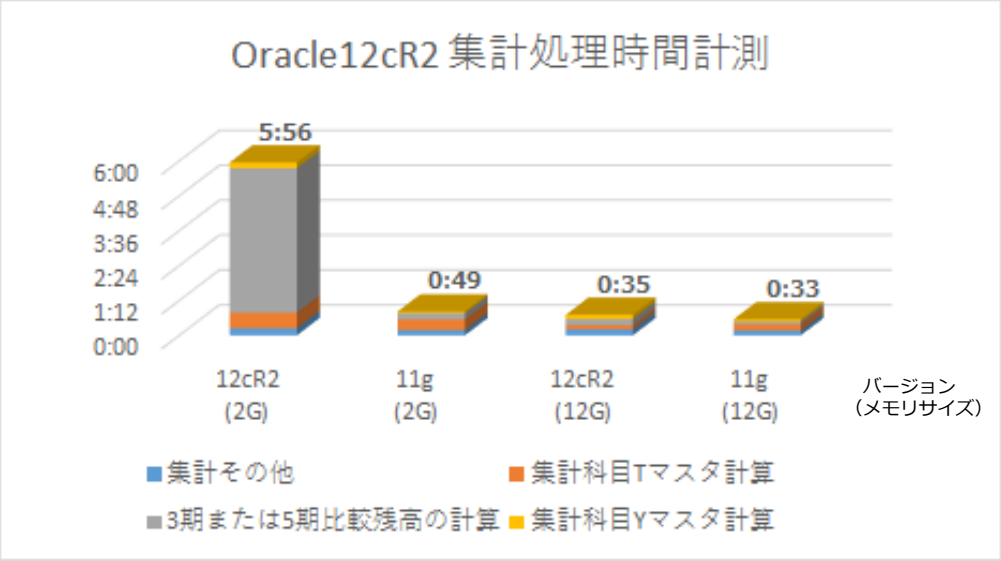
03

その他　製品関連情報

Oracle DB関連

■「Oracle 12c R2 」を2018年6月版よりサポート開始

・NXシリーズ全製品で2018年6月版よりOracleDB 12c R2をサポート開始します



参考：グループ経営管理でのPL/SQLのパフォーマンス結果

・Oracle11gと12cでは圧倒的な差がある（12c R1は非常に遅い）

・12c R2よりメモリを適切に増設すれば11g同等のパフォーマンスに近づく

・12c R1のお客様はR2へのUpgradeをお勧めします

（11.2.0.4が現時点では最速）

■Oracle 12. 1 .0.2 ご利用の場合の注意事項

・Orcale 12.1.0.2環境にOracle Patchを適用する場合は、12c R1の最新パッチを適用せず

Pactch : 26406331を適用ください。最新または他のPatchを適用すると、Oracleの不具合で

NX統合会計の帳票出力時に「ORA-1792:予期せぬエラー」発生事象が起こる可能性があります

©SuperStream Inc. All rights reserved.

サーバOS環境の変更について

Windows SVR 2016の対応とWindows SVR2008 RDPをサポート終了

NX2018-06-01版ではWindowsServer2008 リモートデスクトップ環境（以下RDP）での利用は保守対象外とさせて頂きます

主な理由：❶OS環境のメインストリーム保守が既に終了している ❷Win2008SVRでRDPのみ対応可能としていたため統一

❸Win2008 SVR とWin2008 SVR R2でRDP時の動作が違う（画面表示の幅が違う）

製品 / OS	NXシリーズ					
	統合会計 固定資産管理 建設仮勘定 スーパーI/F	証憑管理	手形管理 ファクタリング 電債	GM	Connect/ Cloud Connector	人事管理 給与管理 人事諸届・照会 退職金管理
Windows Server 2008	×	×	×	×	×	×
			2017年6月のNX-V2よりサポート対象外			
Windows Server 2008 RDP	×	×	×	×	×	○⇒× 2018年6月版より保守対応外
Windows Server 2008R2（RDP含）	○	○	○	○	○	○
Windows Server 2012 or 2012R2（RDP含）	○	○	○	○	○	○
Windows Server 2016（RDP含）	○ 2018/6/1版よりサポート対応開始					

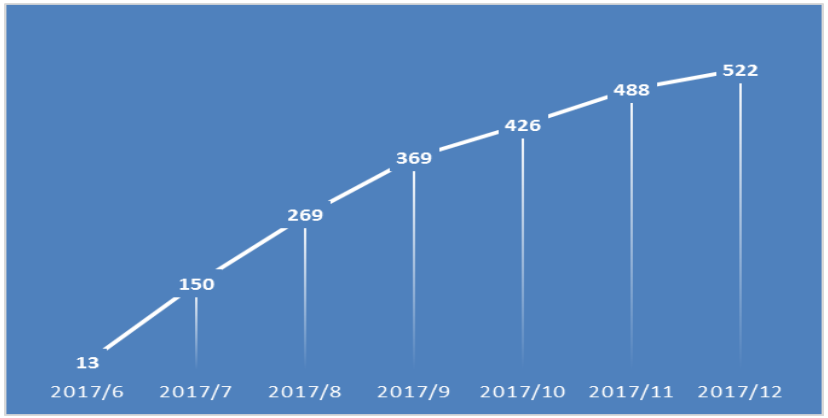
©SuperStream Inc. All rights reserved.

2019年10月より出荷はダウンロードへ

SDS
(SuperStream Download Site)

SDSからユーザが
以下を直接ダウンロード可能

- 新規プロダクト
- パッチ
- マニュアル リリースノート



V2リリース以降のSDSダウンロード実績
※SDS=SuperStream Download Site

2019年10月より
製品出荷をダウンロード方式へ

- 昨今の業界主流や物流状況を鑑み出荷形態は「ダウンロード形式」に2019年10月版より変更します
- メディア送付希望のお客様は個別発注（有料）が必要です
- SuperStream全製品/Oracle製品が対象となります（Oracleは既にメディアは有料）

**2019年10月より出荷を「ダウンロード形式」に変更し
メディア送付は別途有料とさせて頂きます**

©SuperStream Inc. All rights reserved.

04

2018年度　イベントのご案内

イベント❶
第三回 会計・財務EXPO

総務・人事・経理 ワールド 2018 内

第三回 会計・財務EXPO

- 日程 2018年7月11日～13日
- 場所：東京ビッグサイト
- 主催：リード エグジビション ジャパン

（経理向けイベントで最大規模）

- 昨年度、SuperStreamは初出展し

良質のリードを多数獲得

「会計・財務EXPO2018 」に出展します

© SuperStream Inc. All rights reserved.

イベント❷
SuperStream パートナー会（第25回）

SuperStream パートナー会

- 日時：2018年4月18日（水）
- 場所：東京コンファレンスセンター 品川
- パートナー様へ事業戦略、営業戦略、および製品戦略を伝える場
- パートナー様へ感謝と昨年実績を表彰
- 年々規模が拡大し会場確保が困難の為、2018年は**規模を見直します**

（FY2017:140社600名→80社200名規模へ）

パートナー会は規模を見直し4月に開催

©SuperStream Inc. All rights reserved.

イベント❸
SuperStream Forum 2018

13:00～（5分）	ご挨拶		
13:05～（40分）	基調講演 ※働き方改革		
13:45～（75分）	SuperStream 製品講演（KeyNote） ※製品ロードマップ、新製品発表、その他		
	製品セッション	最新ユーザ事例セッション	業務トレンドセッション
15:10～（30分）	会計	大規模事例	証憑・e文書法（経費モバイル）
15:50～（30分）	人事	NX移行事例	モバイル
16:30～（30分）	GM	先進利用事例	グローバル
17:15～	Executive Party（ユーザ向け） SSUG代表挨拶		

SuperStream Forum2018

- 日時：2018年9月 / 場所：都内
- パートナー様と弊社の共同拡販イベント

  （250社500名規模を想定）
- キーノートや各種セッションを用意
- 事例セッションはパートナー様の協賛募集

その他協賛募集

パートナー様：事例協賛、ストラップスポンサー

ロゴ・バッグスポンサー

ユーザ会：SSUGからも協賛

SuperStream Forum2018を9月に開催

© SuperStream Inc. All rights reserved.

ご清聴
ありがとうございました

©SuperStream Inc. All rights reserved.